

# 2024



## グローバル人材育成事業 SGHネットワーク 活動報告書



学校法人東洋大学

東洋大学附属牛久中学校・高等学校



2024

# グローバル人材育成事業 SGHネットワーク 活動報告書

	[巻頭言] 国際人となることを願って	6
	2024年度グローバル人材育成事業 取り組み概要	7
	2024年度実施グローバル人材育成事業一覧	9
<b>【特別報告】</b>	日本中国ティーンエイジアンバサダー 2024 日本プログラム・中国プログラム	11
<b>【授業実践報告】</b>	「グローバル探究」実践報告 哲学（高校）	18
	「グローバル探究」実践報告 哲学（中学校）	20
	「グローバル探究」実践報告 グローバルコース「グローバル探究」の設計	22
	本校における「中国語会話」授業の成果と課題	24
	「フランス語会話」授業実践報告	26
<b>【校内行事】</b>	All English Days（中学校1年生）	28
	Global Studies Program	30
<b>【生徒活動報告】</b>	高円宮杯第76回全日本中学校英語弁論大会茨城県大会	32
	英語プレゼンテーションフォーラム（中学生の部）	34
	英語プレゼンテーションフォーラム（高校生の部）	36
	東洋大学英語スピーチ／プレゼンテーションコンテスト	38
	第14回茨城県ローズ杯高校生英語ディベート大会	39
	文部科学省・外務省後援 第10回PDA高校生パラメンタリーディベート世界交流大会	41
	第10回PDA高校生即興型英語ディベート全国大会	43
	地球環境ユースサミット 2024 in KYOTO	45
	2024年度全国高校生フォーラム	47
<b>【高大連携】</b>	附属3校 高大連携プログラム SUMMER ACADEMIA 2024	49
<b>【企業等との連携】</b>	<b>【SDGs実践・探究】</b> ワインパミスを活用した大豆栽培プロジェクトへの挑戦と 「SDGs QUEST アクションアイデア優秀賞」の受賞	51
	<b>【STEAM教育講座】</b> インセプタムと連携したSTEAM教育の実施—燃料電池を題材として—	53
<b>【グローバルセミナー】</b>	牛久市・国際理解教育講座	55
<b>【受け入れ事業】</b>	2024年度 訪日団受け入れ・交流事業 (1) 台湾 (2) オーストラリア (3) フィリピン	57
<b>【海外研修】</b>	フィリピン・セブ島語学研修（高校1年生・グローバルコース）	59
	シンガポール語学研修	61
	オーストラリア・シドニー語学研修（高校2年生特進コース）	63
	カナダ・バンクーバー語学研修	65
	オーストラリア・アデレード語学研修（高校2年生・グローバルコース）	67
	オーストラリア・アデレード語学研修（中学校3年生）	69
	フィリピン英語集中研修（中学校2年生）	71
	課題解決型・ハワイ修学旅行（高校2年生・進学コース）	73
	シンガポール研修（高校2年生・中高一貫コース）	75
<b>【国内研修】</b>	British Hills 語学研修	77
<b>【成果と課題】</b>	2024年度本校グローバル人材育成事業の成果と課題	79

### ◆ 日本中国ティーンエイジアンバサダー 2024 (日本プログラム・中国プログラム)

〔日本プログラム〕 2024年 7月15日(月)～20日(土)

〔中国プログラム〕 2024年10月14日(月)～20日(日)

P.11へ



### ◆ フィリピン・セブ島語学研修 (高校1年生・グローバルコース)

2024年5月26日(日)～6月2日(日)

P.59へ



### ◆ 訪日団受け入れ・交流事業

〔台湾・嘉義市 訪日団〕 2024年7月9日(火)

〔オーストラリア・アデレード市 訪日団〕 2024年9月24日(火)～28日(土)

〔フィリピン・セブ市 訪日団〕 2025年1月28日(火)～2月1日(土)

P.57へ



## ◆ 附属3校 高大連携プログラム SUMMER ACADEMIA 2024

2024年8月19日(月)・20日(火)

P.49へ



## ◆ 牛久市 国際理解教育講座

(第1回) 2024年6月7日(金) (第3回) 2024年11月21日(木)  
(第4回) 2025年1月17日(金)

P.55へ



## ◆ 課題解決型・ハワイ修学旅行(高校2年生・進学コース)

2024年11月10日(日)～14日(木)

P.73へ



## ◆ Global Studies Program

2024年10月15日(火)～19日(土)

P.30へ



## ◆ シンガポール語学研修

2024年7月30日(火)～8月4日(日)

P.61へ



## ◆ フィリピン英語集中研修(中学校2年生)

2024年11月10日(日)～16日(土)

P.71へ



# [巻頭言] 国際人となることを願って

校長 金 澤 利 明

2024年度に本校は創立60周年を迎えました。還暦を迎えた本校は新たな歴史を歩み始めていきます。本校の教育の特色の一つにグローバル教育の展開があります。国際的な視野を広げ「地球規模で思考のできる人材の育成」に力を注いできました。

今年度夏の終わりに「第29回全国私立大学附属・併設中学校・高等学校教育研究集会」（略称 附属校サミット）を本校で開催しました。研究主題は「アフターGIGA時代の哲学と探究 ―なぜ、なぜ、なぜ!の追求―」でした。アフターGIGA時代を生き抜く生徒たちに必須となる教育とは何か、本校の建学の精神に基づいた「哲学」を基盤として、探究的な学習活動、そしてグローバル教育を展開してきた成果を報告することができました。

さて、近年の温暖化に伴う様々な気候変動への対応、SDGs、地球環境への配慮に加えて、国際紛争への対応等々、これからの国際社会、地球全体を考えていかねばならない課題は山積しています。

世界的なコロナ禍もようやく収束しましたが、新型コロナもたらした世界的なパンデミックによって、皮肉にもグローバル化の進展、世界は一つ、一体化していることが実感されました。

現在の国際情勢を見れば、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻は、すでに3年を経過し、ロシアの兵力では足りずに、他の国の兵士が何の事情も分からず動員されるようになり、さらに泥沼化しています。また、東地中海・西アジア地域、いわゆる中東世界では、イスラエルとパレスチナの紛争は1年を超え、停戦協定は結ばれましたが予断は許さない状況です。隣接するシリアやヨルダンとの関係など情勢は混沌としています。この地域の政治情勢の不安定化は、石油価格の上昇など我々の日常生活にも様々な影響を及ぼしてきます。

他の国の状況はどうでしょう。フランスやドイツ、韓国の政治情勢も混乱しています。その中で欧米の主要国等においても自分の国の利益や、自国民のこののみを最優先して、国際的な協調を避けるような風潮が強くなりつつあります。

学祖 井上円了先生は、19世紀末から24年間で3回世界周遊の旅に出かけました。最初の欧米視察では「欧米各国のことは日本に安座して想像するとは大いに異なるもの（海外のことは日本にいて想像するだけではなく、実際に見て体験しないとわからない）」として、「体感」の必要性を実感され、現実世界を活きたテキストとして学び、活きた学問とする「活書活学」を提唱されました。

この円了先生の精神を踏まえて、これまで本校では、海外での見聞を広める経験を重視し、現地での語学研修の他、国際交流等を積極的に展開してきました。また、数年にわたるグローバル教育の取り組みの成果は、年度ごとにこのように報告書としてまとめてきました。今年度のグローバル人材育成事業の取り組みとして、授業実践、校内行事、生徒活動報告、高大連携、企業等との連携、海外生徒の受け入れ、海外研修、国内研修などを報告いたします。こういった取り組みから豊かな国際感覚の醸成を進めて、文化の多様性の尊重、外国人等他者への敬意と、共生社会の中で積極的に社会的役割を果たせる人間となることを目指しています。

今後、グローバルコースの学習内容の改善や、グローバルコースを中心とした本校のグローバル教育の在り様についても見直すことで新たな取り組みを進めていこうと考えています。このことは、本校での学びや、体験活動の中から特に「世界を読み解く力」を身に付け、主体的に学び、これからの社会をたくましく生き抜くグローバル人材となり、「地球規模で思考のできる真の国際人」となってほしいと願っているからです。

## 2024年度グローバル人材育成事業 取り組み概要

主事 石塚 俊文

### 1 育成を図るグローバル人材像

- ・伝統文化に裏付けられた日本人としてのアイデンティティを有する人物
- ・世界の多様な文化を理解し、彼らと共生できる能力を有する人物
- ・地球的課題の本質を見抜く力及び解決を主導する能力を有する人物
- ・世界の人々と協調しながら情報を共有し、意見を発信する能力を有する人物

### 2 対象生徒

- 【高校】グローバルコース3クラス107名（3年1クラス35名、2年2クラス33名、1年1クラス39名）  
特別進学コース 7クラス257名（3年2クラス78名、2年2クラス64名、1年2クラス115名）  
中高一貫コース 6クラス179名（3年2クラス40名、2年2クラス73名、1年2クラス66名）
- 【中学校】6クラス196名（3年2クラス66名、2年2クラス64名、1年2クラス66名）

### 3 事業の目標

次の7つの資質・能力を持つ生徒を育成する。

- ①主体性・積極性      ②異文化理解      ③課題探究・解決能力      ④ICTスキル
- ⑤外国語能力      ⑥プレゼンテーション能力      ⑦コミュニケーション能力

### 4 事業の内容「学校設定科目『グローバル探究』で育成するグローバル人材」

教科の垣根を超えたグローバル人材育成のための総合的な探究（学習）の時間「グローバル探究」に置かれた4つの科目は、アクティブラーニング、グループワークを中心とした方法で、ICT機器を積極的に利用して行われている。2020年度に全教室にWi-Fiが完備され、2022年度には、中1～高3全員がChromebookを一人一台所有し、授業で活用している。

- ①国際理解・教養…世界の多様な文化について学び、異文化理解を進めるとともに、日本人の特性や日本が抱えている様々な問題について考え、日本人としてのアイデンティティ確立の一助とする。
- ②哲学…東洋大学の創設者・井上円了の「諸学の基礎は哲学にあり」の教えに基づき、哲学者の思想を通して、哲学的なものの見方や考え方を養う。
- ③キャリア…大学で研究される学問分野、社会における様々な職業について理解し、海外にも目を向けて高校卒業後の進路について考える。
- ④課題研究…各生徒が研究テーマとして現代社会の課題を1つ取り上げ、その原因や解決方法を考察する。課題研究の成果についてはプレゼンテーションを行い、報告書を作成する。

### 5 課題研究テーマ「望ましい未来の創造」

インターネットの普及や交通機関の発達により、急速にグローバル化が進展し、国内外の様々な人々の価値観に触れることができるようになった現代社会では、よりよい社会のあり方を再定義し、その実現を目指すための未来洞察力、課題発見力、他者と協調する力が必要となる。そこで、本校では生徒が取り組む課題研究のテーマを「望ましい未来の創造」とし、研究活動を進める。また、こうした人材を育成するための教育システムの構築及び、教員が指導・評価するための観点の開発を行う。

(1) 国内外の高等学校・大学・国際機関等との連携

- ①東工大研究室との連携による未来創造プロジェクト

未来創造プロジェクトでは、現在の社会や市場の延長線上である未来の社会がどのようなものであって欲

しいかという「望ましい未来」を創造することを重要なアウトプットとし、未来の社会を共創する未来洞察ワークショップを実施する。

②東洋大学教員・院生との連携によるゼミの実施

研究活動に対する生徒のモチベーションを維持し、成果物をより良いものにするためには、中期的な目標の設定及び、継続的な研究成果報告の場が必要になる。そのため、東洋大学と連携して教員・院生を対象とした研究報告を年に3回程度のペースで実施する。

(3) 実践的な方法を用いた学習活動

①グループワークの実施…日々の探求活動は、生徒4～5人程度で構成されたグループで行う。各グループには担当教員がついて、毎月の目標及びグループメンバーの役割について確認する。教員は生徒の進捗状況を確認しながら、研究活動が円滑に進むようにフィードバックを行う。本校では生徒が一人一台Chromebookを所有しており、Google Document や Spreadsheet を通じて共同作業を行うことができる。

②プレゼンテーションの実施…本校の課題研究では、定期的に自分たちの研究の進捗状況を他者に報告する活動をカリキュラムの中に入れている。定期的な機会としては、東洋大学の教員・院生を対象とした研究進捗プレゼンテーションがある。また、10月-11月には、留学生又はシンガポール大学の教員・学生に向けた研究プレゼンテーションを行い、英語での研究発表にも挑戦する。

③論文の執筆…高校2年次には、3月までに英語・日本語での研究原稿の執筆を行う。

(4) 校内研修と校外発表…SDGs など人類の課題に関する学習と英語研修を融合した英語インタラクティブフォーラム東洋カップ、Global Studies Program を校内で実施する。その成果を生かし、校外の研究発表会、ディベート大会、外国語スピーチコンテストに積極的に出場する。

(5) 海外研修…オーストラリア研修・シンガポール研修において課題研究に関する報告を英語で行う。

6 事業の評価方法

(1) 自己評価

①～⑦の能力について、次の指標や分析によって、事業成果の評価を行う。

①主体性・積極性…〔指標〕任意参加の海外研修数、国内語学研修(夏休み、冬休み、春休み)への参加生徒数、WWL・SGH×探求甲子園など外部での研究成果発表件数、語学やディベートなど外部コンクールへの参加人数、海外留学数、海外大学への進学者数

②異文化理解…・海外研修行事の前後に行うルーブリック自己評価、生徒宅でのホームステイ受け入れ数

③課題探究・解決能力…ICT 機器による共同作業の操作記録及び各グループの発話内容を記録し、「グループワーク」と「発話内容」を軸としたルーブリックを作成、それを利用した評価を行う。

④ ICT スキル…生徒へのアンケート結果分析、ICT を活用した提出物、発表の評価

⑤外国語能力…英検2級(CEFR B1 レベル)以上の合格者数、外国語コンクール(英語・中国語・フランス語)の出場者数、入賞者数

⑥プレゼンテーション能力…校内で実施する課題研究プレゼンテーションや提出された論文・報告書の評価・生徒各自によるルーブリック自己評価の分析

⑦コミュニケーション能力…定期考査において実施するスピーキングテストの結果、海外研修、海外生徒受け入れ事業への参加生徒によるルーブリック自己評価の分析

(2) 学外委員による評価

保護者、同窓会、学識経験者、産業界、関係機関、教職員その他校長が必要と認める者をもって組織する学校評価委員会において、本校のグローバル人材育成事業について評価する。

(3) 評価の公表方法

グローバル人材育成事業報告書(2015年度より年1回発行)に掲載し関係機関に配布する。また、学校ホームページにて公表する。

# 2024 年度実施グローバル人材育成事業一覧

【授業実践】			(参加生徒数)	
項目	期日	対象	中学	高校
グローバル探究	通年	中学校、高校特進・グローバル・中高一貫コース	196	543
中国語	通年	高校グローバルコース・選択者	-	111
フランス語	通年	高校グローバルコース・選択者	-	27

【校内行事】				
(参加生徒数)				
項目	期日	対象	中学	高校
All English Days	11/14(木)・15(金)	中学校1年生	66	-
Global Studies Program	10/15(火)・19(土)	高1中高一貫コース	-	63
英語インタラクティブフォーラム東洋カップ	中止(インフルエンザ流行)	中学校、高1・2グローバル・中高一貫コース	196	211

【生徒発表・コンクール等参加】(英語スピーチ、プレゼン)				
(参加生徒数)				
項目	期日	会場	中学	高校
英語プレゼンテーションフォーラム(中学生の部) ①牛久市大会 ②県南大会	①7/17(水)②8/2(金)	①本校 ②県南生涯学習センター	5	-
英語プレゼンテーションフォーラム(高校生の部) A部門	8/21(水)	つくば国際会議場	-	5
高円宮杯第76回全日本中学校英語弁論大会茨城県大会	9/30(月)	県教育研修センター	1	-
東洋大学英語スピーチ/プレゼンテーションコンテスト2024	11/23(土)	東洋大学白山C	-	2

【英語ディベート】				
項目	期日	会場	中学	高校
第5回フラワercup高校生英語ディベート大会	4/14(日)	オンライン	-	8
高校生英語ディベート Sprinter Cup 2024 Online 大会	6/2(日)	オンライン	-	8
第5回高校生英語パラメンタリーディベート連盟新芽杯	6/16(日)	オンライン	-	8
PDA 全国中学校 即興型英語ディベート合宿・大会2024	7/14(日)	オンライン	9	-
第29回全国中学・高校ディベート選手権 地区予選	7/14(日)・15(月)	渋谷教育学園幕張中学・高校	4	-
英語ディベート 関西地区交流会	7/31(水)	近江兄弟社高校	-	11
PDA 全国中学校・高校 即興型英語ディベート合宿・大会2024	8/2(金)・3(土)	オンライン	-	9
第4回 高校生英語ディベート南関東ブロック(広域)大会	8/18(日)	品川女子学院	-	7
2024 関西高校生英語ディベート大会(広域大会/チャレンジカップ)	8/25(日)	近江兄弟社高校	-	6
第14回全国中学生英語ディベート大会	9/16(月)	オンライン	4	-
第6回高校生英語ディベート大会 Make Friends Cup in Chuo University	10/13(日)	中央大学多摩C	-	8
2024 年度高校生英語ディベート広域大会(東海ブロック主催)	10/14(月)	オンライン	-	8
第14回茨城県ローズ杯高校生英語ディベート大会	10/27(日)	本校	-	12
第28回関東甲信越地区中学・高校秋季ディベート大会	11/23(土)	女子聖学院中学高校	8	-
第10回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会2024	12/24(火)・25(水)	東京大学	-	3
第10回 PDA 高校生即興型英語ディベート世界交流大会	1/23(木)・25(土)	ホテル日航関西空港	-	3
第7回茨城県パラメンタリーディベート大会	1/26(日)	日立一高	-	9
第17回ウィンターカップ全国高校生英語ディベート大会	2/9(日)	伊奈学園総合高校	-	12
日本高校生パラメンタリーディベート連盟 プレ4国九州オープン 2025	2/22(土)	オンライン	3	6
日本高校生パラメンタリーディベート連盟 四国九州オープン 2025	3/8(土)・9(日)	オンライン	3	6
第7回日本中学生パラメンタリーディベート大会	2/23(日)	オンライン	6	-
第8回 PDA 中学生即興型英語ディベート全国大会	3/16(日)	オンライン	3	-
ASCEND CUP	3/16(日)	オンライン	-	6
第26回関東甲信越地区中学・高校春季ディベート大会	3/23(日)	女子聖学院中学高校	4	4

【中国語スピーチ】				
項目	期日	会場	中学	高校
第42回全日本中国語スピーチコンテスト第22回茨城県大会	10/19(土)	駿優教育会館	-	7
【フランス語スピーチ】				
項目	期日	会場	中学	高校
第18回 東日本高校生フランス語スケッチコンクール	11/16(土)	東京日仏学院エスパイマージュ	-	4
第13回 東日本高校生フランス語暗唱コンクール	3/9(日)	慶應義塾大学三田C	-	2

【課題研究発表等】				
項目	期日	会場	中学	高校
地球環境ユースサミット in KYOTO 京都・宮津サミット	8/8(木)・10(土)	府立青少年海洋センター	-	3
2024 年度全国高校生フォーラム(英語発表)	12/15(日)	国立オリンピック記念青少年総合センター	-	3
SDGs QUEST みらい甲子園(茨城県大会2位・アクションアイデア優秀賞)	最終審査2/3(月)	プレゼン動画審査	-	6
第27回げんでん科学技術振興事業(助成校指定及び大賞受賞)	11/14(木)	成果報告書審査	-	2

【高大連携】				
(参加生徒数)				
項目	期日	会場	中学	高校
2024 サマーアカデミア	8/19(月)・20(火)	東洋大学 白山・川越・朝霞C	-	66
高大連携アチーブングリッシュ大学入学前教育	1/27(月)・31(金)	本校教室	-	225

【企業等との連携】			(参加生徒数)	
項目	期日	会場	中学	高校
ユニクロ「届けよう、服のチカラ」プロジェクト	7～10月	本校	66	618
ワインパミスを活用した大豆栽培プロジェクト	9月～継続中	本校	-	6
STEAM 教育講座	12/9(月).16(月)-18(水)	本校教室	-	606

【グローバルセミナー（講演会・特別授業）】			(参加生徒数)	
項目	期日	会場	中学	高校
台湾フェア	6/18(火)	本校マルチパーパスホール他	-	112
台湾留学セミナー	2/7(金)	本校レクチャールーム	-	7
フランス語出前講座	11/8(金).12/13(金).3/7(金)	本校教室	-	37
牛久市・国際理解教育講座	6/7(金).11/21(木).1/17(金)	牛久市中央生涯学習センター	-	107
キャリアセミナー「国際機関で働こう！」	3/10(月)	本校講堂	-	606

【受け入れ事業】(訪日団受け入れ)				
項目	受入期間	受入数	中学	高校
台湾中高生受け入れ事業	7/9(火)	17	-	17
日本中国ティーンエイジアンバサダー日本プログラム	7/15(月)-20(土)	10(ホームステイ)	-	10
オーストラリア・アデレード市高校生受け入れ事業	9/24(火)-28(土)	18(ホームステイ)	-	18
フィリピン・セブ市高校生受け入れ事業	1/28(火)-2/1(土)	39(ホームステイ)	-	35

(中・長期留学生受け入れ)				
項目	受入期間	受入数	中学	高校
デンマーク高校生受け入れ	8/26(月)-3/19(水)	1	-	-

【海外研修】			(参加生徒数)	
項目	期日	研修地	中学	高校
フィリピン・セブ島語学研修(高1・グローバルコース)	5/26(日)-6/2(日)	セブ島	-	37
ニュージーランド6週間研修	7/20(土)-8/31(土)	パーマストンノース	-	7
シンガポール研修	7/30(火)-8/4(日)	シンガポール	-	14
カナダ・バンクーバー語学研修	8/7(水)-19(月)	バンクーバー	-	13
オーストラリア語学研修(高2・特進コース)	8/5(月)-14(水)	シドニー	-	62
日本中国ティーンエイジアンバサダー中国プログラム	10/14(月)-20(日)	北京	-	10
オーストラリア語学研修(高2・グローバルコース)	11/3(日)-16(土)	アデレード	-	32
オーストラリア語学研修(中3)	11/3(日)-16(土)	アデレード	60	-
課題解決型ハワイ修学旅行(高2・進学コース)	11/10(日)-14(木)	ハワイ・オアフ島	-	89
フィリピン英語集中研修(中2)	11/10(日)-16(土)	パナイ島イロイロ	60	-
シンガポール研修(高2・中高一貫)	12/12(木)-17(火)	シンガポール	-	67
オーストラリア語学研修(牛久市姉妹都市交流事業)	3/4(火)-16(日)	オレンジ	-	16
オックスフォード研修	3/9(日)-24(月)	オックスフォード	-	9

【海外留学】(1年留学※今年度出発)			(参加生徒数)	
国・都市	期日	現地校	中学	高校
カナダ・パウエルリバー	8/31(土)-2025/6/30(月)	Brooks Secondary School	-	1
(ターム留学)				
オーストラリア・アデレード	1/27(月)-4/7(月)	Golden Grove High School	-	2

(トビタテ！留学 JAPAN)				
国・都市	期日	現地校	中学	高校
アメリカ・サンタバーバラ	11/24(日)-1/18(土)	EF International Language Campus - Santa Barbara	-	1
イギリス・カンタベリー	1/11(土)-3/29(土)	The Archbishop's School Canterbury	-	1

【国内研修】			(参加生徒数)	
項目	期日	研修地	中学	高校
課題解決型修学旅行(高2進学・スポーツサイエンスコース)	11/10(月)-13(木)	沖縄本島	-	324
ブリティッシュヒルズ語学研修	1/5(日)-7(火)	福島県 British Hills	-	45

# 日本中国ティーンエイジアンバサダー 2024 日本プログラム・中国プログラム

主事 石塚 俊文 (地理歴史・公民科)

期 日：〔日本プログラム〕

2024年7月15日(月)～20(土)

〔中国プログラム〕

2024年10月14日(月)～20(日)

場 所：〔日本プログラム〕東京都・茨城県

〔中国プログラム〕北京市

参加者：生徒10名(高校1年生4名、2年生5名、3年生1名)、引率1名(金澤 利明 校長)

主 催：公益財団法人イオン1%クラブ



## 1. 目的

- ①日本と中国の高校生がお互いの国の良さを深く理解し、未来の日中友好促進の礎を築く。
- ②海外の中学生・高校生と積極的に交流し、互いの文化や考え方について知るとともに、相手を尊重しつつ自分の意思を伝えることのできるコミュニケーション能力を養う。

## 2. 内容

日本(4校40名)と中国(4校40名)の高校生が互いの国を訪問し、学校単位でペアとなり、「表敬訪問活動」「歴史・文化活動」「交流活動」の3つの活動を行う。

<交流校組み合わせ>		
東洋大学附属牛久中学校・高等学校(茨城県)	↔	北京師範大学第二附属中学(北京市)
東京学芸大学附属高等学校(東京都)	↔	北京十一学校(北京市)
立命館守山中学校・高等学校(滋賀県)	↔	長沙博納第二附属中学(湖南省)
神戸市立葺合高等学校(兵庫県)	↔	益陽市第一中学(湖南省)

### (1) 日本プログラム日程

月日	日程	宿泊
7/15(月)	品川プリンスホテル15:00集合、オリエンテーション	ホテル
7/16(火)	表敬訪問(首相官邸)、国会議事堂、外務省レクチャー、中国大使館表敬訪問・歓迎会	ホテル
7/17(水)	歴史・文化活動(日本科学未来館、国立競技場ツアー、浅草散策)	ホテル
7/18(木)	地域PR活動(弘道館、偕楽園、牛久大仏)、中国高校生ホームステイ開始	ホームステイ
7/19(金)	1・2限：歓迎集会・キャンパスツアー等、3・4限：授業体験、5・6限：交流活動	ホームステイ
7/20(土)	ホストファミリーと交流、中国生徒は本校16:50集合またはホテル18:30集合	

### (2) 中国プログラム日程

月日	日程	宿泊
10/13(日)	前泊(ヴィラフォンテーヌグランド羽田空港)	ホテル
10/14(月)	8:55羽田空港発(NH961)、12:00北京空港着、14:00ホテル到着、オリエンテーション	ホテル
10/15(火)	表敬訪問(北京市政府)、三大文化建築見学、日本大使館表敬訪問・歓迎会	ホテル
10/16(水)	歴史・文化活動(故宮、榮宝齋、前門大街・胡同周辺散策)	ホテル
10/17(木)	歴史・文化活動(万里の長城 八達嶺)、本校生ホームステイ開始	ホームステイ
10/18(金)	学校訪問、授業体験	ホームステイ
10/19(土)	地域PR活動、ホテル16:00集合、フェアウェルパーティー	ホテル
10/20(日)	15:10北京空港発(NH962)、19:35羽田空港着、解散	

### 3. 成果と課題

#### (1) 日本プログラム 事後アンケート結果 (回答数 10)

①ホームステイ受け入れをしてどう感じましたか。(5段階評価)

5 良かった 8名 4 やや良かった 2名 (3 普通、2 やや良くなかった、1 良くなかったは 0名)

②ホームステイ受け入れ感想 (抜粋)

- \*一緒に自分の家の周りを散歩したり、母の料理を振る舞ったり、私だけでなくペアの子も楽しんでくれた。
- \*ホームステイを通してお互いが何を話したいかをだんだん理解することができるようになった。工夫して何とか伝えることもありました、伝えることが大切ということを知ることができた。
- \*ペアが持ってきてくれたお土産や話で中国の文化に触れられた。でも食の好みや生活のリズムがわからなかったから相手にとって快適だったかどうか心配だった。
- \*お風呂に対する意識が異なる部分があって大変でした

②日本中国ティーンエイジアンバサダー日本プログラムの満足度。(5段階評価)

5 満足 10名 (4 やや満足、3 普通、2 やや良くなかった、1 良くなかったは 0名)

#### (2) 中国プログラム 生徒感想

##### 「小大使活動を通じて感じたこと」

中尾 莉空 (高校3年・グローバルコース)

私は祖父が中国にルーツを持っていたため、中国に対しては悪い印象はなかった。しかし、日本でニュースを見ていると、反中とも言えるような報道の仕方や表現を度々目にする。そこで私は、日本と中国で報道の仕方に差が出ているのではないかと感じた。

北京首都空港に着くと大気は黄色いスモッグに覆われ、ユーラシア大陸に降り立ったのだと改めて実感する。しかし、長府宮に着き、ペアと再会すると日本で過ごした思い出が蘇る。翌日の表敬訪問では、北京市人民政府や外交部などといった一般人は立ち入ることの出来ない場所を訪れることが出来た。特に日本大使館では日本学生代表として日中友好宣言をさせていただき、活動に携わっている多くの人の前で日中の交流促進に向け、努力し続けることを誓った。故宮や万里の長城に行ったことで、中国古来の歴史に触れることができ、私達がこれからの歴史を創っていくのだという責任と誇りを強く感じる事が出来た。

ホームステイ当日、ホストマザーは花束を持って学校で私達を待っていてくれた。そして近くの広東料理店で腹十二分目まで食べさせていただいた。中国ではゲストに対して食べきれないほどの量のご飯を提供することがマナーとされており、日本のもったいない精神とは違うのだと感じた。ホストファミリーは中国語しか話せないため、家では基本的に中国語での会話となった。3年間学び続け習得してきた単語や文法を思い出しながら会話をすることで、自分の自信や足りないところを把握することが出来た。

北京師範大学第二附属中学では、書道、八極拳、ダンスなどを体験をした。クラスでは中国語と英語を交えて日本の文化について紹介した。放課後は他のペアと一緒に景山公園に夜景を見に行っった。高台からみる故宮は先日見た景色とは一風変わっており、北京の街並みが同心円状にきれいに並んでいることを実感した。

最終日の歓送会では日本と中国両国で共に過ごした友達との別れに数多くの生徒が涙した。最初は不安や恥ず



かしさでうまく話せなかったが、今ではそれが考えられえないくらいの関係であると言えよう。その時に披露したソーラン節でその寂しさを埋めようとしたが、私達の深い絆はその踊りでは吹き飛ばせるものではなかった。翌日、私達が空港に到着すると、私達のペアがサプライズ登場してくれていた。まさかの出来事に困惑と驚きと喜びでいっぱいになった。僅かな時間だが最後に会うことが出来て本当に嬉しかった。

この経験を踏まえ、私は言語の壁など関係なく、頑張っって伝えようとする事、積極的に話しかけることの大切さを知った。そのため、今後はその2点を伸ばせるよう頑張りたいと思う。

### 「猪突猛進に学ぶこと ～日中友好への道～」

岩淵 陽 (高校2年・進学コース)

"百聞は一見にしかず"という言葉がまさにそうだなと思ったのが、この旅だった。日本では情報化社会に伴ってたくさんの情報が出回っている。中国に対して批判的に捉えている人もいる。中国プログラムの直前に日中間で悲しい事件があり、楽しい気持ちもあった反面、少し不安な気持ちになった。しかし、中国は私が思っていた国ではなかった。人口が多いため、マンションや商業施設などの建物が大きくて高いのが第一印象だった。今までは教科書の中の世界でしかなかった、万里の長城、中国の伝統文化である漢服を着て行った故宮、北京の人民政府訪問などを経て、中国への理解を深めた。

中国に来て一番文化の違いを感じたのはトイレだった。中国のほとんどのトイレは個室の中にトイレトーパーがない。外側のトイレトーパーをとり、中に入る。大和式トイレであった。私は最初戸惑ったが、「郷に入っては郷に従え」という言葉を胸に、どちらの文化の方が良いとか、優性、劣性ということはないのだと感じた。そこには中国ならではの良さもあると考えた。

私がこの日中アンバサダーの面接をするときに、「中国の子と仲良くなりたい。そのために猪突猛進に取り組んでいきたい。」と言っていたが、猪突猛進する力は挑戦力に結びついたと思う。



フェアウェルパーティーでは、日中の仲間とともにソーラン節を踊り、最後には「これが私達のお別れではない。また数年後再会を果たそう。」と共に誓い、日中間で一生の親友となり良い関係を築けた。

私は未だにペアの Susan と一緒に過ごす夢を見ることがある。それほど私の人生に大きな影響を与え、とても貴重な体験となった今回のプログラムであった。ありがとうございました。

### 「中国の普通を体験して」

酒井 菜穂 (高校2年・進学コース)

地図の上では隣国なのに、これまでの私にとって中国は「近いけれど遠い」というイメージの国でした。今回の留学プログラムで中国を訪問させて頂き、中国のリアルな一端に触れ私の考えは大きく変わりました。

まず「世界の工場」と呼ばれる中国は様々な製造を担い、食品から電化製品、部品に至るまで物づくりが得意な国というイメージがありました。今回、自動車メーカー小米(シャオミ)を見学し、実は同社が単に物を作るだけには留まらず、蓄積された技術から世界でトップとなる電子機器やスマートフォンを作り出している企業であるという事を知りました。支払いの面でもキャッシュレス化が進み、ほとんどスマホでの支払いでした。その様な最先端の技術に驚いた半面、博物館では、絵画・彫刻・墨絵など、歴史の長い中国の古文化の素晴らしさを見る事が出来ました。故宮では中国の衣装を着て記念写真を撮る事ができ、とても良い思い出になっています。この様に新しい産業と歴史ある文化がうまく混ざっているのが今の中国だと感じました。

もう一つ思い出に残っているのはホームステイ先での宿泊です。家の造りやキッチンの形、室内で履物を変える事なども私の住んでいる家とは異なり、新鮮な体験でした。また朝食に連れて行ってもらった屋台での食事現地の人と同じ所で食べさせてもらい、もし私が中国に住んでいたならこんな感じなのかと、ホテルで食べる食事とは違った感想を持つことが出来ました。

歴史を振り返るとその時代に起こった不幸なわだかまりが今も残っている所があり、国同士の大きな規模でのやり取りになるとお互いに譲れない所もあるのは理解できます。ですが今回知り合った中国の皆さんは優しく、私にとっても親切にしてくれました。同じ年代同士、考えている事や感じる事は共通点が多く、中国の皆は私と同じで、少し身構えていた私の考えは変わっていききました。お互いに認める所は認め、譲り合い、どうすれば幸せになれるのか話し合う事の大切さを学びました。中国で見た事、感じた事、食べた事を沢山友達に話し、もっとみんなが中国に興味を持つきっかけになればいいと思っています。これからの時代は私達の世代が作り上げていくものです。中国とのより良い関係を今から築いていきたいと思ひます。



## 「中国プログラムの感想」

### 河野 佐和（高校2年・グローバルコース）

＜行く前と行った後の中国の印象＞ 行く前は屋台が多くて、背の低い建物が多いイメージだったが、行くとみると、日本みたいにビルはあるし、道路も広くて、ショッピングモールとかもきれいでとても良かった。

＜日本との文化・習慣の違い＞ そこまで大きな違いは感じなかったけれど、日本よりもモバイルオーダーや顔認証が発展していて、食材なんかもスーパーへ行かないでネットで注文していると聞いたときは驚いた。

＜日中友好に役立てたか＞ 中国の子たちとすごく仲良くなれたし、良い関係を築けたから役立てたと思う。

＜ホームステイ＞ ホームステイ先はマンションで、中国の子の部屋を借りた。おもてなしをすごくしてくれ、一緒に餃子を作らせてもらった。ほんとに何ん自由なくお気楽に生活できてよかった。

＜中国の学校生活＞ 中国では朝7時くらいからもう学校が空いているらしく、朝食を学校で食べる子たちがたくさんいた。そして、1限開始まで勉強して過ごしていた。授業は7限まであり、終わるのが4時頃と私達の高校とあんまり差はなかったが、その後9時まで自習をしなくてはならないらしく、とても勉強づくしだった。

＜参加して自分が何か変わったか＞ 日本にただじゃ身に着けられない中国についての知識や、積極性を中国の子たちからもらった。中国の子たちは皆自分の意見がしっかりしていて、授業中の発言もすごく多かった。自分も授業での発言をもっと増やそうと思った。



## 「日中小大使」

### 中山 琴絵（高校2年・グローバルコース）

このプログラムに参加する前、正直中国という国にあまりいい印象はありませんでした。しかし、私たちがみているのはほんの一部で、印象操作も含まれているということはわかっていました。実際に行ってみると人はみんな優しく、日本人である私たちにたくさん話しかけてくれて、日本が好きなのが多いと感じました。

中国の生活の中で驚いたことは中国の技術の高さです。日本では現金とカードが普通ですが、中国ではQRコード決済が主流で現金が使えないところがいっぱいありました。道路にいるタンフルを売っているおじさんでさえもQRコード決済を使っていました。ホームステイではファミリーは私のことを快く受け入れてくれ、これでもかと言うほど歓迎して頂き、とても嬉しかったです。日本にもおもてなし精神はありますが、その何倍も中国のおもてなしは手厚かったです。

このプログラムは良好な日中関係に繋がっただけでなく、私たち自身の成長にも繋がりました。小大使として積極的にたくさんの人と話したり、たくさんを経験したり、逆に日本のことを知ってもらおうとたくさんを伝えたりしました。私は少し内気な性格でしたが、このプログラムを通じてもっと積極的にいこう、という意識が芽生え、以前よりも自分から行動できるようになりました。



私は普段ネットで見ることを信じてしまうことがありますが、それは間違っていることだと気付きました。画面越しに見る中国はほんの一部にしか過ぎなく、本当の中国はとても親切で綺麗な国でした。このようなことに気づけて本当によかったです。また、今回学んだことを自分たちだけのものにせず周りの人にもっと共有し日中友好関係に向けて行動していきたいです。

## 「中国に一週間行って」

### 佐藤 洸栄（高校2年・グローバルコース）

行く前は、正直、不安が大きかったです。直前に中国で事件があり、ボディガードなどついで訪中となりました。楽しみという気持ちもありましたが、やはり不安でした。

中国の北京は、京都みたいところだと思いました。京都には昔の建物が沢山残されている一方、少しはずれればビルがたくさん立っています。北京もそういう感じで紫禁城という1400年代に建てられたものすぐそばにKFCなどがあつたり、近未来的な建物があつたり、昔と現代の文化が建物で言えば融合されていました。そして人がとても活気に溢れていました。屋台を出している人がすごく売りに来たり、信号待ちのときに店の人が話しかけてきたり、いい意味で街が騒がしかったです。

中国に対する価値観は大きく変わりました。一番驚いたのは少しシビアなことですが、中国といえば共産主義というイメージがあったので、共産主義的な物の写真を取っていたら、逆に中国人のペアから「お前は共産主義者か」と、突っ込まれ、そこまで中核的なものではないのかな（一般市民の中では）と思いました。

中国で過ごした一週間で、わからないことは聞くこと、興味があったらそれについても聞くこと、それらがとても大切だと感じました。今回このプログラムのおかげで大切な友人もできました。この一週間で色々な事を学べ、本当に参加して良かったなと思いました。



## 「TA中国プログラム」

### 梶本 悠人（高校1年・進学コース）

日本プログラムで中国の学生と親しくなり、中国プログラムへの緊張は無く、楽しみで胸がいっぱいでした。日本との習慣の違いで驚いたことは沢山あって、赤信号でも堂々と渡る中国の人々や共産主義国旗を掲げている人たち、大量のレンタル自転車など、日本ではなかなか見られない光景が多く見られました。

ホームステイは初めての体験でした。上手くコミュニケーションできるか不安でしたが、不安はすぐに収まりました。ホストファミリーの気遣いや優しさで心が落ち着くことが出来たからです。お別れの時、ホテルまで来てくれて、抱き合って別れを惜しんでくれました。本当の家族のように私を見てくれました。ホームステイは自分が生きて中で一番印象に残った体験のひとつになりました。

中国は受験戦争が激しく、毎日つめつめの勉強をしていると最初は思っていました。北京の学校では思いっきりスポーツを楽しんでいる人、部活を頑張っている人、授業についていけない人、日本と変わらない光景がそこにはありました。しかし、その中で驚いたのは学食です。中国では弁当を持ってくる習慣がなく、ほとんどの生徒は朝ごはんはと昼ごはんは学食で済ませます。中国のペアの子と一緒に学食で食べていると、チャイムと同時にとても人数の学生が学食に走り込んできました。一つの食堂に集中するのを防ぐために食堂を3つの階に分けていると聞き、この中国クオリティには、さすがに驚きを隠せませんでした。

最後に、この中国プログラムは、私の視点を大きく変えてくれました。留学といえばオーストラリアなどの英語圏を思い浮かべることが多いと思いますが、近くの国でも知らないだけで多くのことを学べる場所が沢山あると知ることが出来ました。偏見は自分のことを損させるかもしれません。「虚心坦懐」この言葉を実感できるいい体験でした。中日友好大使として、日本人として中国の本当の姿を見ることができました。そして、中国に興味を持ち、もっと中国を好きになることが出来ました。



## 「日本・中国アンバサダーに行って学んだこと・感じたこと」

### 山口 愛凜（高校1年・グローバルコース）

私が中国に行く前は、大気汚染や電車が騒がしいなど、悪い印象がありました。しかし、実際に中国に来てみると、大気が汚染される日は、私が一週間行った中で1日だけで、電車内で大声で喋る人はおらず、みんなとても優しく、歓迎してくれている気持ちを行動と言葉でたくさん表現してくれました。この経験を通して、自分がインターネットの情報にひどく振り回されていたことがよくわかりました。

日本との文化、習慣の違いで感じたことは二つあります。

一つ目は、和式トイレが、洋式よりも倍以上建物に多いことです。ショッピングモールでも和式のトイレで、洋式のトイレを見かけたのは、泊まったホテルとパティの家だけだったのが驚きでした。

二つ目は、食べ物に関してです。ナマコや羊肉が出てきたり、フルーツがサラダと考えられたりすることから、中国人は食べる物の範囲が広く、私にとって食事の時間は、チャレンジをする時間だった印象があります。

パティとの交流の中で行ったホームステイではたくさんを知ることができました。その中でも日本と違う環境だからこそ、中国人が使っているものを紹介します。それは、建物や家の入口では砂が入ってこないように、ドアの上から下まである磁石のついたすだれが設置されていたり、洗濯物を干すときに砂がつかないように窓のついたベランダがあつたりしたことです。黄砂の影響を受けてきた歴史から、住宅が日本とは違う進化を遂

げているところを見て、人間は環境に適応して進歩してきたことを改めて感じました。

私は今回、アンバサダーに行ってもよかったですと思っています。今まで私は中国を主観的にしか見られていませんでしたが、今回の活動を通して、物事を多方面からみることで、自分の客観的視野が以前よりも広がったからです。今まではネットをみることで、その国を知ったつもりになっていましたが、実際に現地へ行き、肌や目で感じることで、今までにない新しい知識をたくさん得ることができることを知りました。これからは、実際に現地へ足を運ぶことを大切にしていこうと思えるようになりました。

### 「ティーンエイジアンバサダーとしての責務」 張替 健世（高校1年・グローバルコース）

中国では伝統文化や人柄の良さなどたくさん感じる部分がありました。自分が一番印象的だったのは食文化や歴史ある建物です。中華料理が出たときは日本で食べた中華料理とは見た目や味が全く違い、食べ方にも違いがありました。味が自分には合わないものもありましたが、それも文化の一つとして受け入れることができました。万里の長城やオリンピックが開催された競技場、故宮博物院など、教科書等で見るものとは違って迫力があり、ガイドさんの説明で詳しく知ることができました。

続いて印象的だったものがホームステイや現地の学校生活です。本当にホームステイ先のご家族にはお世話になりました。何事も初めてで不安だった自分を優しく支えてくれました。パートナーとの絆も深めることができました。英語で楽しく会話をしたり、中国語を教えてもらったり、プレイステーションと一緒にゲームをしたりと盛り沢山です。また会える日が来ることを願っています。学校では、生徒のみなさんが温かく私達を迎え入れてくれました。日本の学校とはまた一味違った雰囲気がありました。体験授業では何も聞き取ることはできませんでしたが、生徒たちの真剣に取り組む姿を見ることができ、部活動も共に楽しむことができました。

これらの経験を終えた今、私の中国に対するイメージは180度変わりました。日本にはまだ中国に対して偏見を持ってしまっている人がいると思います。このような人たちを徐々に減らしていき、将来的にもっと日中の友好を深めるといふところまで、私達ティーンエイジアンバサダーとしての役割だと思います。このような観点から見ると私達の行ったことは日中友好にとっても役立てたと感じます。本当に今回の企画に参加できたことを心の底から感謝しています。

7月にパートナーが日本に来て初めて対面したときは緊張してかお互いに積極的ではなかったことが記憶にあります。しかし、企画が終わる前日には全員が仲良く友達になることができました。このことから自分はいつか日中の友好が実現できるのではないかと思います。また私自身の英語力もこの活動を通して上達することができました。これからもこのような活動に参加して貢献できるように頑張りたいと思います。

### 「小大使を通して感じたこと」 茂木 慶心（高校1年・特別進学コース）

中国と日本との文化の違いはいくつもあり、驚くことが多かった。例えば、お風呂ではどの家庭も浴槽がなくシャワーだけで、水圧もあまり強くなかった。中国では昔から水を大切にしていると聞いたことがあったので、お風呂に対する価値観が日本と異なっていると感じた。パディが日本に来たとき家のお風呂を撮っていたのもこのような理由なのかなと感じた。

ホームステイ先では、家にある黒板に「ようこそ、中国へ」と日本語で書かれていたり、果物をたくさん用意してくれたり、とても温かく歓迎してくれた。パディの家族は皆英語を流暢に話せるので、お父さん、お母さん、弟さんとも話すことができた。また、ホームステイ2日目は自分の誕生日だったので、誕生日パーティーを開いてくれ、ケーキや中華料理のほか、中国の文化である誕生日にうどんを食べる習慣も体験できた。

中国の学校と日本の学校は異なっていた。学校は6階建てで中庭のようなところには卓球台やゴルフが練習で



きる設備が整っていた。中国の学生のほとんどが学校の食堂で朝食をとっていた。朝8時前には授業が始まり、21時頃授業が終わる。課題も多く、自分のパディは帰ってきてても課題をやっていた。昼休みには中国の学生とグラウンドでサッカーをした。知らない中国の学生に英語で話しかけるのは、最初は怖かったが、一緒にサッカーをしたいと伝えると快く受け入れてくれた。日本の学生と比べ、中国の学生はメリハリがある。授業では皆集中



し、課題をしっかりこなしていたが、体育や昼休み、部活道では切り替えて友達と楽しく協力しながら活動していた。中国の学生は勉強ばかりで運動が得意な人はあまり多くないと勝手に思っていたが、実際は多くの人が運動好きで、運動神経がいい人も多く感じた。

日中小大使を通して自分は英語のコミュニケーション能力が向上し、物事の考え方や視野が広がった。課題も見つかり、自分が使いこなせる文法や単語の種類が少なかったり、相手が言った単語や文法がわからなかったり、そもそも聞き取れなかったことが多々あった。この改善

点を受けて、英単語の勉強時間を以前よりも確保し、発音やリスニングの練習時間も確保したいと思った。また、異文化に直接触れたことで、多種多様な情報に触れ、知識や経験が増したと思う。

### （3）引率者所感

### 「日本・中国ティーンエイジアンバサダー事業に参加して」 校長 金澤利明

スーパーマーケットのイオンを中心とするイオングループの「イオン1%クラブ」のティーンエイジアンバサダー事業に、本校生徒男女合わせて10人の引率として、日中双方の受け入れ事業に参加させていただいた。この事業は30数年行われているという。中国語でこの事業を表記すると「日中小大使」となり、この言葉がこの事業の内容を端的に表しているといえよう。

7月中旬に中国の4校の高校生を日本に受け入れ、東京や京都、神戸などでの見学や、各校での体験活動を行い、10月中旬に日本の高校生が中国を訪問して、それぞれ1週間、日中で同じような活動を行うだけでなく、日中双方の大使館や、日本では首相官邸、中国では外交部の訪問などを行い、若い世代の交流を通じて日中双方の懸け橋になることをねらいとしている。本校では数年前から何回かこの事業に参加している。今回の日中双方の大使館のイベントでは、本校の卒業生たちが進行してくれた。

日本でのプログラムの浅草での浴衣を着ての散策は、北京の生徒たちは浴衣を着用しなかった。これは、「日本の服を着た姿をSNSで投稿したら、北京ではバッシングを受ける可能性があるから気を付けるように」とのアドバイスがあり、中国の生徒は躊躇したようである。こういったことは現在の日中関係の難しさが反映している。中国の見学では、故宮博物館では日中の高校生たちが漢服を着ている。しかし、中国での日本への感情を配慮して、滞在中、中国側は入念な警備体制を敷いて対応してくれた。

中国プログラムの最後の歓送会では、日本大使の他、中国外交部や北京市政府の要人の参加もあった。本校の生徒たちはソーラン節を踊って万座の喝采を浴びた。何回も練習して呼吸を合わせた甲斐があっただけでなく、本校のパートナーになった生徒たちが舞台上上がり一緒になって何度も踊り、また、別れがたく写真を撮りあ



っていた。帰国の際の北京空港でも同じようなことがあった。

今回の交流事業では、とくに中国での様々な経験が日本の高校生たちがより望ましい成長につながるものだろう。現在、中国と日本では、国家間では解決していかなければならない課題は多いが、人と人、高校生同士では、そういった障害は乗り越えて仲良く交流していけるものと、今回のプログラムを通じて感じた。こういった交流を積み上げて、最終的には日中の相互理解、交流となっていくものと考えている。

# 「グローバル探究」実践報告 哲学（高校）

教諭 渡邊 俊介（地理歴史・公民科）

## 1. 哲学カリキュラムの刷新の経緯

本学では、旧来から、オリジナルテキスト「哲学」を用いて、高校1年次より「哲学」の授業を実践してきた。内容とは井上円了の教育理念と源流思想に主軸を置いたものであった。2021年度、東洋大学系列の京北・姫路の三校によって「附属三校合同哲学研究会」が発足した。三校で連携し、あらためて東洋大学の原点である哲学のカリキュラムを刷新し、附属三校のスクールアイデンティティを構築することを確認した。

「研究会」においては、哲学教育における三観点に注目した。

- ① Learn…哲学を学ぶこと。哲学者について学ぶ。哲学史を学ぶ。
- ② Do…哲学をすること。哲学的なテーマについて考える。
- ③ Be…哲学的であること。事実に対して、問いという方法で応答できる。

本校でも2015年に新設された「附属中学校」において、元校長である遠藤隆二氏が、「グローバル探究」において、「哲学」を核と位置づけ、授業を実践してきた。中学校の授業では、井上円了の教育理念、四聖の思想、近年の文学作品、評論、新聞記事などを題材に、生徒に問いを投げかけ、生徒に哲学的な思考や態度を喚起することを重視してきた。本校の高等学校の哲学においても、中学校の実践を背景に、「Do」「Be」重視の哲学へ、新学習指導要領における「主体的・対話的で深い学び」を目指し、2022年度入学生より、高校の「哲学」のカリキュラムを一新する運びとなった。

## 2. 授業実践

### (I) 思考ドリル（通年）

授業のウォーミングアップとして短い問いかけに対して、自分なりに意見や理由を考える思考実験を行う。5分程度で問題を紹介し、生徒は必ず何かしらの意見を考える。意見を口頭・意見カード・chrome bookのスプレッドシート等を通じて意見を皆で共有する。正解がある必要はない。「こういう風に考える人もいるのか」と気づくことが大切である。

【思考ドリルの一例】

箱の中の「カブトムシ」～コミュニケーションとは何か～	ギュゲスの指輪 ～不正はバレなければ問題ないのか～
臓器くじ ～自分の命を犠牲にしてまで多くの人の命を助けるべきか～	犯罪予見システム ～犯罪の芽を事前に摘み取るために自由を制約することは果たして良いことなのか～

### (II) 先哲の思想を現代に活かす（I期：4～6月、II期：10～1月）

古代から近現代までの先哲の思想をヒントに、日常的な問題を考える。毎回10分程度で、先哲の思想の概要を紹介する。そのなかで先哲の考えを利用して、現代の社会問題や日常生活の悩みなどにつながるヒントや意見を生徒が考える。

【「先哲の思想を現代に活かす」の一例】

○カント 「よい行い」にこだわるカントは動機を重視します。たとえ1円の募金でも、「困っている人を救いたい」という思いを大切にしています。いっぽうで、「いい人に思われたい」「好きな人にカッコつけたい」という動機が不純な100万円の募金は「よくない」と判断されます。あなたはこのようなカントの価値観をどう考えますか。
○キルケゴール あなたにとって「すべてを捧げられる」と「主体的真理」を紹介してください。
○フーコー あなたが時代や、社会の意識の変化によって、今まで「普通」だったことが、「普通ではない」ことになってしまった例として思いつくことを紹介してください。

### (III) 井上円了の教育理念（7月、夏休み、9月）

東洋大学「井上円了が志したもの」に応募するため、「チャレンジャー井上円了」の基調授業と、作文をベースに、円了の理念から、現代の私たちが生きるヒントについて話し合う。

【2024年「井上円了が志したものとは」学長賞作文より】

昨年までは新型コロナウイルスが流行する中、トイレトペーパー買い占めや、ワクチン接種に関する情報などのデマが大量に拡散された。ここで大切だったことは周りに流されないということだったと思う。学校がいきなり休校になり、大人の人もリモートワークとなり、戸惑いが止まらない中、ものすごいスピードでウイルスが広がり世界中が困惑していたとき、冷静に情報を処理できた人は少なかったと思う。井上円了先生は哲学館時代、生徒に「偏見を持たないように」と指導していた。「事実をもって」広い視野からのものの見方・考え方を学ぶようにと注意していたという。このことからデマに流されないということは、きちんと自分の目で見て、考えたうえで行動が大事だと思う。このことも私は主体性のうちに入ると考える。

### (IV) 哲学対話（2～3月）

哲学対話は、1960年代にアメリカで始まった「子どものための哲学」に由来する。これは、先哲の思想について教えるのではなく、思考力を育てるものであり、参加者の「対話」を通じて、「自ら考える力」を身につけるプログラムである。話し合うテーマは自分たちで決める。テーマとなっている問いに対して、自ら感じ、考えたことを素直に話し、参加者の考えの多様性を知ることができればよい。

【哲学対話のテーマ一例】

校則はなぜ必要なのか	コロナ対策で失ったものは何か
死後の世界は本当にあるのか	外見至上主義をどう思うか
正義の味方は本当に正しいのか	なぜ勉強は必要なのか

## 3. 哲学の成果と課題

哲学の新カリキュラムも3年目をむかえ、いくつかの成果および改善点も生まれた。以下の点を挙げるができる。

問	平均評価 (5段階)	①哲学の「learn」「Do」「Be」の三観点について
①授業を通じて、哲学に関する知識を得ることができた。	4.4	①哲学の「learn」「Do」「Be」の三観点について 新哲学になって、哲学的課題に対して主体性を持って臨むことを重視するようになり、いわゆる哲学の知識の絶対量は減少した。しかしながら、本校の鈴木教諭のアンケートによると、主体的に活動に取り組むことで、知識向上についても高い実感を得たようである。
②授業を通じて、自分の考えを深めることができた。	4.5	
③授業を通じて、自分の考えを表現する力が向上した。	4.4	

②思考ドリルと先哲の思想の関連性  
思考ドリルと哲学者論の組合せについて、テーマに関連性のある回と、全く関連のないテーマを組み合わせている回がある。1回の授業を有機的なものにするために、組合せの再構築や、思考ドリルや先哲の入れ替えも今後は必要と考えている。

★思考実験と哲学者に相関が高い回

思考ドリル	哲学者	テーマ
ギュゲスの指輪	ソクラテス	不正とは
洞窟の比喩	プラトン	感性は真実を把握できるか
禪	西田幾多郎	身心脱落
バイオリニストの比喩	サルトル	自由とは何か

★関連が薄い回

哲学的ゾンビ&デカルト、アピリーンのパラドクス&ヘーゲル、スワンプマン&ニーチェ

### ③中学校における「哲学II」の開始

遠藤元校長のご勇退後、中学校の「哲学」は井上円了の思想と課題探究の基礎となる知識・思考・技術の獲得がその中心となった。それに伴い「哲学要素」の欠如が課題であったが、2024年度より、中3において、新たに「哲学II」を設置した。高校1年生が学習している哲学を中学段階で学ぶことになった。（その課題は鈴木教諭の寄稿に譲る。）

### ④「哲学」×他の学問

哲学は、本来は、哲学者について詳しく知る学問ではない。現実の社会について、今までは見えなかった課題が、哲学的な思考の枠組みによって「見える」ようになることが大切である。それが「諸学の基礎は哲学にあり」と呼ばれる所以である。今後は、哲学と他の学問領域を掛け合わせていく試みにチャレンジしていきたい。これが、後に本校の教育のスクールアイデンティティになっていくことになるだろう。

# 「グローバル探究」実践報告 哲学（中学校）

教諭 鈴木 朋哉（社会科）・教諭 若林 亮太（国語科）

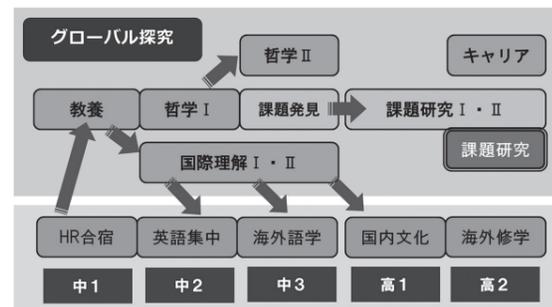
対象：中学校2年生（哲学Ⅰ）・3年生（哲学Ⅱ）

実施：（2年A組：月曜4限、2年B組：月曜3限 3年A組：月曜1限、3年B組：火曜6限）

本校は、建学の理念「諸学の基礎は哲学にあり」を母体である東洋大学から受け継いでいる。中学校／中高一貫コースの設立時にもその理念に則って、グローバル探究科目として「哲学」を設置した。そして、2024年度からは既存の「哲学」を「哲学Ⅰ」とし、新たに「哲学Ⅱ」を追加した。本項目では、教科「グローバル探究」における「哲学Ⅰ・Ⅱ」の実践について報告する。

## 1. グローバル探究の中での哲学

中高一貫コースの5か年にわたる「グローバル探究」の実施計画の中で、本年度から「哲学Ⅰ」は中学2年次に、「哲学Ⅱ」は中学2年次にそれぞれ1時間が充当されている。1年次での「教養」を土台としながら、3年次での「課題発見」を成立させるための思考力・表現力を育成する時間である。



## 2. 教育目標

- （1）東洋大学の設立者である哲学者「井上円了」の生涯と思想について理解を深め、その教育理念の普遍的な価値を学ぶ
- （2）一つの問題を多面的に思考する批判的思考力を身に付け、課題を発見する力の礎とする
- （3）他者との関わりの中で新たな価値観と出会うための力を身につける
- （4）探究成果を発表するための表現技法、ICT 利用法などの諸技術を向上させる

## 3. 指導計画

### 3-1「哲学Ⅰ」

#### ①学祖・井上円了の生涯と教育

本項目は、高等学校各コースの「哲学」や、遠藤第11代校長（在職期間：2012年4月-2021年3月）による指導期より一貫して引き継いでいる指導項目であり、校長による3回の特別授業という形式も復活した。私学の学生にとって創設者の理念を知ることは必須であるうえ、円了先生の生涯は本校が現在教育目標としている「グローバル人材」を体現したものであり、創設者を範とすることで海外研修への意欲を喚起する効果も期待できる。

#### ②クリティカルシンキング・ロジカルシンキング

探究課題を発見することとは、ある情報に対して「探究／検討の余地はないのか」と思考することから始まる。よって課題発見のためには、批判的観点から情報を読み解く訓練が必須である。同時に、論理的に考える技能も必要となる。本指導項目では、生徒に類型化した批判的観点を提示し、それを取り掛かりとして文章を読み解くことを通して、意識的に批判的思考のきっかけづくりを行う。

#### ③インタビューの技法

中学3年生での「課題発見」で導入している5つの探究技法のうちのひとつ、「インタビュー」をここで実践的に訓練する。今回は基本技術を学んだのち、学年外の東洋大牛久中高教員に対して、自由選択制のテーマでイ

ンタビューレポートを作成してもらった。ここでは録音機能、メールの書き方、段組みレイアウトのつくり方を技術として習得している。

#### ④格闘する知・ディベート

議論をゲーム化した活動「ディベート」は、生徒が相互に勝敗を楽しみながら資料調査力、論述力、論理的思考力などを身に付けることができ、知力を総合的に発達させる効果が高い。またその力が各種大学入試に直結することは、卒業生たちが異口同音に述べている。

本項目では全国教室ディベート連盟の中学生大会に出場できる力を全員が身に付けることを目標として、ディベートの指導を行っている。

### 3-2「哲学Ⅱ」

「哲学Ⅱ」の内容は、本学高校一年次の「哲学」において、2022年度より実践されてきたものと基本的には同一である。高校「哲学」においては「哲学を学ぶこと」「哲学すること」「哲学的であること」を目標に、①哲学者論と②思考実験の2つを主な授業内容としてきた。この科目は、2023年度まで中高一貫コースの生徒たちが履修することができていなかったため、本年度より中学3年次に設定した。哲学的な思考に触れ、実践することで、探究活動に必要な自由でユニークな思考を身に付けさせることが目的である。

①哲学者論においては、プラトン、ベーコン、カント、ニーチェ、レヴィナスなど、西洋古代から近現代にいたるまでの哲学者の議論を紹介し、関連する問いに取り組みさせた。また、日本独自の哲学者として西田幾多郎も取り上げた。②思考実験のパートでは、思考実験として架空のエピソードと問いを提示することで、哲学的な思考を実践させた。

#### 【問いの例】

哲学者論	思考実験
ニーチェ：超人になるためにどうすべきか。	ギュゲスの指輪：透明人間になれたら何をするか。
キルケゴール：自分のすべてをささげられる価値は何か。	幸せな囚人：自由を望まない人は自由か。
ロールズ：財の理想的な分配状況は何か。	喫茶店で暮らす人たち：不利益を与えることになって、正しいことをすべきか。

これらの内容を、生徒たちは①個人での取り組み、②グループ討論、③スクールタクトで意見を提出し全体共有といった方法で学んだ。

年度当初、正解のない非日常的な問いに取り組むことに戸惑いを見せる様子もあったが、年度末には思考を楽しむ様子や豊かな発想も見えるようになった。



## 4. まとめ

本稿では、本年度の中学校における哲学教育の新しい試みについて報告した。とくに「哲学Ⅱ」については初めての試みであり、探究活動への効果がどれほどのものであったかは評価する必要がある。この点については、今後の課題としていきたい。

## 「グローバル探究」実践報告

# グローバルコース「グローバル探究」の設計

教諭 徳竹 圭太郎（地理歴史・公民科）

## 1. はじめに

グローバルコースでは、1年次に国際理解を設置し、2年次にはグローバル探究が設置されている。これまで、グローバルコースでは、これらの内容が切り離されて指導されてきたため、高校2年生の1年間で探究活動を行う必要があった。しかしながら、1年間の研究活動では、データの取り方やまとめ方を十分に指導出来ず、成果を挙げるのが困難であった。そこで、2023年からは高校1年次の国際理解において、研究を行うための基礎的な素地を養い、高校2年次から研究活動を行わせるカリキュラムを設計し、実施した。本稿では、グローバルコースの1年生、2年生の活動内容について報告した上で、現状の課題と今後の展望について述べていく。

## 2. 高校1年生の国際理解（2023年）

高校1年生の国際理解では、（1）プレゼンテーションの仕方を学ぶ、（2）研究テーマ及び研究方法を明確にした上で2年次に繋がる研究の基盤を確立する、という2点を到達目標として設定しており、中期目標として創造際での成果報告を設定した。以下の表1に活動の流れを示す。

表1 高校1年生のスケジュール

○4月-9月	活動：①ボランティアを行う ②調査研究を行う ③TEDスピーチを行う 概要：探究活動は、上記の3点から生徒に選択させた。ボランティアは自身で行き先を決定し、活動に参加するとともに、その活動の問題点についてインタビュー調査を行わせた。調査研究については、自身の興味のある領域について、文献調査、フィールドワーク、実験の設計を行わせた。TEDスピーチについては、既存のTEDスピーチの中から好きなものを1本選び、その内容に自身の経験や考えを加える形でスライドを作成させた。
○9月	創造際での発表：各グループの研究結果について、創造際で発表させた。 なお、発表はすべて英語で行わせた。
○10-11月	活動：上記の探究活動を通して身に付けたドメイン知識を活用し、ビジネスアイデアの創出を行う。 概要：外部講師を招いて、自身の経験からビジネスアイデアを創出する研修を設計し、実施した。
○12-3月	活動：①データの収集と可視化（講義、ハンズオン） ②来年度の探究テーマの設定 ③ワールドキャラバン 概要：インタビュー調査やアンケート調査を通じて、データの処理方法を学ばせた。

高校1年次の国際理解の授業では、文化祭までに自身の興味関心に沿ってテーマ選択を行わせ、文化祭で活動内容を発表させることで、プレゼンテーションの仕方や探究活動に対する姿勢を身に付けさせた。その後、①自身の経験を社会に活かすためのビジネスアイデア創出プログラム、②研究活動を進めていくために必要なデータ分析に関する講義、③国際交流によって多面的・多角的な見方・考え方を学ぶワールドキャラバンなどを実施し、2年次に研究活動を進めるためのスキルと視点を身に付けさせた。

## 3. 高校2年生のグローバル探究（2024年度）

高校2年生の国際理解について、昨年度から引き継いだ探求活動の成果を、オーストラリア海外研修において現地の中高生を対象として発表した。

中高一貫コースとの差別化のため、生徒には研究活動だけではなく社会問題の解決を目的としたボランティア活動などにも取り組ませ、その成果や取り組み内容について報告させた。



## 4. 現状の課題と今後の展望

本年度は、これまでの取り組みから外れて、新たに設計し直したカリキュラムの中で国際理解とグローバル探究の活動を行ってきた。本校中高一貫コースの課題探究は6年目となり、授業の設計やカリキュラム構築に関しては、十分に整備されてきたと考える。しかしながら、グローバルコースを含む他コースについては、実施した内容の効果検証を行いながら、探究活動のカリキュラムや授業設計を見直していく必要があると考える。

今回、生徒には研究活動、ボランティア報告、ビジネスアイデア創出などのテーマに分けて取り組ませたが、研究活動についてはやはり2年間の準備期間では十分な成果が得られなかったと感じる。現在、大学入試などでも探究の成果が評価されつつあるが、限られた時間の中で無理に研究活動を行わせるよりも、生徒一人ひとりの興味関心を深め、それを実社会に結びつけるようなサポートを重視すべきではないかと考える。高校入学者の生徒に対しては、①データ分析に関する基本的な考え方や技能の教授、②興味関心があるテーマに対する調査や社会貢献・社会的課題の解決を目指したボランティア活動への取り組みを最低限のカリキュラムとして設定し、より高度な探究活動を希望する生徒に対してのみ、研究活動の支援を行う方が、学習の負担を軽減しつつ、主体的な学びを促進できるのではないかと考える。特に、探究活動を通じて「自分が本当に知りたいこと」「社会の中で自分がどのように関わっていけるか」を考えさせる機会を提供することが重要である。単なる成果物の作成を目的とするのではなく、生徒自身が「知的好奇心を持ち続けられる環境」を整えることが、探究活動の本来の意義に沿った形であると考えている。

# 本校における「中国語会話」授業の成果と課題

教頭 鈴木 伸一（国語科）

## 1. 「中国語会話」授業とその成果

中国語の履修形態を一部変更して2年目となる。グローバルコース1年生は全員が「中国語会話」必修で39名が受講、2年生は必修選択制で「中国語会話」25名、「フランス語会話」8名、3年生は「中国語会話」28名、「フランス語会話」7名となっている。これは、生徒の進路の多様化等に対応するための変更である。しかしながら、これまでの本校のグローバルコースの特徴である「中国語会話」の設置がよく浸透しているためか、「中国語会話」受講者の方が多かった。

必修化して9年目を迎えたグローバルコース設置の「中国語会話」全体では、92名が学んでいる。グローバルコースは「英会話」も必修のため、3年間で英語と中国語またはフランス語の2か国語が身につくというアドバンテージをもっており、その位置も確かなものとなり、本校の志願理由のひとつになりつつある。全校で111名の生徒が中国語を学ぶというスケールを誇り、多言語を同時習得可能な環境が整っている。ただし、全コースから選択が可能な放課後に実施している外国語自由選択授業「中国語会話」は、今年度は19名の受講者となっており、受講者がやや減少傾向にある。

本校でのグローバル関連事業はコロナ禍から改善傾向にあるが、中国からの招聘事業はコロナ禍以前のレベルにまでは回復していない状況である。一度、交流が途絶えると、その再開には思いの外ハードルが高くなるようである。具体的には、外務省の方針、担当部門の閉鎖や縮小、担当者の変更、手続きの変更等々である。仲介団体からのオファーはほとんどみられなかった。

### 第42回全日本中国語スピーチコンテスト茨城県大会（主催：茨城県日中友好協会）

日時：2024年10月19日（土）／場所：駿優教育会館

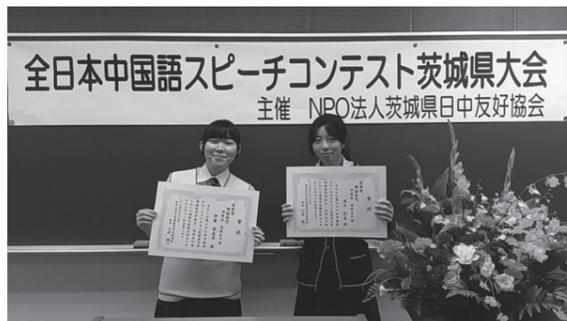
結果：<中高生 朗読部門> 優秀賞 高木莉直（2年）、優秀賞 伊藤優美菜（2年）

担当教員所感：

- ・事前録画したものと同レベルを発揮できれば、本校の生徒全員が入賞できた。
- ・全員が緊張しており、実力の半分程度しか力が発揮できていなかった。
- ・本校参加者全員が「悔しい」と言っているため、次年度に告げていきたい。
- ・他校の参加者と積極的に交流し、知見をふかめようとしていた姿勢は評価できる。

そうした状況下においても、中国語スピーチコンテストは実施された。しかしながら、本校も他校同様、参加者の顕著な減少がうかがえる。スピーチコンテストは、語学学習には非常に効果的なコンテンツであり、学習の到達度を測るうえでも有効である。参加者をどこまで回復させられるかが、重要となってくる。結果は以下の通りである。

今年度も大会の実施方法として、事前の音源、動画審査が入り、コロナ禍後の形態に定着しつつあるようだ。



本校からの参加者は7名で、うち2名が優秀賞となった。次年度に向けて、参加者を増やし、レベルの向上を目指したい。

## 2. 「中国語会話」授業の軌跡と展開

本校の「中国語会話」の授業は、1996年ごろから始まった。その当時は、中国語に親しむといったコンセプトで、授業としては教養主義的な内容を標榜していたと思う。その転機を迎えたのは、2012年の「アジア大洋州地域及び北米地域との青少年交流（キズナ強化プロジェクト）」への参加である。このプロジェクトは、外務省の進める多彩な国際交流プログラムである。その一つとして、当時の温家宝中国国務院総理からの2011年の東日本大震災被災地の高校生500名の中国訪問招請が接到したことから、外務省が、“被災地青少年が隣国である中国に赴き、各被災地の復興状況について広く発信するとともに、中国の青少年との間で交流を深め、隣国との絆を深める”、といった趣旨のもと実施されたものである。本校では、学校改革の一つとして、SGH認定を目指し、学校をあげてグローバル事業に取り組んでいる時期であり、好機となった。本校からは生徒40名の参加が叶うことになった。被災地域の代表という任も帯びていたため、茨城県庁、牛久市役所、大津漁港にて被災状況を調査したり、職員や地元の方に、震災時の状況、復興状況、放射能汚染状況等を説明して頂いたりし、事前準備を周到に行って参加することとした。

上記の事業への参加以降、本校の国際交流は、それまで行ってきた豪州にとどまらず、アメリカ、カナダ、イギリス、フィリピン、シンガポール、モンゴル等の多くの国々の青少年との交流へと変化していった。そうした状況下で、生徒自らが、自らの言葉でコミュニケーションをとりたいという、ごく当たり前の意欲が醸成され、学校として、グローバル事業の発展を企図し、英語教育のみに注力するのではなく、環太平洋の国々との交流を念頭において、中国語教育にも力を注ぐこととしたのである。2013年には、王彤先生が着任され、学外団体が主催する中国語のスピーチコンテストを中国語教育の中にうまく取り入れ、現在は、「全日本中国語スピーチコンテスト」出場の常連校になるまでになっている。

その後も、JENESYS2.0中国高校生訪日団短期招聘プログラム、ティーンエイジアンバサダー中国派遣及び招聘、アジア高校生懸け橋プロジェクト、北京外語大研修ツアー、台湾宜蘭縣中学生受け入れ、台湾留学フェア等、多くの事業に学校あげて積極的に参加し、本校のグローバル教育の特徴として、中国語教育を据えつつ、多角的に育てているところである。「中国語会話」授業をさらに豊かにするために、学校設定科目「国際理解」を設定し、中国の文化や習慣等幅広く学ぶ機会を作った。こうした授業と、語学としての中国語授業が相乗して、本校の奥行きのある中国語教育がなされている。昨年度から、小林信二先生をお迎えし、これまで培った中国語教育を礎に、新たな中国語教育の展開を目指している。

かねてからの私の願いとしては、中国語学習が単なる語学習得のためのテクニカルなものになって欲しくないということである。生徒と教師の血の通った授業、その文化的背景も含め、深く理解し合えるような授業の場を提供し続けられたらよいと考えている。それは、もちろん座学にとどまるものではなく、積極的に“交流”することによってより豊かな実りを生むものである。“交流”こそが、発展の源泉である。

いよいよアフターコロナ時代に入ったと言ってよい。皮肉にもコロナ禍でICTの活用が飛躍的に進み、結果、対面が煩雑なものとして退けられ、果てしない合理化の道に猛進しているように見える。気がつけば、生成AIの一種ChatGPTの出現により、我々の生活が根底から見直されようとしている。そんな時代の潮流の中で、語学を学ぶことの意味を再確認し、時代をキャッチアップすべくアップデートを図っていかねばならない。

# 「フランス語会話」授業実践報告

専任講師 Glenn Serviss (外国語科)

## 1. 年間目標

- ①初級フランス語の学習を通じて、外国語で楽しく、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。
- ②フランス語の特有なリズムやイントネーションなど、音声的な特徴、話す速度などを身に付ける。
- ③文法と会話の同時進行によりフランス語の基礎を確実に身に付ける。
- ④外部のイベントや大会に参加し、他校の生徒と交流を図る。

## 2. 年間指導内容

- (1) 受講者 27 名 (必須：高校 2 年生 8 名、3 年生 7 名；自由選択：1 年生 6 名、2 年生 5 名、3 年生 1 名)
- (2) 使用教科書『パラレル 1』(白水社)
- (3) 年間指導計画 (週 2 単位、毎週火曜日と木曜日実施；自由選択は火曜日と木曜日の 7 限に実施)

月	自由選択 1 年目、グローバル 2 年生	自由選択 2 年目	グローバル 3 年生
4 月	・発音、アクセント、リエゾン、アルファベ ・あいさつ	・`er 動詞 ・疑問文、所有形容詞	
5 月	・名詞の性と数、不定冠詞と定冠詞 ・指示の表現	・会話：家族と親戚 ・動詞 aller, venir	
6 月	・主語人称代名詞 ・動詞 être	・前置詞と冠詞の縮約 ・疑問形容詞	
7 月	・形容詞の一致、数詞 (1 ~ 60) ・会話：あれは何ですか	・人称代名詞 ・数詞 (61 ~ 100)	
8 月	・自己紹介	・会話：映画館に行く	・会話：映画館に行く
9 月	・場所を示す前置詞	・場所を示す前置詞	・場所を示す前置詞 ・動詞 faire, voir
10 月	・国と国籍 ・身分や職業	・動詞 faire, partir, voir	・近接未来形 ・近接過去形
11 月	・動詞 avoir ・否定形、指定形容詞	・近接未来形 ・近接過去形	・疑問副詞 ・会話：休日バカンス
12 月	・会話：ホテルのフロント	・疑問副詞	・曜日と 12 か月
1 月	・`er 動詞	・会話：休日バカンス	
2 月	・疑問文 ・所有形容詞	・曜日と 12 か月	
3 月	・フランス語の映画鑑賞	・フランス語の映画鑑賞	

(4) フランス語出前講座 (受講者グローバルコース 1 年生、37 名)

茨城県国際交流委員であるセイフェン・ジャワ氏による基礎的なフランス語及びフランス文化・社会の紹介等の授業を 3 ~ 4 限、3 回実施した：11 月 8 日 (金)、12 月 13 日 (金)、2025 年 3 月 7 日 (金)。

## 3. 成果と課題

### (1) 外部のイベントや大会参加

- ① 高校生のためのフランス語学科体験 2024 (獨協大学)  
実施日：2024 年 7 月 29 日 (月) ~ 30 日 (火)、参加者：グローバルコース 1 名
- ② 第 19 回東日本高校生フランス語スケッチコンクール (東京日仏学院エスパイマージュ)  
実施日：2024 年 11 月 16 日 (土)、参加者：2 組 (4 名) 一貫コース 3 名、グローバルコース 1 名
- ③ 第 13 回東日本高校生フランス語暗唱コンクール (慶応義塾大学三田キャンパス)  
実施日：2025 年 3 月 9 日 (日)、参加者：グローバルコース 2 名

### (2) フランス語の授業の評価 (2025 年 3 月実施生徒アンケート結果)

評価	フランス語の授業 (回答数 14 名)	フランス語出前講座 (回答数 34 名)
大変満足した	93% (13 名)	56% (19 名)
満足した	7% (1 名)	35% (12 名)
普通	0	9% (3 名)
やや不満だ	0	0
不満だ	0	0

### (3) 大学進学への影響

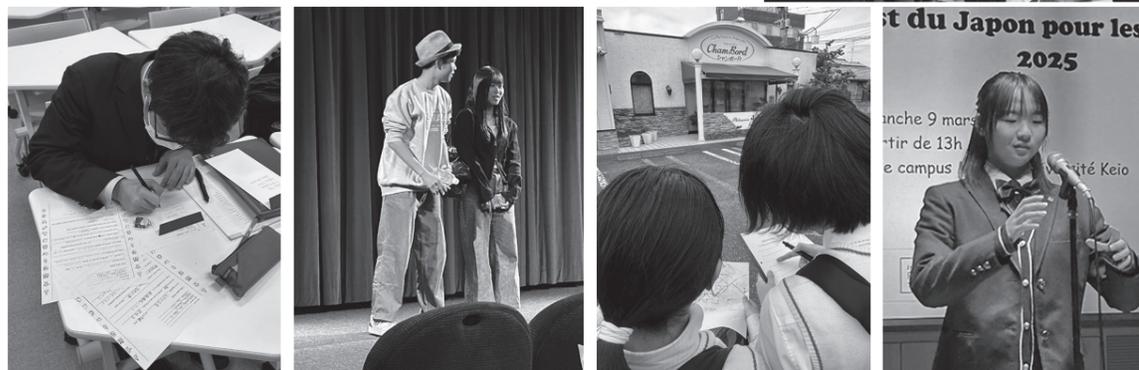
今年、必須フランス語会話の授業を 2 年間受けた生徒が初めて卒業した。その中で初めてフランス語専攻に進む卒業生がいる。以下の通り。

生徒	進路先	入試方法
グローバルコース 1 名 (男)	獨協大学外国語学部フランス語専攻	一般

### (4) 課題

一貫コースの自由選択フランス語会話を取ることが 3 年間継続可になったため、初めて同時授業 (学歴別指導) を行った。こちらの生徒の感想「1 年目の方と 2 年目の方の授業を別にしたほうがいいのかなどは思いました」のように、指導者も同じ教室で同時に 2 つの授業を教えるには課題があると感じた。

### 1. (下) フランス語出前講座の様子



2. (左) フランス語でサンタさんへ手紙を書いている様子。カナダの郵便局の無料サービスを利用した文通の授業が行われたがカナダの郵便局のストライキによって多少の手紙が返され、返事もなかった。
3. (左中央) フランス語スケッチコンクールにて、課題「Comment lui dire?」を演じる様子。
4. (右中央) 街に出て、フランス語を探した。学校から駅までの約 2 キロの間に 9 軒あった。
5. (右) フランス語暗唱コンクールにて、課題「Afrique/Guinée」を発表する様子。

# All English Days (中学校1年生)

教諭 小池 利明 (数学科・学年主任)

期 日：2024年11月14日(木)、15日(金)

場 所：本校マルチパーパスホール、J1A、J1B、J2A、J2B、技術室(講師控室)

参加者：中学1年生66名

講 師：インタラック(外国人講師6名 担当者1名)

## 1. 目的

- ①英語を1日中集中して学ぶことによって、語学力の向上を図る。
- ②少人数制で学ぶことにより、普段より発言の機会を多くすることにより、語学力の向上を図る。
- ③ネイティブスピーカーから学ぶことにより生きた英語に1日中触れることができ、英語の力をつけることができる。

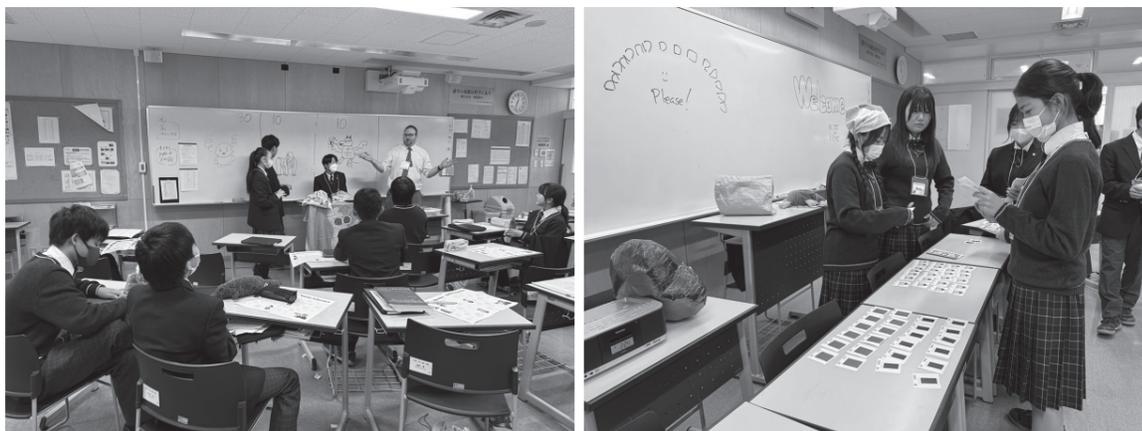
## 2. 内容

1日目 11月14日(木)

時限	時間	内容	場所
1	8:55~9:45	事前学習	J1A,J1B
2	9:55~10:45	開会式、講師紹介、アイスブレイク アクティビティ	MPH
3	10:55~11:45	チャレンジ アクティビティ 1	J1A, J1B, J2A, J2B,
4	11:55~12:45	チャレンジ アクティビティ 2	J1A, J1B, J2A, J2B,
(昼休み)			
5	13:30~14:20	CM 作成 (アイデア出し、練習、準備)	J1A, J1B, J2A, J2B,
6	14:30~15:20	CM 作成 (アイデア出し、練習、準備)	J1A, J1B, J2A, J2B,

2日目 11月15日(金)

時限	時間	内容	場所
1	8:55~9:45	事前学習	J1A,J1B
2	9:55~10:45	CM 作成 (アイデア出し、練習、準備)	MPH
3	10:55~11:45	CM 作成 (練習、撮影)	J1A, J1B, J2A, J2B,
4	11:55~12:45	チャレンジ アクティビティ 3	J1A, J1B, J2A, J2B,
(昼休み)			
5	13:30~14:20	チャレンジ アクティビティ 4	J1A, J1B, J2A, J2B,
6	14:30~15:20	CM 上映 クイズショー 閉会式	MPH



## 3. 生徒の感想

【アンケート結果】(6)~(9)は主な回答

項目	そう思う 5	4	普通 3	2	思わない 1
(1) イングリッシュデイに参加して良かったですか?	80.7%	14.0%	0%	3.5%	1.8%
(2) 英語で話すことに対する自信ができましたか?	31.6%	33.3%	30.0%	1.8%	1.8%
(3) 他の国の文化に興味が持てましたか?	54.4%	28.1%	17.5%	0%	0%
(4) 時間は適切でしたか?	47.4%	28.1%	10.5%	5.3%	8.8%
(5) またこのような行事に参加したいと思いますか?	66.7%	21.1%	7.0%	1.8%	3.5%

(6) 今回のプログラムの中で、何が楽しかったですか?

<回答> CM作り、CM撮影、ミニゲーム、ネイティブと話すこと

(7) 今回のプログラムの中で何がためになりましたか?

<回答> 買い物(ゲーム)、アクティビティ、

日本語が通じないから、自分の知ってる知識の中から伝えることでとても力がついたと思う

(8) ALTたちと話してみてもうでしたか?

<回答> 個性的な先生が多くて、話して楽しかった。

自分と趣味が合う先生もいたので、楽しかった。"

自分が思ったことを思うように伝えることができなかった

海外の話は面白くて、行ってみたいと思いました

(9) イングリッシュデイの感想を書いてください。

<回答> 英語でみんなでどんなものを発表するかを考えて、発表をして、海外の方々とたくさん話せるいい機会でした。

正確な文法より伝える気のほうが大事なのかなと思った。

先生たちと自分の英語の力でコミュニケーションが取れて楽しかった

英語あんまり得意じゃないけど楽しめた

## 4. 成果と課題

本校で行われる研修ではいずれも生徒が自主的に学び、ともに協力しながら成長する姿が確認できる。本研修は2日間しかないため、その前後にも研修を自覚させるべく事前にALT情報をいただき welcome Posterを作成。研修翌日の振り返りに Thank-you Letter を書き、ALTからはひとりひとりに Christmas Card の返信をもらう形をとった。心温まるカードは今後の英語学習につながるものになると思う。さらには、CM作成という主旨から準備段階では日本語の介入が多いこと、全体の約1割の生徒がよりハイレベルな活動を必要としていることが課題として考えられるため、次年度への課題としたい。



# Global Studies Program

教諭 森山 真帆 (国語科)

期間：2024年10月15日(火)～19日(土) 5日間

場所：本校 (高校1年S、T組 教室)

参加者：中高一貫コース 高校1年生 63名

## 1. 目的

- (1) 海外の一流大学に在籍している大学生・大学院生と英語でディスカッションすることでアカデミック英語に触れ、英語力の向上を図る。
- (2) グローバル社会で必要とされる資質であるポジティブシンキング、アイデンティティ、リーダーシップをテーマとしたり、あるいは人権、貧困、環境などの世界の諸問題について議論したりすることにより、グローバル社会で必要とされる知識やコミュニケーション能力を身につける。
- (3) 世界各国からの留学生と様々な問題について学び、課題探究のテーマ設定、内容改善に役立て、次年度実施予定のシンガポール研修の事前学習とする。



## 2. 内容

	10月15日(火)	16日(水)	17日(木)	18日(金)	19日(土)
8:55～9:45	Opening Ceremony Activity 自己紹介	Warming up 価値観について考える	Warming up 自分らしさを表現する	Warming up Day1の振り返り	Warming up 最終プレゼンテーションの練習
9:55～10:45	英語で話してみよう アクティブに質問をする Goal Setting	無意識に持っているバイアスを知る	本音と建て前	グループアクティビティ SDGsに関連したディスカッションを通して、自分の考え方を知り、考えの違う他者との協働の道を探る	最終プレゼンテーション 自分の強みは何か、それを活かしてコミュニティにどう貢献するか 講師・留学生からのフィードバック
10:55～11:45	社会的アイデンティティについて考える	文化によるレン、世界を見る際のバイアス(1)	自分が自分について知っていること、人が自分について知っていること		
Lunch Break					
12:55～13:45	個人のアイデンティティについて考える	文化によるレン、世界を見る際のバイアス(2)	プロジェクト グローバルなイベントで、多様な国籍や背景を持つ参加者を受け入れるために必要なことは？ 今日の振り返り	最終プレゼンテーション準備 自分の強みは何か？ それを活かしてコミュニティにどう貢献するか 原稿作成 今日の振り返り	グループリーダーとのディスカッション プログラム全体の振り返り Closing Ceremony 修了証授与
13:55～14:45	自分の持つスキルや才能、強みとは 今日の振り返り	自分の所属するコミュニティについて考える 今日の振り返り			
14:45～15:20	Reflection	Reflection	Reflection	Reflection	Reflection

## 3. 生徒の感想

プログラム終了後のアンケート調査

- 1 今回のプログラムはどうでしたか。  
非常に満足 (39.3%) 満足 (51.8%) 期待したほどではない (8.9%) 不満足 (0%)

- 2 プログラムのレベルはどうでしたか。  
簡単 (1.8%) どちらかといえば簡単 (10.7%) ちょうど良い (42.9%) どちらかといえば難しい (37.5%) 難しい (7.1%)
- 3 レッソンの時間は適切でしたか。  
短い (1.8%) どちらかといえば短い (8.9%) ちょうど良い (67.9%) どちらかといえば長い (19.6%) 長い (1.8%)
- 4 ファシリテーターは参加しやすい雰囲気を作っていましたか。  
そう思う (75%) どちらかといえばそう思う (21.4%) どちらかといえばそう思わない (3.6%) 思わない (0%)

プログラム前後の気持ちの変化について

	そう思う		どちらかといえばそう思う		どちらかといえばそう思わない		そう思わない	
	プログラム前	後	前	後	前	後	前	後
英語をもっと勉強したいと思う	54.1	62.5	41.0	33.9	1.6	1.8	3.3	1.8
英語を話すのが楽しいと思う	34.4	51.8	31.1	37.5	26.2	10.7	8.2	0
海外に行ってみたいと思う	54.1	57.1	23.0	26.8	8.2	7.1	14.8	8.9
世界のことをもっと知りたいと思う	47.5	53.6	37.7	30.4	8.2	12.5	6.6	3.6
様々な国の人と積極的にコミュニケーションを取りたいと思う	42.6	53.6	32.8	35.7	14.8	7.1	9.8	3.6
将来の夢や目標を見つめたいと思う	67.2	53.6	27.9	33.9	1.6	3.6	3.3	8.9

アンケート結果から生徒たちの満足度は非常に高いことがわかる。参加した生徒の90%以上が満足であると答えているが、内容は十分負荷のかかるものであり一人ひとりがチャレンジ精神をもって臨んだことが伝わる結果である。

事前事後のアンケート結果では、生徒がこのプログラムから大きく気持ちを動かされたことが伝わってくる。もともと英語に対して前向きな回答をしていた生徒が多かったが、事後では「そう思う」の割合が「英語をもっと勉強したい」「海外に行ってみたい」「世界のことを知りたい」「様々な国の人と積極的にコミュニケーションをとりたいと思う」の項目で増加した。彼らの知的好奇心が刺激されたことが分かる。尚、指導助言にあたった留学生は日本の大学に在籍しているアジア、アフリカ、ヨーロッパ出身の優秀な大学院生である。グループは生徒たちのレベルごとに分けて構成した。普段の英語の授業では消極的な生徒たちのグループで成立するのか不安もあったが、各グループの留学生がうまくサポートしており、生徒たちはプログラムを楽しんでいた。また、最後の個人発表では、英語でこのプログラムで学んだことや自分の将来の夢について発表したが、すべての生徒がしっかり前を向いて発表に取り組んでいたことはこのプログラムを通しての大きな収穫といえる、ここから、今後の研修につなげていきたい。

# 高円宮杯第 76 回全日本中学校英語弁論大会茨城県大会

教諭 張貝 紀子 (外国語科)

期 日：2024 年 9 月 30 日 (月)

場 所：茨城県教育研修センター

参加者：中学 3 年生 1 名

担当者：張貝紀子、Hope

主 催：茨城県教育委員会・茨城県教育研究会・読売新聞社

## 1. 目的

- ①国際性豊かな青少年を育てるために、国際語である英語を熟達させるとともに、広くその普及を図り、日本文化の発展ならびに国際親善に寄与する
- ②本県中学校英語教育の振興。
- ③高円宮杯第 76 回全日本中学校英語弁論大会決勝予選大会 (関東地区) 代表選出。

## 2. 内容

### (1) 弁論大会規定

#### ①論題：自由

弁論内容は生徒自身の意見・主張を英語でまとめた未発表のものとする。ただし、今年度の高円宮杯関連大会で発表したものはこの限りではない。剽窃は厳に禁止する。引用はそれとわかる表現で明示する。これらに違反した場合、失格とする。

#### ②制限時間：5 分 (超過した場合は減点とする)

#### ③審査方法：3 つの観点 (内容、英語力、表現) から審査する。特に内容を重視する。各審査員の採点合計をもとに順位を決定する。

### (2) スピーチ原稿

Toyo University Junior High School  
Nemoto Mimi

#### Birth rate in Japan

Have you heard that Japan's declining birth rate is causing an increase in its aging population? It has recently received a lot of attention in the media. What do you expect to happen if the dropping birth rate and aging population continue? In the future, the population will shrink, leaving just one or two persons of working age to support each senior person. In other words, how can we solve this economic problem that our country is facing? In my research, one social factor is education expenses.

So, this summer I visited two city halls and interviewed several staff and council who are taking steps to address this issue. I asked them about their efforts and plans for education and children in the region.

The first city is Tomisato, located in Chiba Prefecture. Tomisato's low birth rate can be addressed by two approaches. The primary goal is to address the issue of children waiting for admission to day-care and after-school programs. If parents are unable to leave their children in day-care centers, they are incapable to work. They must give up working, even if they wish to. In 2020, there were 56 children waiting for admission to day-care centers and 21 waiting for admission to after-school programs. Civil servants are developing a policy to lower the number to zero in the future.

The second opportunity is to study at Koyo Elementary School on a smaller scale because it has a unique educational curriculum that is not found in other schools. The extremely small number of children allows us to provide individual guidance to each student. I went to this school. It was great to have so much interaction

with the local community. For example, I was able to participate in a variety of activities, including having volunteers reading books, digging sweet potatoes, and cooking rice cakes with senior people.

Then there's Inashiki City, Ibaraki Prefecture. I spoke with them and asked about strategies and plans to increase the birth rates. The first step is to cover the cost of English exams for elementary and junior high school students. In addition to free English exam expenses, the city offers Eiken preparation classes provided by cram school professionals. As a result, those who want to take Eiken but are unable to do so due to financial limitations can enroll in this course and take on the challenge. This year, the city began to raise the number of kids passing Eiken in the surrounding communities.

The second advantage is that they can provide kids 20,000yen worth Japanese gift cards when they start or graduate from junior high. This policy is exclusive to Inashiki City. If you move to this city and raise one child aged 0 to 18, you can receive up to 3 million yen in assistance. This will ease the stress on the parents.

Finally, I learned that the two cities have numerous policies, but they are not well known to the locals. As a result, I believe that we, our generation, must be proactive in sharing knowledge about these regulations so that a large number of people become aware of them. To address the issue, the government should continue to provide financial help to people in order to increase the population. In my experience, attending a small-scale elementary school provided me and my parents with great experience, and I hope that when we become parents, we will be able to do the same for our children. If I have a child, I want my child to have the same experience.

I'd like to take little steps to improve Japan's future. I believe that small gestures can have a tremendous impact. Please make sure today's speech reaches many individuals. Thank you so much for your time and attention.

## 3. 成果と課題

本校中学校では、「グローバル探究」の授業 (哲学、教養、国際理解、課題発見) を通じて、物事を深く思考する力を養うとともに、日常的に行われているプレゼンテーションや発表を通じて自己表現力を高めている。さらに、英語教育では、英語落語や英語ディベートなど、実践的な英語運用の機会を重視している。今後は、これらの活動を一層充実させ、全校生徒が英語でスピーチできるよう、工夫を凝らしたシラバスの構築が課題となる。



# 英語プレゼンテーションフォーラム（中学生の部）

教諭 井上 博人（外国語科）

期 日：＜牛久市大会＞2024年7月17日（水） ＜県南地区大会＞2024年8月2日（金）

場 所：＜牛久市大会＞本校 ＜県南地区大会＞茨城県県南生涯学習センター

参加者：中学3年生5名

担当者：井上博人、マーロン・バクラーン

主 催：茨城県教育委員会 茨城県教育研究会

## 1. 目的

グローバルな視野を持ち、英語で自分の意見を発信し、他者と協働しながら課題を解決することができる人材を育成する。

## 2. 内容

### (1) 発表について

1校3名から5名のグループで、テーマについて、5分以内で英語によるプレゼンテーションを行う。その後、やり取りのための準備の時間（1分間）をとる。最後に、4分間でその発表内容について、リスナー側のグループと英語での交流（シェアリングタイム）を行う。

(2) テーマ 「茨城をよりよい県にするために、SDGsの視点でできることを提案しよう！」

### (3) 審査の主な観点・配点

- ・Content（現状分析、独自性、提案性、論理的構成）30点
- ・Delivery（英語表現の正確さ、流暢さ、プレゼンテーションスキル）20点
- ・Effectiveness（協働的な発表、資料提示）10点
- ・Sharing Time（やり取り、アクティブリスニング、対話の継続、サポート）  
プレゼンター側 20点 リスナー側 20点

### (4) スピーチ原稿

Girl 1: Look! That must be the spaceship that fell from the sky. (Boy from the future facing the wall, the audience can't see his face)

Girl 2: Wait! There is a boy. He might need help. Let's go!

Girl 1: Hi, are you OK?

Boy 1: Do you speak English? (Boy from the future turned his head to the two girls)

Girl 1, 2, and Boy 1: Aaaaaaaaahhhhhhh.... He looks different!

Girl 1 and 2: Why are you so thin?

Boy 1: And you look so pale.

Boy from the Future: I am a Boy from the future, the year 2100. I look like this because we have a problem. IT IS FOOD LOSS AND WASTE. In my time, people are dying. The environment is contaminated. The earth is in great danger. We must solve this problem before it is too late. Only your generation can save our planet.

Boy 1: Can you tell us more about the problem?

Boy from the Future: The problem began in your generation.

People are wasting our resources. Animals, crops, vegetables, fruits, and other foods.

As a result, your future generation, our future has a huge scarcity of food.

People end up looting in supermarkets and other stores. Crimes are happening everywhere. Your future is in great chaos!

Moreover, the humongous methane and CO2 build-up in the atmosphere is causing environmental

hazards.

We need your help!

Boy 2: I think I have a solution!

Girl 2: Oh! \_\_\_\_\_ You're here! Did you hear what we were talking about?

Boy 2: Of course! You left me there! Don't you remember?

Boy 2: I think I have a solution!

Girl 2: Oh! \_\_\_\_\_ You're here! Did you hear what we were talking about?

Boy 2: Of course! You left me there! Don't you remember?

By the way, the solution is to make a video campaign on food loss and its solution and post it on social media.

Girl 1, 2, and Boy 1: How?

Boy 2: Remember our class project? We interviewed different people about food management. It is also about food loss. It might help us solve the problem.

Boy 1: Yes, we interviewed the staff and cook of the school cafeteria.

Girl 2: Yeah! The lady from our cafeteria mentioned about leftovers that are thrown away. As a solution, they decrease the amount of food they prepare, and the orders of the last few students are on a made-to-order basis.

Girl 1: The chef I interviewed in a restaurant told me that their food gets bad due to improper storage. To solve, they only buy items that they need for the day. They refrigerate and consume everything they buy.

Boy 1: The staff from the convenience store I interviewed said that around 6.5 kg of food is wasted. To solve, they are selling foods that are about to expire at a discounted price.

Boy 2: We need to organize a campaign to urge people to solve the problem by making a video. We post it on social media.

Girl 1, 2, and Boy 1: Then we are ready! Boy 2: Me, too! Actually, there's the camera! Boy from the future: Then let's begin!

## 3. 成果と課題

参加生徒たちは積極的に準備に取り組み、大会では素晴らしい発表を行った。準備から大会まで多くの時間を費やして英語を学習することができ、英語力を向上させることができた。今年度も牛久市大会を勝ち抜き、県南大会へ出場することができた。県南大会を勝ち抜き、県大会へ出場するためには、参加生徒の英語でのコミュニケーション能力をさらに高めることが課題である。そのためには学校の設定する学習到達目標に基づき、年間指導計画に英語プレゼンを位置付け、生徒の英語での発信力を高める必要がある。



# 英語プレゼンテーションフォーラム（高校生の部）

教諭 井上 博人（外国語科）

期 日：2024年8月21日（水）

場 所：つくば国際会議場 大ホール

参加者：高校中高一貫コース5名（3年1名 2年1名 1年3名）

担当者：井上博人、マーロン・バクラーン



## 1. 目的

英語でのプレゼンテーションを通して、広い視野から郷土や国家、国際社会を理解し、その発展のために貢献しようとする意欲と態度を育てるとともに、ICTを活用しながら、英語を使って双方向のかつ論理的にコミュニケーションを図る力を高め、「国際県・茨城」を担う生徒の育成を図る。

## 2. 内容

### A 部門（Advanced Level）

ア 演 題：自由とする。ただし演題を設定し、その演題について課題を明らかにし、提案を行うこと。

イ 制限時間：10分から12分。

ウ 質疑応答：発表終了後、発表内容について審査員と英語での質疑応答を行う。

<生徒発表原稿> Title: Developing Water Purifier for Dirty River Water

### Introduction

In Japan, clean and safe water comes out when you turn on the tap, but what about the rest of the world? Currently, there are wars over water. There are conflicts between India and Pakistan and between Egypt, Sudan and Ethiopia.

If you look at developing countries such as Africa, 700 children under the age of 5 die every day from disease due to lack of safe water. There are also currently wars over water. Even in our immediate surroundings, fish are dying in large numbers and pollution is occurring in rivers. If this trend continues, Japan may end up like developing countries where clean water is no longer drinkable. Can we continue like this? Look at him! He is Tetsu Nakamura. He is a doctor but realized that clean and safe water is more important first than cure to make people healthy. And he saved people with irrigation canals. That is how essential water is for human beings.

### Background of the study

This graph shows the number of water pollution accidents. Water pollution accidents mean it may have a bad effect on water quality. For example, flowing out oil from factories. According to this graph, the number of water pollution accidents has decreased since 2004, but occurs 100 times in one year.

### Experiments

We created water purifiers with various conditions to make the water quality of rivers habitable for living creatures through filtration. We used water from the Kokai River for our experiments. We used the method as a model that we found on the Internet to create water purifiers in our first experiment. After that we created water purifiers that changed conditions.

We used activated carbon, hard mats, coconut mats, silicate clay, sand, cheese cloth, filtration wool, and Porous material to create water purifiers.

By changing the amount of filtering materials of each water purifier, we researched the effects that were given filtering materials. Also we used test kits to know how much these substances include in the water. As mentioned in the introduction, our ultimate goal is to turn dirty water into drinkable water. However, we

thought that it would be difficult to make water drinkable for people within the scope of our activities, so we created a water purifier that can make water that creatures can live in before trying to create drinkable water purifiers for people.

### Results

For the results of this experiment, we used all the same kind of filtering materials in order to see how the water quality would change with changes in the amount of filtering materials.

#### 1. Standard filter

This slide shows as a result used the standard filter.

It is based on this time experiment, so we used the same amount of filter material.

The PH before the purification was 6.2, but after the purification is 8.4.

Also total alkalinity before the purification was 180, but after the purification is 240. cyanuric acid and total hardness were 0 before and after.

#### 2. Active carbon

We used more active carbon in this experiment.

The PH before the purification was 6.2, but after the purification is 8.4.

The cyanuric acid before the purification was 0, but after the purification is 100.

#### 3. Silicate clay

We used more silicate clay in this experiment.

The total alkalinity before the purification was 180, but after purification is 240.

#### 4. Sand

We used more sand in this experiment.

The PH before the purification was 6.2, but after the purification was 8.4.

The Cyanuric Acid before the purification was 0, but after the purification was 40.

#### 5. Porous materials

Finally we used more porous materials in this experiment.

The PH before the purification was 6.2, but after the purification is 8.4.

also total alkalinity, cyanotic acid and total hardness were 0 before and after.

This graph shows the results of all the experiments. The number in the red shows over the standard level and the number in blue shows below the standard level. According to this slide, activated carbon and sand have a positive effect on the cyanotic acid return to reference level. Also silicate clay has a positive effect on the pH level return to reference level. On the other hand we couldn't improve the total alkalinity level, so we need to use other filter materials that have a positive effect on total alkalinity level return to reference level.

### Future tasks

We are planning to create a water purifier that will use more silicate clay, active carbon and sand. Also driftwood has a good effect to improve the total alkalinity level, so we are going to use it in the next experiment. Besides, we are planning to increase the variety of water sampling areas, install circulation systems and have living organisms in the next experiment.

We couldn't create perfect water purifiers at this time, so our experiment will continue!

## 3. 成果と課題

今年度は中高一貫コース3年生が課題探究で取組んだ研究をもとにプレゼンテーションを作った。5人で分担し素晴らしい発表であった。県内の大会出場者は年々増加し、レベルも上がってきている。今後の課題は大会上位入賞できるように一人一人の英語力を伸ばすことである。そのためにはグローバルスタンダードレベルの英語力を目指し、英語での「発表」と「やりとり」を授業の中心に据える必要がある。



# 東洋大学英語スピーチ／プレゼンテーションコンテスト

教諭 麻生 裕二 (外国語科)

期 日：2024年11月23日(土)  
場 所：東洋大学 白山キャンパス  
参加者：高校2年生2名(特進コース1名、中高一貫コース1名)  
主 催：東洋大学

## 1. 目的

- ① 英語を使い自らの考えや主張を訴えることができる国際的な視野に立った人材を育成する。
- ② 現代の日本が直面する問題について英語で問題提議をすることで多くの人々に訴えかける。

## 2. 内容

(1) 課 題 「What is a challenge facing modern Japan? Describe the problem and suggest a solution that is inspired by something from Japan's history.

現代の日本に直面する課題は何ですか？その問題を説明し、日本の歴史から着想を得た解決策を提案してください

(2) 発表内容

2-S 高島伊吹

TOPIC : Decline of local governments due to population leaks and aging society

2-L 岸翔太

Japanese English Education

## 3. 成果と課題

高校生の部門は東洋大学の付属校3校での参加であった。本校からの参加者2名は賞をいただくことはできなかったが、東洋大学の学生、他の付属校(姫路・京北)の生徒と交流をする機会もあり、大きな刺激を受けたようである。

また英語を用いたプレゼンテーションの重要性に改めて注目することができ、他校の高校生や東洋大学の学生にアドバイスを求めたりすることで視野を広げることができたようである。



# 第14回茨城県ローズ杯高校生英語ディベート大会

教諭 井上 博人 (外国語科)

期 日：2024年10月27日(日)  
場 所：本校  
参加者：高校1年生9名、高校2年生4名  
担当者：井上博人、マーロンバクラーン

## 1. 目的

広い視野から郷土や国家、国際社会を理解し、その発展のために貢献しようとする生徒の意欲・態度を育てるとともに、英語による実践的なコミュニケーション能力を高めることで、「国際社会で活躍できる人材」の育成に資する。



## 2. 内容

### (1) 参加条件

- ① 全国高校英語ディベート連盟 (HENDA) による「メイク・フレンズ憲章」を厳守できること。
- ② 県内の高等学校、中等教育学校後期課程の生徒であること。ただし、英語のネイティブスピーカーは不可。
- ③ 以下の海外生活経験者等の条件に該当する者はチームに2名まで登録できる。  
(試合ごとの出場制限は設けず、条件該当者も各試合最大2名とも出場可。)  
・英語を第一言語とする国で12ヶ月以上滞在経験のある生徒(就学前の滞在は不問)  
・英語を第二言語とする国の出身である生徒(就学前の滞在は不問)  
・家庭で常用的に英語を使っている生徒

### (2) チーム構成

1校1チームまたは2チームとし、選手登録はそれぞれ4名~6名とする。試合へ出場できるのは4名で、試合ごとにメンバーを入れ替えてもよい。ただし、2つのチームからメンバーを入れ替えることはできない。

### (3) 対戦方法

	スピーチ	時間	肯定	否定
1	Affirmative Constructive Speech (肯定立論)	4 min	A1	
	Preparation Time (準備時間)	1 min.		
2	Questions from the Negative (否定質疑)	2 min.	A1	N4
3	Negative Constructive Speech (否定立論)	4 min.		N1
	Preparation Time (準備時間)	1 min.		
4	Questions from the Affirmative (肯定質疑)	2 min.	A4	N1
	Preparation Time (準備時間)	2 min.		
5	Negative Attack (否定アタック)	3 min.		N2
6	Questions from the Affirmative (肯定質疑)	2 min.	A3	N2
7	Affirmative Attack (肯定アタック)	3 min		
8	Questions from the Negative (否定質疑)	2 min.	A2	N3
	Preparation Time (準備時間)	2 min.		
9	Affirmative Defense (肯定ディフェンス)	3 min	A3	
10	Negative Defense (否定ディフェンス)	3 min		N3
	Preparation Time (準備時間)	2 min.		
11	Affirmative Summary (肯定総括)	3 min	A4	
12	Negative Summary (否定総括)	3 min		N4

予選を4試合行い、その結果に基づき、上位1・2位のチームが決勝、3・4位のチームが3位決定戦を行う。ただし同一校から上位のチームが複数出た場合は、上位のチームのみが決勝または3位決定戦に進むとともに、5位以下の学校のチームを繰り上げる。

(4) 論題 Resolved: That the Japanese government should abolish all nuclear power plants in Japan.  
日本政府は、原子力発電所を全て廃止すべきである。是か非か。

### 3. 成果と課題

今大会は本校を会場にして行われた。昨年度に続き2回目であった。会場校として会場整備や開会式、閉会式の司会も行った。このような伝統ある大会が本校で2年連続開催されたことは意義あることで、今後ますます本校の英語教育が推進されることが期待できる。

準備型のディベートの場合は、主張の根拠となるエビデンスを示さなければならないルールとなっている。準備に多くの時間を割かなければならないが、取り組んだ生徒の英語力は飛躍的に向上させることができる。しかしながら、準備が大変であるため、途中でドロップアウトしてしまったり、練習会に積極的に取り組むことができなくなったりする生徒も少なくない。準備や練習会、練習試合に参加すれば、飛躍的に英語力を向上させることができるため、今後の課題は生徒たちのモチベーションを落とさずに継続してディベートに取り組むことができるような体制を構築することである。

## 文部科学省・外務省後援

# 第10回 PDA 高校生パラメンタリーディベート世界交流大会

教諭 井上 博人 (外国語科)

期 日：2025年1月23日(木) 24日(金) 25日(土)

会 場：ホテル日航関西空港／オンライン (Zoom)

参加者：高校2年生1名(特進)、1年生2名(一貫)

担当者：井上博人



### 1. 目的

昨今、グローバル化の加速により、多様な文化や考え方を理解し、グローバル社会で貢献できる人財の育成が求められている。本大会では、パラメンタリーディベートを通して、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、コミュニケーション力など複数の力を発揮し、様々な国の人と同じ土俵で議論し、成長する機会を提供する。キーノートスピーチなど最新の講演も織り交ぜ、グローバルに活躍できる人財育成とすることを目的とする。ディベートという手法を通して効果的な国際交流を図るプログラムである。また、スケジュールも国際会議、国際学会に似たものとし、高校生にとって、将来的にこのような世界の舞台に参加するイメージや各々の目標を持ってもらうことを期待している。なお、本大会では、文部科学省助成調査研究の結果を踏まえ、通常の授業でできる即興型英語ディベートのフォーマットを用いる。そうすることにより、クラブの生徒に加え、一般の生徒も参加しやすい形態となっている。16か国26チーム(日本6チーム、海外20チーム)が集まり世界交流大会が開催された。対面形式とオンラインで繋いでディベートを行うハイブリッド形式であった。本校から3名の生徒が参加し、世界の同世代の学生たちと英語で議論を交わし、熱戦を繰り広げた。論題とタイムスケジュールは以下の通りである。

### 2. 内容

16か国26チーム(日本6チーム、海外20チーム)が集まり世界交流大会が開催された。対面形式とオンラインで繋いでディベートを行うハイブリッド形式であった。本校から3名の生徒が参加し、世界の同世代の学生たちと英語で議論を交わし、熱戦を繰り広げた。論題とタイムスケジュールは以下の通りである。

(1) 論題 (論題は、毎回ディベート開始15分前にはじめて発表されます)

予選1: Homework should be abolished. 宿題を廃止すべきだ。

予選2: Being fashionable brings more benefit than harm. おしゃれは害よりも利益をもたらす。

予選3: Donald Trump's second presidency would do more harm than good to the world.

ドナルド・トランプの2期目の大統領就任は、世界にとって利益よりも害をもたらす。

予選4: Developing countries should prioritize investing in online education over in-3 person education.

発展途上国は対面教育よりもオンライン教育を優先すべきだ。

準決勝: It is better for students to work after graduation of high school rather than to go to university.

生徒にとって、高校卒業後に大学に行くよりも働いた方がよい。

決勝: Countries with high carbon emissions should pay climate reparations to low emitting nations disproportionately affected by climate change. 二酸化炭素排出量が多い国は、気候変動の影響を不均衡に受けている低排出国に対して賠償金を支払うべきだ。

(2) Time Schedule (Japan time) タイムスケジュール (日本時間)

Jan.23(Thursday)		Day 1 1日目
Place 場所	Time 時間	Activities 内容
Hakucho 白鳥の間 Zoom Main Room	11:55AM ~ 12:20PM	Registration 受付
Hakucho 白鳥の間 Zoom Main Room / Breakout Rooms	12:20 ~ 12:50PM	Opening and Welcome Ceremony 開会式 Explanation of the rules ルール確認など
	12:50 ~ 02:00PM	Debate Round 1 デイベート 1 ラウンド目
	02:00 ~ 02:30PM	Break 休憩・International exchange 国際交流
	02:30 ~ 03:40PM	Debate Round 2 デイベート 2 ラウンド目
	03:40 ~ 04:50PM	Debate Round 3 デイベート 3 ラウンド目
	04:50 ~ 06:00PM	Break (Check-in to hotel rooms) 休憩 (ホテルのチェックイン)
Tsuru 鶴の間 Zoom Main Room	06:00 ~ 08:00PM	Welcome Party: "Culture Night" . Presentations of participants' countries 世界の国々の文化紹介 (カルチャーナイト) Banquet / パンケット
	From 08:00PM	End of Day 1 - Free Time 解散・自由時間
Jan.24 (Friday)		Day2 2日目
Place 場所	Time 時間	Activities 内容
	05:30 ~ 08:45AM	Breakfast buffet will be open. 朝食開始
Hakucho 白鳥の間 Zoom Main Room / Breakout Rooms	10:00 ~ 10:20AM	Registration 受付
	10:20 ~ 11:30AM	Debate Round 4 デイベート 4 ラウンド目
	11:30AM ~ 12:30PM	Break (Lunch) 休憩 (昼食)・International exchange 国際交流
	12:30 ~ 12:40PM	Announcement of the Semi-Finalists 準決勝進出チームの発表
	12:40 ~ 01:40PM	Debate Semi-Final Rounds 準決勝
	01:40 ~ 01:50PM	Announcement of the Grand-Finalists 決勝進出チームの発表
Tsuru 鶴の間 Zoom Main Room	01:50 ~ 02:10PM	Keynote Speech キーノートスピーチ
	02:10 ~ 03:10PM	Debate Grand Final Round 決勝
	03:10 ~ 04:00PM	Awards and Closing Ceremony 閉会式, 終了
	05:00 ~ 07:00PM	Dinner 夕食
Jan.25 (Saturday)		Day3 3日目 *In-person participants only 対面参加者のみ
Place 場所	Time 時間	Activities 内容
	05:30 ~ 08:45AM	Breakfast buffet will be open. 朝食開始
	~ 10:00AM	Check-out チェックアウト

3. 成果と課題



英語の授業でディベートを積極的に取り入れ、定期考査ごとにスピーキングテストを実施、校内英語インターラクティブフォーラム東洋カップを開催した取り組みが評価され、全国大会にて授業導入優秀賞を受賞し、世界大会に参加することができた。予選結果は1勝3敗で26チーム中22位であった。個人賞のベストディベーター賞を1名受賞することができた。授業で英語ディベートを導入する学年を増やし、課外活動として練習や他校との練習試合、さまざまな大会出場をするなどして、英語ディベート活動の量を増やした。その結果、ディベート活動に参加する生徒も増加し、大会に参加することができるレベルに達する生徒も増えてきた。しかしながら、そのレベルはまだ世界的な基準に到達しているとはいえ、さらなる改善が必要である。授業内容や海外語学研修の期間・内容の見直し、生徒の英語コミュニケーション能力の向上を図ることが課題である。

- チーム賞 優勝：UWC ISAK (バングラデシュ・フィリピン・スリランカ)  
準優勝：聖光学院高等学校 準決勝出場チーム：フィリピン2、ルーマニア1  
文化賞 タイ・フィリピン・モロッコ・雲雀丘学園高等学校  
個人賞 ベストディベーター賞15名 POI賞13名

第10回 PDA 高校生即興型英語ディベート全国大会

教諭 井上 博人 (外国語科)

期 日：2024年12月24日(火)・25日(水)

場 所：東京大学 生産技術研究所 コンベンションホール参加者

参加者：高校2年生1名(特進)、1年生2名(一貫)

担当者：井上博人

1. 目的

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会(PDA)では、グローバルに活躍する人財育成の一手法として、英語での発信力、論理的思考力、幅広い知識・考え方、プレゼンテーション力、コミュニケーション力などの複数の力を効果的に訓練可能な即興型英語ディベートを推進している。本大会では、即興型英語ディベートの普段の練習の成果を試し、全国の高校生と議論を交わすことで、さらなる成長・学習意欲を促すことを目的とする。授業での取り組み成果を発揮できるよう、形式は授業導入可能なフォーマットである。

2. 内容

今回も昨年度に引き続き対面式とオンラインとのハイブリッドでの大会であった。本校はこれまでの英語ディベートの取り組みが評価を受け、全国大会に選拔され出場することができた。本校から3名の生徒が参加し、全国の強豪校と英語で議論を交わし、熱戦を繰り広げた。論題は以下の通りである。

予 選 1：The Japanese government should prohibit the use of SNS under the age of 16.

日本政府は16歳未満のSNS使用を禁止すべきである。

予 選 2：In Japan's university entrance examinations, AO examinations should be increased rather than general entrance examinations.

日本の大学入試では、一般入試よりもAO入試を増やすべきである。

予 選 3：The United Nations should completely ban the development and use of Lethal Autonomous Weapon Systems (LAWS).

国連は、自律型致死兵器システム(LAWS)の開発と使用を全面的に禁止すべきである。

予 選 4：Researchers should focus their research on national policy rather than their own interests.

研究者は、自分の興味よりも国の政策に着目した研究をすべきである。

準々決勝：Japan should prioritize solving domestic problems over international problems.(Examples:

International problems = climate change, war Domestic problems = declining birthrate, aging population, rising prices)

日本は、国際問題よりも、国内問題の解決を優先すべきである。(例：国際問題=気候変動、戦争国内問題=少子高齢化、物価上昇)

準 決 勝：We are the ones who create Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan.

大阪・関西万博をつくるのは、わたしたちである。

決 勝：SNS is more reliable than old media (newspapers, television, etc.)..

オールドメディア(新聞やテレビなど)よりもSNSのほうが信頼できる。

3. 成果と課題

昨年度の課題は他校に比べると練習量、試合数が圧倒的に足りないことであった。今年度は授業で英語ディベートを導入する学年を増やし、課外活動として練習や他校との練習試合を重ね、さまざまな大会へ出場した。その結果、全国大会83校中49位(2勝2敗、コミュニケーションポイント133)の成績で、英語授業導入優秀賞を受賞することができた。授業への英語ディベートの導入、スピーキングテストの実施、校内英語ディベート大会(東洋カップ)の開催などが評価されたものと思われる。今後は、より多くの生徒が大会に出場できるレベルの

英語力を身につけられるように、授業を通じて高次レベルの英語ディベートを経験する機会を増やしていくことが課題である。

〈チーム賞〉

優勝 神戸大学附属中等教育学校 準優勝 聖光学院高等学校 3位 雲雀丘学園高等学校

〈授業導入優秀賞〉

東洋大学附属牛久高等学校 東京都立千早高等学校 大阪府立北野高等学校

〈予選結果〉

順位	チーム名	勝数	pts.	順位	チーム名	勝数	pts.	順位	チーム名	勝数	pts.
1st	聖光	4	180	29th	一関第一	2	163	57th	嵯峨野	2	113
2nd	渋谷教育渋谷	4	170	30th	藤島	2	160	58th	三田	1	150
3rd	筑駒	4	151	31st	翔凜	2	157	59th	前橋	1	145
4th	品川女子	4	141	32nd	屋代	2	156	60th	多摩	1	145
5th	仙台第二	4	138	33rd	市立浦和	2	150	61st	香住丘	1	142
6th	神大附属	3	167	34th	城ノ内	2	148	62nd	城南	1	142
7th	雲雀丘	3	167	35th	関西創価	2	147	63rd	宇都宮	1	141
8th	鶴丸	3	163	36th	半田	2	145	64th	真岡	1	140
9th	柏陽	3	163	37th	ラ・サール	2	143	65th	横浜翠嵐	1	138
10th	船橋	3	159	38th	ノートルダム	2	140	66th	清水東	1	138
11th	相模原	3	156	39th	岐阜	2	140	67th	作新	1	137
12th	茅ヶ崎北陵	3	155	40th	湘南	2	139	68th	八代	1	135
13th	東海	3	153	41st	宇都宮東	2	139	69th	大島	1	135
14th	四日市	3	152	42nd	獨協	2	139	70th	花巻北	1	133
15th	大阪女学院	3	148	43rd	盛岡第一	2	139	71st	清真	1	131
16th	長野	3	147	44th	慶應	2	137	72nd	神奈川朝鮮	1	131
17th	富山国際	3	143	45th	伊那北	2	135	73rd	厚木	1	129
18th	東桜学館	3	142	46th	岡山大安寺	2	134	74th	北野	1	127
19th	東洋英和	3	142	47th	諏訪清陵	2	133	75th	ウルスラ	1	126
20th	浦和一女	3	140	48th	栄光	2	133	76th	青森	1	117
21st	山形東	3	136	49th	東洋大牛久	2	133	77th	真和	1	113
22nd	日比谷	3	134	50th	甲府西	2	131	78th	竹園	0	154
23rd	川越女子	3	134	51st	鳥取西	2	131	79th	千早	0	134
24th	大成	3	132	52nd	県立浦和	2	129	80th	鳥取東	0	130
25th	太田女子	3	131	53rd	埼玉開智	2	128	81st	釧路湖陵	0	127
26th	写合	3	128	54th	八戸	2	128	82nd	関西大倉	0	118
27th	前原	3	128	55th	盛岡第四	2	128	83rd	和歌山開智	0	115
28th	奈良	2	166	56th	洗足	2	120	(補欠)	千葉		

# 地球環境ユースサミット2024 in KYOTO

主事 石塚 俊文（地理歴史・公民科）

期 日：2023年9月～2024年8月

場 所：〔導入講座・本講座〕オンライン〔京都・宮津サミット〕京都府立青少年海洋センター「マリンピア」

参加者：高校3年生3名

主 催：京都超SDGsコンソーシアム（京都大学、京都市、リコー、JT、安田産業、ソフトバンク、ecommit、セブン&アイ・ホールディングス、三洋化成工業）

## 1. 目的

- ①グローバル社会において必要な「英語でのコミュニケーション、ディスカッションスキル」、「自身が周囲と連携して成し遂げたいことを伝え、共感を得る力や、それを実現するためのスキル」を身につける。
- ②日本中、世界中の中高生と議論したアイデアを机上で留めることなく、自分の地域に還元、実装することを目指す。

## 2. 内容

### (1) 導入講座

日時：2023年9月～2024年2月の第2土曜日に①14時～16時、②22時～24時にオンライン開催。

※海外からの参加者に配慮し、1日に同じテーマで2回実施、どちらかに参加する。

内容：事前の講義動画（英語）を視聴した上で、幅広いSDGsに関連した話題について英語を中心としたディスカッションを実施する。

### (2) 本講座…2024年2月～8月にオンライン開催

日時：①キックオフ会…2024年2月24日（土）16:00-19:00（UTC+9; JST）

②中間報告会…2024年4月13日（土）、6月1日（土）、7月13日（土）

③グループミーティング…グループメンバーとメンターで相談の上設定

※キックオフ会と中間報告会は原則全員参加。その他に、グループごとに適宜ミーティングを行う。

内容：参加者は登録時に、①炭素中立、②資源循環、③生物多様性、④多様性・平等・包括性、⑤ウェルビーイング、⑥2030年からのSDGs、⑦地域の持続可能性（海や宮津に関わる内容）、から興味関心のあるテーマを選択し、興味関心に合わせて5、6人程度のグループが編成される。グループにはメンターが最低1人付き、定期的な進捗管理を行う。各グループは地球環境問題に関するテーマを一つ設定し、半年間かけて深い議論を行い、メンターや各界の先輩との交流の下で、提言などに繋がるアウトカム（ポスター）の作成を目指す。

### (3) 京都・宮津サミット

日時：2024年8月8日（木）～10日（土）、対面とオンラインのハイブリッド開催（本校生3名は対面参加）

内容：本講座で作成したポスターを持ち寄り、グループの垣根を超えて議論し、ブラッシュアップする。また、「海の京都」宮津において、実地での学びを重視したプログラムを実施し、肌で地球環境問題について考えられる実地研修を行う。ここでの議論を踏まえて最終アウトカム（動画）を後日提出する。

〈スケジュール〉

8月8日（木）	① 天橋立見学 ② 地曳網体験 ③ 参加者同士の対話ワークショップ
8月9日（金）	① クリーンアップ活動 ② ワークショップ・ポスターセッション ③ 実地研修プログラム A) 大手川コース B) 上世屋コース C) マイクロプラ調査コース D) 海底ごみ調査コース E) Green Job コース ④ 実地研修プログラムの振り返り会
8月10日（土）	① グループディスカッション ② ラップアップ

### 3. 成果と課題

#### (1) 京都・宮津サミットでのポスターセッション生徒報告（一部抜粋）

①ポスターセッションで議論した課題は環境を守るため、プラスチックなどのゴミの量を減らす方法です。提案した解決策はベトナムで生産されているハマベドウという植物の葉によって作られたお皿を世界に広め、使用を促進することです。このお皿を使うメリットは植物由来の製品のため自然に分解しやすく環境に優しいことです。また、より多くのお皿を生産するために、ハマベドウを植えることで植物の光合成によって空気中の二酸化炭素量を減らすことが可能です。これらのことから、植物で作られたお皿を使うことで持続可能な社会の実現を可能にすると考えました。ハマベドウの生息に適していない地域で代用できる植物があるといいなと思いました。住む地域によって異なる種類の植物でお皿を作れたら地域の色を出すことができて人気が出るのではないかと感じました。

②私達のグループは、カーボンニュートラルをテーマにコンポストを広める提言をしました。コンポストを学校に設置することで焼却されるゴミが減り、二酸化炭素の排出を削減できます。また、コンポストでできた堆肥で植物を育てれば、二酸化炭素の吸収量を増やすことができます。発表後、「なぜゴミを減らすのに食品ロスでないといけないのか」などについて大学生と議論を行いました。また、「どのくらい二酸化炭素を削減できるのかを調べたほうがいい」などの助言を得ることができました。

③他のグループが発表した環境に優しい製品をどのように広め、販売する場合はどのような価格設定にするべきかについて議論しました。議論の中では、セット販売が効果的で、なぜ環境に優しいのかを丁寧に伝えることで消費者の意識が高まるのではないかと話し合いました。

#### (2) 生徒感想（一部抜粋）

①京都・宮津サミットで一番記憶に残っているのは、大手川で行った実地研修です。実地研修では、草の影になっているところを狙って水の流れの下流に網を構え、上流から流れに沿って足で魚を網の方向へ追い込むように動かして魚を捕獲しました。同じコースの仲間と捕獲した魚にはアユやハゼなどきれいな川にしかないような魚がおり、川の清潔度が住んでいる生き物で分かるのが大変おもしろいなと思いました。また、川の断面内の水深、流速の分布が広範になり、多様な流れ場を創出するためにパープ工を川に設置しました。パープ工を作るためにコースの仲間と近くの高校のフィールド探求部の方々と協力し、木の杭を川に八の字を描くように打ち、木の杭に沿って作った土嚢を積み上げました。パープ工を設置したことによってその部分の川の水が増加し流れも急になり、川の水位が上がったことで近くにあった乾燥していた湾処の中に水が入り、池のようになりました。自分たちの力で川の様子を変えることができたことに感動しました。また、人の手が加わることで守られる生物の多様性や川の環境があることを知り、人と自然の共生に興味を持ちました。

②私はコース活動が一番記憶に残っています。私達のコースは、プラスチックごみをテーマにしました。ショッピングモールへ行きプラスチックごみを減らせる良い取り組みを見つけ、ここを改善すればもっとプラスチックごみを減らせるのではないかとこの事を考えました。その後、部屋で自分が見つけたことや他のメンバーが見つけたことを聞き、それを下にグループでディスカッションを行いました。自分が気づかなかったことも多くあり、視点を広げることができたと感じています。それらをスライドにまとめる活動では、会って間もない人と協力して分担してタスクをこなすという、大学生や社会人になってからも役に立つのではないかなと思う経験ができ、大きな物を得ることができたなと感じました。

③このサミットを通じて、ただ知識を得るだけでなく、行動することの大切さも学びました。参加するのにはとても勇気がいり、壁にぶつかってサボってしまうかと思うこともありましたが、参加すると判断したこと、妥協せずにやりきったことは自分に自信が持てる大きなきっかけになりました。ここで得た経験を生かし、今後も環境問題に取り組み続けたいと強く感じています。そして、仲間たちと共に、持続可能な未来のために努力を続けていきたいと思っています。

## 2024 年度全国高校生フォーラム

専任講師 Glenn Serviss (外国語科)

期 日：2024 年 12 月 15 日 (日)

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

参加者：フィールドワーク、データ収集・入力：高校 1 年生 38 名 (グローバルコース)

ポスタープレゼンテーション発表：高校 1 年生 3 名 (グローバルコース)

### 1. 目的

文部科学省が実施している World Wide Learning 及び SGH ネットワークに参加する高校生が一堂に会し、日頃取り組んでいるグローバルな社会課題の解決方法や提案等をプレゼンテーションするとともに、生徒交流会にてディスカッションを行います。

### 2. 内容

#### (1) スケジュール

	月 日	内 容
1	4 月 30 日 (火)	フィールドワーク (参加者：38 名) 場所：山梨県南都留郡忍野村 忍野八海
2	11 月 4 日 (月)	フィールドワーク (参加者：4 名) 場所：東京都 浅草・上野公園
3	12 月 15 日 (日)	全国高校生フォーラム (参加者：3 名) 9:00 受付・準備 10:00 開会式・オリエンテーション 10:25 ポスタープレゼンテーション予選 11:45 ディスカッションセッション 12:50 昼休み 14:10 ポスタープレゼンテーション決選 15:15 表彰式・閉会式 16:00 終了



1. 忍野八海にてインバウンド観光客からデータ収集の様子

#### (2) ポスタープレゼンテーション

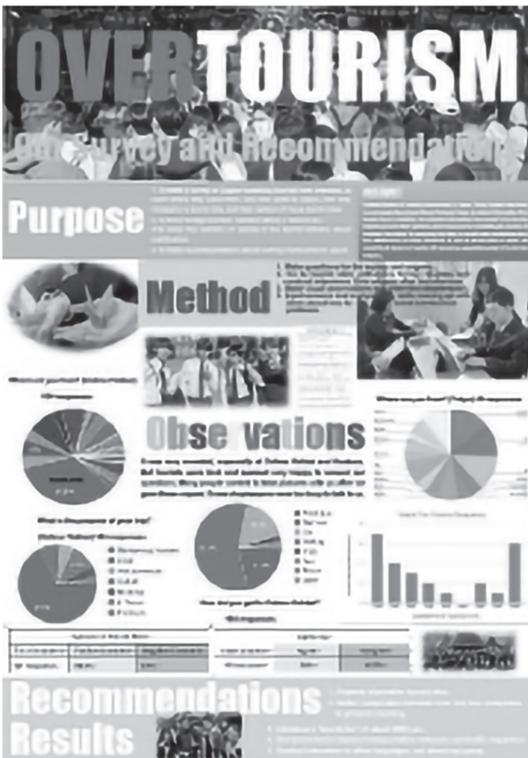
- タイトル：～オーバーツーリズム～私たちの調査と提案
- 要約：私たちはオーバーツーリズムの対策についての人々の考えを調査した。インバウンドの増加により、日本ではオーバーツーリズムが発生している。富士山周辺や東京で英語を用いて、外国人観光客から情報を収集した。また、今後の抑制策について観光業界の関係者から意見を集めた。これらを用いて、日本の観光地における効果的な対策を提案することができる。この結果を皆様と共有したいと思う。
- 発表時間：4 分間 (英語による研究の目的、方法、結果等についての説明)
- 自由質疑対応：4 分間 (審査員、引率者や他の参加者による英語での質疑)

#### (3) ポスタープレゼン発表原稿 Title: Overtourism: Our Survey and Recommendations

Purpose: My class went near Mt. Fuji last April for Homeroom Gassyuku. We experienced the problem of overtourism when we went to Oshino Hakkai to interview foreign tourists in English. On November, 4 classmates also went to Asakusa and Ueno Park. The purpose of our survey was to know about where they came from, their opinions about tourist tax and overtourism, and to make recommendations about solving overtourism.

Method: We did our survey in 4 main steps. First, we made 10 questions in English and made origami at night during the Homeroom Gassyuku. Second, we went to tourist sites with many foreign tourists and did interviews. We gave origami after the interview, so we wouldn't interview anyone twice. Third, we made visual observations and interviewed some shopkeepers. Finally, we compiled the data from the interviews and thought about how to solve overtourism problems.

Observations: The sites we went to were very crowded but tourists were kind and looked happy when



2. 研究発表のポスター

answering questions. After the survey, we gave origami as a present and took pictures. Also, we did a survey of shopkeepers but some of them were too busy to answer.

These graphs show data from Oshino Hakkai. About 70% of people's purpose was sightseeing, and about 60% of people came by tour bus. Another 20% used public buses. The largest number of people was from Australia, about 35%.

This data is from Asakusa and Ueno Park where we interviewed 46 people. Australia had 15%, the largest number of people. The same percent came from various countries in Asia. Only 5 people had negative opinions about the tourist site, such as too crowded or busy. On the other hand, most opinions were positive, such as beautiful or nice.

Almost 90% of people we interviewed in Asakusa and Ueno Park agreed with a tourist tax. They can be made into two groups. One group said they would pay between 1,000 and 3,000 yen, not so much. But another group said they would pay 7,000 to 10,000 yen, a lot more. If tourist tax is too high, many people might avoid coming here.

Recommendations and Results: We think alternative

tourist sites should be introduced. According to these opinions, we feel the best price for tourist tax is 3,000 yen. This money can be used to make transportation to alternative tourist sites, and improve traffic regulations at over-crowded sites.

According to this information, most tourists use tour buses, so better cooperation between bus companies is needed to prevent over-crowding. They can also introduce alternative sites on their tours.

Our information comes from people who know English, so it is necessary to do interviews in other languages, such as Chinese. If we had more information about the age of tourists, we can also make recommendations according to their age groups.

### 3. 成果と課題

#### (1) 生徒の感想



3. プレゼンテーションの様子

There, I realized that my English skills were not good enough. Therefore, I wanted to study harder and be able to explain my opinions and things in English. / I was too nervous to speak. Other high school students are so good at speaking English, so I could know my English skill. I thought I should study harder. / We needed more practice. I forgot things to say during the presentation, but I made an unforgettable memory.

#### (2) 課題

全体的に他校の参加者の英会話力がとても高く、今後、高校2～3年生からの帰国子女や英検準1級取得している生徒の参加は望ましい。

## 附属3校 高大連携プログラム SUMMER ACADEMIA 2024

主事 井坂 忠生 (進路指導部・国語科)

期 日：2024年8月19日(月)・20日(火)

場 所：東洋大学 白山キャンパス・川越キャンパス・朝霞キャンパス

参加者：高校2年生66名 引率教員16名

主催：東洋大学



### 1. 目的

- ① 大学で学ぶことの魅力を体感する。
- ② 各附属高校の生徒と学びを通して交流する。

### 2. 内容

- (1) 各学部からの事前課題に取り組み、それをもとに、当日、講義・実験・実習・グループワーク・発表等を行う。
- (2) 開講学部学科・テーマ

学部・コース	テーマ
(1) 文学部	「『翻訳』とは何か」「海外に雄飛する日本人」
(2) 経済学部	「経済学とは何か」「着眼力と発見力」「リーダーシップとは何か」
(3) 経営学部	「大学でビッグデータ時代に会計を学ぶ」
(4) 法学部	「賛否両論・契約(約束)の例外」「18歳になると変わることで、変わらないこと」等
(5) 社会学部	「社会心理学の領域・考え方・研究方法を学ぶ」
(6) 国際観光学部	「観光と交通まちづくり」「世界遺産の理念と課題」「世界遺産と観光開発」
(7) 理工学部①機械工学科	「実験×しむレーションで分かる翼の空力最適設計」
(7) 理工学部②電気電子情報工学科	「電場・磁場の作用を受ける荷電粒子の運動」
(7) 理工学部③都市環境デザイン学科	「コンクリートが拓く世界」
(8) 生命科学部①生命科学科	「生き物を解剖してその生態を明らかにしよう」
(8) 生命科学部②生体医工学科	「血圧って何でしょう? ~血圧が上がったり、下がったりする仕組み~」
(8) 生命科学部③生物資源学科	「家庭にあるものを使ってDNAを抽出してみよう」
(9) 食環境科学部④食環境科学科	「食品生化学の研究~マイタケ入り茶わん蒸しから考える~」
(9) 食環境科学部⑤フードデータサイエンス学科	「食の世界をデータサイエンスで体験する」
(9) 食環境科学部⑥健康栄養学科	「解剖生理学入門~あなたと世界をつなぐ感覚~」

### 3. 成果と課題 (生徒感想)

#### (1) 文学部

授業は、他の学校の生徒などを交えてグループで行われたので、自分とは違う考え方を取り入れた様々な意見を聞くことができた。例えば、史学科の授業では、「阿部仲麻呂はなぜ日本に戻らなかったのか」についての解釈を行ったが、私は仲麻呂は皇帝の命で戻らなかったのではないかと思ったが、それぞれの生徒が様々な根拠をもとに解釈を行うことができていて、一人の人物の一つの行動に深く考えさせられる経験となった。英米文学部では、最後に、リンカーンと弟の会話を二人一組で翻訳して考えるという授業もあったが、姫路から来た生徒が英文を関西弁で翻訳していて、それによって伝わり方も変化し、そんな考え方もあったのかと、翻訳の奥深さや幅広さを学ぶことができた。

#### (2) 経済学部

大学の授業は高校のスタイルとは全く異なるものであり、より深く学んでいくことがわかった。高校では完璧な答えを求めていくが、大学では完璧な答えのない問題のほうが多く、より思考力が必要になっていくと思った。また、高校よりもグループワークが多くあり、自分の考えを共有したり他人の考えていることを聞いたりして、より自分の思考力が広がっていくと思った。経済学は、最初は自分にとって取っ付きにくい難しい学問だと感じていたが、実は身の周りでも使われていたり異なる学問につながっていったりする学問であることがわかり、今回の授業に参加してみて、少し経済学に触れることができて、大変良い機会になったと思う。

### (3) 経営学部

事前課題でみんな同じ本を読んでいるのに、興味・関心を持ったポイントや批判するポイント、これを読んだ先に何を知りたいかがみんなバラバラで、同じ本でも読む人が変わるだけでこんなにも意見が変わってしまうのだと思った。マーケティングを考える時も、主観的に考えるのではなく、データから読み取れたことや他のデータとも比べて、関連させて仮説を立ててからマーケティングを考えなければならなかったのも、とても難しかった。しかし、その分、総合的に物事を理解し、客観的な視線から考える姿勢を少し身につけることができたと思う。

### (4) 法学部

今回の講義を通して、自分が思っていたよりも沢山の法律があることを知り、それによって我々日本人は守られているのだなと感じた。普段、ニュースなどで様々な刑事事件が取り上げられているが、実際は、警察や検察官が一件一件慎重に取調べを行い、何罪に当たるのかをケースごとに細かく考えているということ、グループワークを通して学んだ。2日間のレクチャーを通して、日本の法律は「平等」を重んじている反面、刑事事件などにおいて加害者の処罰が思っていたより軽くなるなど、被害者側が損してしまう場面が多いのではないかと思った。

### (5) 社会学部

アンケート結果をもとに仮説を立てて、それが立証されているのか、されなかったなら何が原因なのかを、自分たちで資料集めから行って研究していくというのは、高校ではあまりできない体験で、非常に楽しかった。最初の方は、言われた通りに動くことが多かったが、グループ活動を通して、自分で考えたことを自ら行動に移すことがとても重要だということがわかった。次第に、自分から積極的に欲しい資料を探したり先生に聞くことができたりするようになり、積極性を身につけられた。また、インタビューなどを行って実際に人に聞くことの大切さを知ることができた。他のグループの発表においては、それぞれ違うことを研究していたけれども、とても面白くて、すべての発表内容に興味を湧いた。

### (6) 国際観光学部

今までは世界遺産の問題や課題を調べたことはなかったが、今回、実際に調べてみると、世界遺産には問題や課題がたくさんあることがわかった。今までは、ニュースで、ゴミ問題やオーバーツーリズムなどの問題があるのだなとしか思っていなかった。しかし、調べてみると、何が問題であり、それに対してどのような対策が考えられているかなど、たくさんの学びがあった。先日、Summer Academia で調べたことがちょうどニュースになっていた。以前よりも関心を持ってニュースを見ることができた。今後も世界遺産について関心を持っていきたい。

### (7) 理工学部

初めて機械工学（今回は飛行機の翼）という分野を学ぶことができた。普段は飛行機に乗ることはあっても、翼の形に細かく注目したことはなかった。「FLOWSQUARE+」を使ったシミュレーションは、使うまでの手順が難しく、情報も多かったが、風圧の様子を立体的に観察することができた。これは色々な場面で活用できそうだったと思った。詳しく調べるほどよりよい発見ができると思う。また、コンピューター上で作ったものを、実際に風洞実験で試すこともできた。しかし、シミュレーションをした時とは違う結果になった。これを修正するためには、シミュレーションをした時と同じ条件で風洞実験をするか、シミュレーションを現実世界に近づけることが必要だとわかった。

### (8) 生命科学部

私の参加した学科ではDNAを学習した。もともと特に関心のある分野ではあったが、教科書でしか見たことがなかった「遺伝子」というものを、家庭にあるものを使って自分の目で確かめたことで、実感が湧き、さらに興味が深まった。教授や大学院生の温かいご指導や姫路校の生徒さんのご協力のお陰で、実験はスムーズに進み、理解が深まった。事前学習での知識も活用しながら、大学ならではの実験器具や方法に触れることができ、とても有意義な時間だった。今後は、この実験で学んだことを活かし、さらに見識を広めて、この分野で活躍できる人材になりたいと改めて思うことができた。

### (9) 食環境科学部

食に対する考え方は人それぞれで、より自分の考えを深めることができた。データサイエンスの世界は奥が深く、今も研究中のものが多いと知り、将来への期待が高まった。また、「フォーカスグループ調査室」を見学した際、嗅覚や味覚に関する機械が置いてあり、これからの世界は人間の五感と機械の五感が溶け込んだ技術によってよりよい食品をつくることができるのではないかと感じた。他の附属校と交流して意見交換をしたりゼミ体験などを通したりして、2日間とても仲良くなることができた。またこのような機会があったら是非参加したい。

## 【SDGs実践・探究】 ワインパミスを活用した大豆栽培プロジェクトへの挑戦と 「SDGs QUEST アクションアイデア優秀賞」の受賞

教諭 片岡 佑輔（理科）

日 時：2024年9月～ 継続中

場 所：本校敷地内の空きスペース+本校近隣の方にお借りした畑

参加者：高校2年生3名 高校1年生3名

### 1. 目的

地域の企業や大学との協働を通じた地球規模の取り組みによって、SDGsの達成に貢献することを目的としており、次のような教育効果を期待している。

1. 循環型農業を通して持続可能な生活への意識を高める
2. 地域の人々との協働を通して地域コミュニティへの帰属意識を高める
3. 視野を広げ、世界規模・地球規模で物事を考えられるようにする
4. 牛久市だから実現できるという使命感を持つ
5. コンテストへの参加を通して自分達の取り組みを社会に発信する力を高める

### 2. 内容

「牛久シャトー」のワインパミス(ワイン醸造の際に生じるブドウの皮や種など)に、牛久大仏近隣の「青山きのご園」の菌床と牛久市の農家の籾殻を加えて発酵させ、ワイン堆肥を作製する。この堆肥で「牛久大豆II(うしくだいずー)」を栽培し、大豆ミートに加工して地域の特産品として育てることで地域の活性化を図る。また、JICAの協力のもとで大豆ミートを開発途上国に広め、飢餓や栄養失調の解決に貢献したいと考えている。さらに、企業やJAXAの協力のもとで大豆ミートを用いた宇宙日本食や日本災害食を開発する。これらの取り組みを通して、地域の未利用資源を活用した循環型大豆生産モデルを日本全国や世界各国へ広め、持続可能な未来社会の創造を目指す。(テーマ選定理由) 2030年には、タンパク質の需要が供給を上回る世界的な「タンパク質危機」が予測される中で、大豆ミートの高い栄養価と低い環境負荷が持続可能な地球環境の創造に有効であると考えた。「牛久大豆II」は牛久大仏の「生きとし生けるもの全てを見捨てない慈悲の心」を体現し、地域の誇りを広く発信するために名付けられた。また、II(ツー)には「環境への配慮」と「食糧の安定確保」という二つの願いが込められている。このプロジェクトを通じて「牛久大豆II」を「誰一人取り残さない」SDGsの理念の象徴にすることを目指している。

時期	内容詳細
2024/9	・牛久シャトー活用推進室の方々との打ち合わせを実施。
2024/10	・牛久シャトーから600kgのワインパミス、青山きのご園から菌床、牛久市の米農家から籾殻を提供していただき、堆肥化を開始。2025年3月まで月に2～3回程度、酸素を供給するために堆肥のかき混ぜを継続。 ・茨城大学農学部の先生方4名とのオンラインミーティングを実施し、堆肥化や大豆栽培のアドバイスをいただく。 ・取手市の染野屋と大豆の加工方法や販売戦略の打ち合わせを実施。
2024/11	・JICA 筑波の方に、開発途上国への農業支援の方法を教えていただく。 ・JAXA 筑波宇宙センターの方に日本宇宙食の開発手順を教えていただく。 ・学校近隣の畑を本校の探究活動のために貸していただく。
2024/12	・「SDGs QUEST みらい甲子園 茨城県大会」2024年12月6日エントリーメット/12月24日一次審査通過(6枚のスライドで審査)
2025/1	・「SDGs QUEST みらい甲子園 茨城県大会」2025年1月19日ファイナルセレモニー用動画提出メット(5分以内の動画で審査)
2025/2	・「SDGs QUEST みらい甲子園 茨城県大会」2025年2月22日ファイナルセレモニーにて「SDGs QUEST アクションアイデア優秀賞」を受賞

### 3. 成果

「牛久大豆II (うしくだいずツー) で創る持続可能な未来 - 地域から世界、そして宇宙へ」という私たちが発表したプランが「SDGs QUEST みらい甲子園 茨城県大会」で「SDGs QUEST アクションアイデア優秀賞」を受賞することができた。(以下、受賞生徒のコメント)

ファイナリストに選ばれた12チームの企画はどれも素晴らしく、私たちが受賞できるか不安でしたが、「SDGs QUEST アクションアイデア優秀賞」という素晴らしい賞をいただけたことを大変嬉しく思います。このプロジェクトは、多くの地域の方々のご協力があってこそ実現できたものです。支えてくださった皆様に心から感謝し、受賞の喜びをお伝えしたいです。また、この受賞をきっかけに、より多くの人々にこの取り組みを知っていただき、地域活性化や環境問題の解決に向けた新たな一歩を踏み出していただければと思います。これからも応援よろしくをお願いします。

### 4. 次年度への課題

この取り組みはスケールの大きなプロジェクトのため、現在活動している6人の生徒だけでは実現が難しい。そのため、次年度はメンバーを増やし、活動を広げていきたいと考えている。



## 【STEAM 教育講座】 インセプタムと連携した STEAM 教育の実施—燃料電池を題材として—

教諭 片岡 佑輔 (理科)

日時：2024年12月9日(月) 2-4限 A,B,S,T組 12月16日(月) 2-4限 C,D,E,F組  
12月17日(火) 2-4限 G,H,I,K組 12月18日(水) 2-4限 L,M,N,O組

場所：実験…各教室 その他…講堂

参加者：高校1年生 全コース 16クラス 606名 ※講師は株式会社インセプタム 返町洋祐 様

### 1. 目的

高校1年生全生徒に STEAM 教育を実施し科学と技術への理解を深め、プログラミングや生成 AI を体験し、アントレプレナーシップについても学ぶことで、理系科目に興味を持つ生徒を増やすこと。

### 2. 内容

授業の流れは以下の通りであった。

開始時刻 (所要時間)	場所	内容	内容詳細
9:55 (30分)	講堂	講義	・ 講座の進行の説明 ・ 身近な電池の仕組みと社会との関わり ・ 本日の実験方法および生成 AI の使い方の説明
10:25 (10分)		休み時間	・ 教室への移動時間を含む
10:35 (60分)	教室	実験	・ 電池の組み立て (4人1班を予定) ・ 電子オルゴール等の動作実験 ・ 生成 AI を活用したプログラミング ・ 電池の出力の測定等
11:35 (10分)		休み時間	・ 講堂への移動時間を含む
11:45 (60分)	講堂	ワークショップ	・ 事業の作り方についての基本的な講義 ・ 班毎でのディスカッションとワークシート記入 ・ 各クラスを半分に分割して全体で8つのグループに分け、各班がグループ内で1分程度の口頭でのプレゼンを行う。

### 3. 成果

理科実験では、食塩水、炭素棒、銅線、Arduino (アルディーノ) を用いて電気分解を行った後、燃料電池に電子オルゴールをつないで音楽を流す実験を行った。その際に、生成 AI を用いて電圧を測定するプログラムを作成することで、生徒達に生成 AI の便利さを実感させることができた。

また、アントレプレナーシップでは、電気に関連した新規ビジネスを考える課題に取り組んだ。グループごとの発表では、「掃除の前後を比較して、ポイントを教えてくれるアプリ」、「温度が低い場所を自動的に感知するサーモグラフィーこたつ」、「部活動顧問の声で起きる電気マクラ」など、ユニークな起業アイデアを生徒達に考えさせる機会を提供することができた。

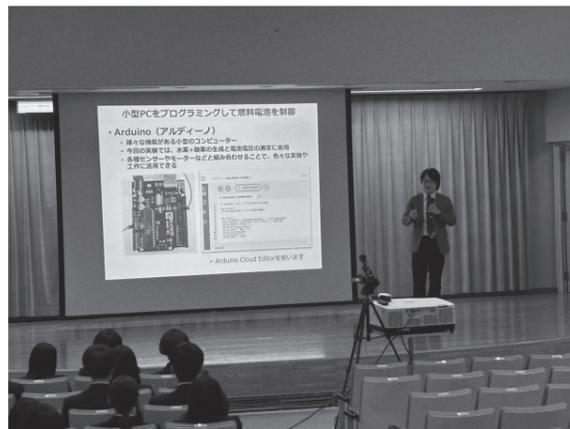
さらに、授業後のアンケート調査では、生徒から次のような肯定的な回答を得ることができた。

#### <事後アンケート・生徒回答抜粋>

- ・ Arduino を使って電気の実験をしたのが面白かったです。科学と技術を組み合わせて学べて楽しかったです。
- ・ プログラミングと化学の実験をあわせているのが面白く感じた。
- ・ 電池の実験が特に印象に残っていて、電池に繋いでいなくてもためておいた電気でオルゴールを鳴ることができ、すごいなと思いました。
- ・ 実験が文系の私でもとてもわかりやすく、学びになりました。
- ・ 実験もアントレナシップも一人では難しいことを友達と協力して問題解決を行うことが楽しかった。周りと協力する力を伸ばしていきたいと思った。
- ・ グループの人と楽しく実験をしたり自分の意見を出してワークシートに取り組んだりしてコミュニケーション能力や協調性が伸びた気がする。
- ・ 生成 AI やプログラミングなど、将来に役立つことを学べた。
- ・ ビジネスはどうやってお客さんに興味を持ってもらえるのかがとても大切で、学生ならではの発想を大切にしていきたいと思います。

#### 4. 次年度への課題

生徒は概ね興味を持って楽しみながら活動することができていた。実施する時期が12月と遅く、2年次の文理選択の本調査の後であったので、7月か8月頃には実施できると理系に進学する生徒を増やすことができると考える。また、ロボットなどの機械を動かしたり、色の変化を楽しんだりできる、より魅力的な実験にブラッシュアップすることで、本校の広報活動につなげたい。



## 牛久市・国際理解教育講座

主事 石塚 俊文 (地理歴史・公民科)

日時：(1) 第1回 2024年6月7日(金) 10:00-11:30 (2) 第3回 2024年11月21日(木) 10:00-11:30  
(3) 第4回 2025年1月17日(金) 10:00-11:30

場所：牛久市中央生涯学習センター 大講座室

参加者：(1) 第1回 グローバルコース高校1年生 37名 (2) 第3回 グローバルコース高校2年生 33名  
(3) 第4回 グローバルコース高校1年生 37名

主催：牛久市国際交流協会

### 1. 目的

外国人との直接対話やワークショップ等を通じて、国際理解を進め、将来、国際社会で活躍することのできる人材の育成を図る。

### 2. 内容及び事後アンケート結果

#### (1) 令和6年度 第1回 国際理解教育講座「ゲームで国際理解を深めよう！」

①内容 講師：村尾光子 さん (茨城県国際交流協会国際理解教育ファシリテーター)

「世界がもし約60名の村だったら」:SDGsの5分野(貧困、飢餓、医療・福祉、教育、ジェンダー平等)をテーマにしたゲーム・クイズ等

②事後アンケート結果(回答数36)

Q1 講座の内容は、わかりやすかったですか。

わかりやすかった86.1% ややわかりやすかった11.1% ややわかりにくかった2.8% わかりにくかった0.0%

Q2 講座に参加して、国際理解は深まりましたか。

深まった94.4% 深まらなかった0.0% わからない5.6%

[具体的にどのように国際理解が深まったか(一部抜粋)]

\*今生きているところはとても恵まれていて、世界には思っていたよりも多くの人が貧しい暮らしをしているということ。

\*文字が読めないことが命に関わるということが印象に残った。

\*言語の違いで壁を作らず、課題に一生懸命に取り組もうと思った。

世界的に協力しないと解決出来ないと感じた。



#### (2) 令和6年度 第3回 国際理解教育講座「フランスってどんな国？」

①内容 講師：セイフェン・ジャワ さん (フランス出身) 茨城県国際交流協会

<講話>フランスの文化・生活・教育制度(特に高校・大学)について

<交流>フランス語で自己紹介、質疑応答

②事後アンケート結果(回答数29)

Q1 講演の内容は、わかりやすかったですか。

大変わかりやすかった89.7% わかりやすかった10.3% わかりにくかった・大変わかりにくかった0.0%

Q2 講演を聞く前と聞いた後で、フランスに対するイメージは変わりましたか。

変わった17.2% 変わらない82.8% わからない0.0%

[イメージが変わった理由(一部抜粋)]

\*この機会を通してフランスについて調べてみようと思った。

\*フランス語を喋ることは想像よりも難しいということ。

\*フランスは日本と太陽の出る、沈むの時間が全然違うと知ったので行ってみたいとなった。

Q3 今回の講座に満足しましたか。

満足した86.2% やや満足した13.8% やや不満足だった0.0% 不満足だった0.0%

〔講演の中で、印象に残ったこと（一部抜粋）〕

- \*フランスと日本の教育制度の違い
- \*単語に男女の区別があって使い方が違うこと
- \*アルファベットの上に記号がついていたり、発音が英語とかなり異なったりすること
- \*フランス領がいっぱいあったこと
- \*エアコンが家にないことがびっくりした
- \*モンブランが山の名前だったこと



### (3) 令和6年度 第4回 国際理解教育講座「中国を知ろう！」

- ①内容 講師：謝 昕さん（広東省出身）立教大学大学院、いばらき応援大使  
 <講話>中国の言語、民族、文化、生活、教育  
 <交流>中国語の発音、質疑応答

②事後アンケート結果（回答数28）

Q1 講演の内容は、わかりやすかったですか。

大変わかりやすかった 50.0% わかりやすかった 50.0% わかりにくかった・大変わかりにくかった 0.0%

Q2 講演を聞く前と聞いた後で、中国に対するイメージは変わりましたか。

変わった 57.1% 変わらない 42.9% わからない 0.0%

〔イメージが変わった理由（一部抜粋）〕

- \*中国人は、大学受験のためにたくさんの勉強をして頑張っていることを知ったので、今回の講演を経て、努力家というイメージが付いた。
- \*気が強い人が多いイメージだったけど、おおらかな人が多いと聞いてイメージが変わった。
- \*今回の話を聞いて今までの中国人の印象とはかわり、明るく社交的な人が多いことを初めて知った。

Q3 今回の講座に満足しましたか。

満足した 75.0% やや満足した 25.0% やや不満足だった 0.0% 不満足だった 0.0%

〔感想（一部抜粋）〕

- \*実際に海外の方が来たからすごく貴重な体験ができたと思う。ほとんど質疑応答の時間だったと思う。
- \*とても面白く、国同士で認め合うためのきっかけになる講座だったと思います。これからも、このような他国の違いを知ることで、いろいろな国への理解を深めていけたらなと思います。
- \*言語を学んでいる身としては、繁体字と簡体字の違いや、方言について、実際に先生の中国語を聞いてみたかったです！
- \*中国は近い国だけどほとんどのことを知らなかったので中国のことを知るととてもいい機会になりました。



### 3. 成果と課題

牛久市国際交流協会主催の国際理解教育講座は今年度4回実施され、その第1回、第3回、第4回に本校グローバルコース生徒がクラス単位で参加した。第1回の「ゲームで国際理解を深めよう！」に参加した高1グローバルコースはフィリピン研修を終えた直後で、現地で体験した貧富の差の現状と講座の内容がリンクしており、参加生徒の興味関心も高かった。第3回のフランス、第4回の中国は、よく知られた国ではあるが、新しく知ることが多々あった。特に隣国の中国については、印象が大きく変わった生徒が多かったようである。

グローバルコースでは、類似の行事として茨城県国際交流協会主催の国際理解教育講師等派遣事業を2020年より、毎年、実施している。今年度は本校で実施したフランス語出前講座と牛久市の第3回「フランスってどんな国？」の講師が同一人物となってしまった。次年度以降、本校と牛久市の講師が同一にならないような調整が必要である。

## 2024年度 訪日団受け入れ・交流事業

### (1) 台湾 (2) オーストラリア (3) フィリピン

主事 石塚 俊文（地理歴史・公民科）

#### 1. 目的

海外の中学生・高校生と積極的に交流し、互いの文化や考え方について知るとともに、相手を尊重しつつ自分の意思を伝えることのできるコミュニケーション能力を養う。

#### 2. 内容

##### (1) 台湾・嘉義市 訪日団

①期 間：2024年7月9日（火）11:15 - 14:30

②交流校：私立輔仁高級中學 游泳隊 17名  
 （中1：4名、中2：1名、中3：1名、  
 高1：3名、高2：8名）  
 コーチ2名、保護者2名



③パディ：17名（高校水泳部員11名、高1グローバルコース5名、高1中高一貫コース1名）

④日 程：  
 11:15 本校到着、大型バス1台（パディが出迎え）  
 11:20 - 11:55 パディとともに校舎・授業風景見学  
 11:55 - 12:45 ウェルカムセレモニー、パディとともに昼食（食堂）  
 12:55 - 13:25 交流会（自己紹介、ジェスチャーゲーム）  
 13:30 - 14:20 体験授業「書道」（団扇作成）  
 14:30 本校出発



##### (2) オーストラリア・アデレード市 訪日団

①期 間：2024年9月24日（火）～28日（土）4泊5日  
ホームステイ（本校生徒宅）

②交流校：チャールズキャンベル高校  
 Charles Campbell College  
 生徒18名（女子9名、男子9名）、教員2名

③ホストファミリー：17家庭（女子11名、男子6名）

④日 程：

日付	日程	宿泊
9月24日（火）	11:30 本校到着、12:00-12:45 昼食（学食）、12:45-13:30 休憩（ELC） 5限：日程説明・歓迎セレモニー打ち合わせ（ELC） 6限：歓迎セレモニー（体育館）15:40 パディと対面、ホームステイ宅へ	ホームステイ
9月25日（水）	高校1・2年の芸術鑑賞に参加 〔高校1年〕国立科学博物館（上野）LNST組 9:10 集合、K組 9:20 集合 〔高校2年〕東京国立博物館・上野動物園（上野）12:50 集合 ※高3パディの受け入れ生徒3名は高2の芸術鑑賞に参加	ホームステイ
9月26日（木）	8:35（高3は8:45）パディと一緒に登校 8:55 体育館前集合 9:00 バスツアー出発 ※パディ同行 （学校⇒牛久大仏⇒阿見アウトレット⇒イオンモールつくば） 15:15 学校到着 ※パディの事情に合わせ帰宅	ホームステイ

9月27日(金)	8:35 (高3は8:45) バディと一緒に登校 1・2限…バディのクラスの授業に参加 3限:特別授業(マルチパーパスホール) ※バディも一緒に参加 4限:書道(書道室) ※バディも一緒に参加 5限:送別会準備(マルチパーパスホール) ※バディは通常授業 6限:14:30-15:20 フェアウェルパーティー ※バディの事情に合わせて帰宅	ホームステイ
9月28日(土)	7:40 本校昇降口前集合、8:00 本校出発	



### (3) フィリピン・セブ市 訪日団

- ①期 間：2025年1月28日(火)～2月1日(土)  
4泊5日  
ホームステイ(本校生徒宅)
- ②交流校：サンホセレコレトス大学付属高校  
University of San Jose-Recoletos Senior High School  
生徒39名(女子28名、男子11名)、教員2名
- ③ホストファミリー：35家庭(女子24名、男子11名)

### ④日 程：

日付	日程	宿泊
1月28日(火)	12:30 本校到着、12:45-13:30 昼食(学食) 5限:日程説明・歓迎セレモニー打ち合わせ(レクチャールーム) 6限:歓迎セレモニー 15:40 バディと対面、ホームステイ宅へ	ホームステイ
1月29日(水)	8:35 バディと一緒に登校 1～4限…中学生と交流(1・2限:英語交流、3・4限:体育館)[担当:井上] 12:45～昼食(学食) ※フィリピン生徒、本校バディ全員の昼食を用意 5限:特別授業、6限:USJ-R ミーティング ※バディの事情に合わせて帰宅	ホームステイ
1月30日(木)	8:35 バディと一緒に登校、9:05 体育館前集合 9:15 バスツアー出発 ※バディ同行 [引率:古里] 学校⇒牛久大仏⇒昼食(あすなろの里)⇒いちご狩り(グランベリー大地) 14:45 学校到着 ※バディの事情に合わせて帰宅	ホームステイ
1月31日(金)	8:35 バディと一緒に登校 1限:書道(書道室)、2限:英語ディベート(1年S・T組) 3・4限:バディのクラスで授業体験 12:45～昼食(学食) 5限:送別会準備(レクチャールーム) ※バディは通常授業 14:30-15:30 フェアウェルパーティー ※バディの事情に合わせて帰宅	ホームステイ
2月1日(土)	ホストファミリーと過ごす、14:00 本校昇降口前集合 14:30 本校出発	

### 3. 成果と課題

本校生徒宅でのホームステイ受け入れが5年ぶりに行われるなど、新型コロナウイルス感染症流行の影響で中断していた訪日団受け入れが、本格的に復活した1年であった。いずれの事業でも訪日団生徒と本校生が活発にコミュニケーションを図り、親睦が深まっている様子がうかがえた。特に交流協定校であるサンホセレコレトス大学(USJ-R) 付属校の受け入れでは、来日生徒数・日程等の情報が現地から届いたのが12月上旬となり、ホストファミリーの募集が心配された中で、中学1年から高校3年、さらに卒業生のご家庭に協力を得て、訪日団全生徒のホームステイが実現したことは、大きな成果であった。

一方、食物アレルギー、菜食主義、発達障害などの生徒のホストファミリー探しが難航したこと、訪日団生徒向けの授業のレポーターが少なくプログラム作りに苦慮したことなどが課題として挙げられる。

## フィリピン・セブ島語学研修(高校1年生・グローバルコース)

主事 石塚 俊文(地理歴史・公民科)・専任講師 Glenn Serviss(外国語科)

期 間：2024年5月26日(日)～6月2日(日)

場 所：フィリピン・セブ市 サンホセレコレトス大学  
附属高校

マクタン島(プランテーションベイ・リゾート)

参加者：生徒38名(含むオンライン参加1名) 引率教  
員2名

### (1) 目的

- ①セブ市の語学学校において、5日間、集中的に英語レッスンを受講することにより、英語4技能の向上、英会話力の向上と国際コミュニケーション能力の向上を図る。
- ②初期指導の合宿として、新クラスの友人関係、リーダーシップ、協力性、責任感を養う。
- ③フィリピン文化を体感し、グローバル人材として必要な異文化理解の素地を養う。

### (2) 内容

※5/23(木) Zoomによる事前英語技能確認テスト

月日	スケジュール(宿泊場所:ALICIA APARTELLE ホテル)
1 5月26日(日)	12:00 成田空港第2ターミナル集合 14:55 成田空港出発(PR433便) 19:05 マクタン・セブ空港到着 21:00 ホテル着(大型バスにて移動)
2 5月27日(月)	6:00 朝食、ホテル出発(バス4台) 7:30 学校到着、セレモニー 8:00～1～4限個人レッスン、昼食、5～8限グループレッスン 18:00 ホテル着、夕食(自分の部屋にて配達弁当) 19:00 フリータイム(プール、ビリヤード、卓球、宿題、しおりの記入等)
3 5月28日(火)	6:00～朝食、ホテル出発 8:00～1～4限個人レッスン、昼食、5～8限グループレッスン 18:00～ホテル着、夕食&発表練習会(ホテルの会議ホールにて配達弁当)
4 5月29日(水)	6:00 朝食、ホテル出発 8:00 1～4限個人レッスン、昼食、5～8限異文化交流会 18:00 ホテル着、夕食、フリータイム
5 5月30日(木)	6:00 朝食、ホテル出発 8:00 1～4限個人レッスン、昼食、5～8限グループレッスン 18:00 ホテル着、夕食、徒歩で買物体験(ガイサノカントリーモール)
6 5月31日(金)	6:00 朝食、ホテル出発 8:00(短縮日程)1～4限グループレッスン、昼食、5～8限個人レッスン 15:40 事後英語技能確認テスト、修了式) 18:00 ホテル着、夕食、フリータイム
7 6月1日(土)	7:00 朝食、ホテル出発 9:00 マクタン寺院見学(フィリピンの歴史を知る) 10:00 リゾート設備堪能時間(マクタン島:プランテーションベイ) 14:00 SM シーサイドモール(ショッピング) 18:00 ホテル着、夕食、荷造り等
8 6月2日(日)	5:30 ホテル出発(大型バス) 8:10 マクタン・セブ空港到着、出国手続き 8:10 マクタン・セブ空港出発(PR434便) 13:55 成田空港到着



<時間割>	
8:00 - 8:50	1限
8:55 - 9:45	2限
9:45 - 10:05	休憩
10:05 - 10:55	3限
11:00 - 11:50	4限
11:50 - 12:50	昼休み
13:00 - 13:50	5限
13:55 - 14:45	6限
14:45 - 15:05	休憩
15:05 - 15:55	7限
16:00 - 16:50	8限

(3) 成果と課題

(1) ルーブリックによるアンケート結果（回答数 37 名）

項目	レベル	評価基準	評価別割合		評価平均値	
			事前	事後	事前	事後
英語運用能力	4	十分	8.1%	55.3%	2.70	3.55
	3	概ね十分	54.1%	44.7%		
	2	やや不十分	37.8%	0.0%		
	1	不十分	0.0%	0.0%		
異文化対応力	4	十分	10.8%	34.2%	2.84	3.34
	3	概ね十分	62.2%	65.8%		
	2	やや不十分	27.0%	0.0%		
	1	不十分	0.0%	0.0%		
プレゼン能力	4	十分	0.0%	15.8%	2.51	2.97
	3	概ね十分	51.4%	65.8%		
	2	やや不十分	48.6%	18.4%		
	1	不十分	0.0%	0.0%		

今回のプログラムの成功はアンケート結果に反映されているものだけでなく、生徒の精神的、健康状態にも表れ、体調を崩した生徒もなく、授業を一度も休んだ生徒は1人もいなかった。この成功は、以下の要因によるものと考えられる。

- (ア) 研修のタイミング：語学研修の前に行われたホームルーム合宿でクラスメートと親しくなったことにより、セブでの勉強やフリータイムを積極的に楽しむことができ、精神的に楽になったと考えられる。
- (イ) 合宿所：語学学校と隣接している寮が存在せず、ホテル合宿により、寮生活より高い衛生状態は日本と変わらないことが生徒の健康状態に影響を与えたと考えられる。トイレとシャワー付き2人部屋や充実した娯楽施設（プール、ビリヤード、卓球）がホテルの特徴だった。
- (ウ) 食事の取り方：語学学校の寮生活では多くの食事はbuffet形式だが、今回の食事の取り方により、生徒の良い健康状態を守ることができたと考えられる。朝食以外の食事は全て宅配弁当であり、きれいな教室や自分の部屋で食べることができた。朝食は研修2日目からほとんどの生徒はホテルの朝食を避け、日本から持参したカップ麺などを食べた。そのため、お腹を壊す等の体調を崩した生徒はなかったと考えられる。

(2) 課題

ホテルから学校まで距離はミニバスで約1時間であるが渋滞が発生することによって移動中にトイレを我慢することで生徒に辛い想いをさせた。ホテル泊は大変良いが15～20分通学時間の方が望ましい。

## シンガポール語学研修

教諭 三浦 健太（外国語科）

期 間：2024年7月30日（火）～8月4日（日）

場 所：シンガポール

参 加 者：生徒14名、引率教員1名



### 1. 目的

世界的視野を獲得し、グローバル人材を育成するため、英語使用圏であるシンガポールへ赴き異文化理解を肌で感じ、体験することを目的とした語学研修である。また併せて現地の大学や主要観光地を巡りコミュニケーション能力を養い発信力をつけることを目的とした語学研修である。

### 2. 内容

- (1) 事前指導 シンガポールについての歴史や文化背景を学習。また英語で現地人に質問をするためのワークシートを作成した。

(2) 日程

	月日	時間	スケジュール
1	7月30日（火）	11:10 17:20 18:30	成田発 シンガポール航空（SQ637便） チャンギ空港着（専用車にて移動） ダンマン高校到着、夕食（学食） 20:00 学生寮へ移動、オリエンテーション
2	7月31日（水）	7:00 終日 17:00	朝食（学食）《歴史認識・平和学習・異文化理解の日》（専用車にて移動） ・シンガポール国立博物館・戦争記念公園・Former Ford Factory（戦争博物館） ・日本人墓地公園・アラブストリート・3 ethnics town（アラブ、インド、中国） ダンマン高校学生寮到着、夕食（学食）
3	8月1日（木）	7:30 9:00 10:00 14:00 18:00	朝食（学食）《現地大学生とシンガポール市内グループ研修》 現地大学生と Meet、アイスブレイク、自己紹介（Dunman High School 教室） オーチャードロードへ移動、大学生と班別行動（散策、街中でインタビュー、昼食） One Fullerton（ショッピングモール）、マリーナベイサンズ、ガーデンズバイザベイ イルミネーション見学、終了後、学生寮へ
4	8月2日（金）	7:00 9:30 13:15 18:00	朝食（学食）《シンガポール国立大学訪問》 「キャリアセミナー」Water Roam 社の水質汚染防止プロジェクトについて シンガポール国立大学、昼食、現地大学生との Exchange セッション、キャンパス ツアー 夕食、ナイトサファリ、終了後、学生寮へ
5	8月3日（土）	7:00 終日 23:55	朝食（学食） 9:00 学生寮チェックアウト、専用車でセントーサ島へ ユニバーサルスタジオシンガポール、専用車で空港へ移動、20:55 チャンギ空港着 チャンギ空港発 シンガポール航空（SQ638 便）
6	8月4日（日）	5:50	成田空港第1ターミナル到着、解散

〔宿泊〕 現地学生寮

〔食事〕 朝食は学生寮の食堂、昼食は外出先にて外食、夕食は学生寮の食堂、外出先にて外食

初段階ではシンガポールの歴史と文化を、戦争を中心として学習し、中段階では現在のシンガポール事情を学問や産業の発展の視点から現地の大学生、起業家、またはオーチャードロードにて生活をしている人たちから英語を通して学ぶことができた。後半はシンガポール大学やユニバーサルスタジオへ行き、英語を用いた発信活動に重点を置いて自身の興味のある情報を集める交流ができた。

- (3) 事後課題「シンガポール研修レポート」の作成

### 3. 評価と課題

外国語運用能力における自己評価（回答数 14 ＊）

項目	レベル	評価基準	評価別回答数	
			事前	事後
内容分量	4 十分	幅広いテーマに関して一定時間の会話ができる。	0	3
	3 概ね十分	相手の質問に答えるなど、身近な話題については一定時間の会話ができる。	2	6
	2 やや不十分	挨拶など型にはまった内容であれば、数回程度の会話をやり取りすることができる。	10	5
	1 不十分	何を話してよいか分らず、会話にならない。	2	0
語彙 文法	4 十分	現地の人と会話する中で、誤った表現などに気づき、改善を試みることができる。	0	3
	3 概ね十分	文法の誤りなどは気にせず、単語の連続ではなく、文で気持ちを表現することができる。	4	6
	2 やや不十分	単語をつなげて意思を伝えることができるが、文法の誤りを気にして文では表現できない。	9	5
	1 不十分	単語レベルでの会話ができない。	1	0
積極性	4 十分	現地の人に対して、自分から積極的に声をかけて話すことができる。	3	9
	3 概ね十分	スタッフや先生、パディーなど特定の現地の人に対しては、自分から声をかけることができる。	6	3
	2 やや不十分	話しかけられれば会話をする気になる。	5	2
	1 不十分	現地の人と会話する気が全くない。	0	0

\*実際に研修に行った生徒を対象にしています。

1の目的で述べたように、本研修の目的は「コミュニケーション能力を養い発信力をつけること」である。上図の【積極性】を見ると“十分”の回答数が研修前よりも研修後の方がはるかに多くなっていることから、本研修中での生徒の積極性は大幅に上がったことがわかる。また興味深いことに【発信力】に関して研修前では、発話時の文法の正しさを気にするという回答が多く、研修後では文法の正しさよりも発信すること自体に前向きな回答が増えた。

これらの回答数の変移から本研修の目的である「コミュニケーション能力を養い発信力をつけること」は概ね良好に達成できたのではないと思われる。考えられうることとして、課外活動の時間が多く設定されていたことや現地人との接触（質問するフィールドアクティビティや飲食店でのやりとり）の多さが英語を使って表現しようとする心を築いたのだろう。

一方で学問的な探究にかける時間が少ないように思われた。もう一つの目的であるグローバル人材の育成という観点から今回の研修を見ると、いささか観光色が強く、そちらに気を持っていかれる場面が多かった。4日目のゲストスピーカーによる講演会は内容こそ面白かったが、英語で行われたために生徒たちには理解しにくいところが多く、より低いレベルから幅広い学習活動が今後スケジュールの1つにでも組み込まれるとより充実した研修になるのではないかと感じた。

## オーストラリア・シドニー語学研修(高校2年生特進コース)

教諭 大谷 淳 (外国語科)

期 間：2024年8月5日（月）～2024年8月14日（水）

場 所：Sydney, NSW, Australia

参加者：生徒 62名

引率教員 3名（畑山、大谷、吉岡）

### 1. 目的

- (1) 海外研修を通して、世界規模で活躍できるグローバル人材の育成を図る。
- (2) 現地大学生との交流や寮生活を経験して、異文化理解、語学力の向上を図る。

### 2. 内容

1年次から実施してきた課題研究の内容を、英語で発表した。研修先は Western Sydney University で、宿泊先は大学の学生寮 (Campbelltown, Hawkesbury Campus 敷地内) であった。各部屋に4～5人が割り当てられ、共同生活を送りながら、朝食以外の食事はすべて自分たちで調達するという新しい試みであった。

### 3. 日程

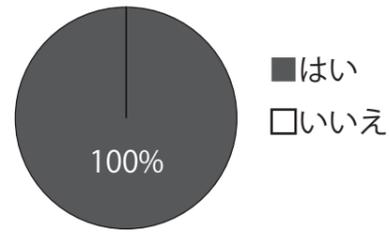
	月日	AM	PM
1	8月5日（月）		22:00 羽田空港出発
2	8月6日（火）	08:45 シドニー到着	オリエンテーション・キャンパスツアー Western Sydney University
3	8月7日（水）	9:00-16:00 英語研修	Western Sydney University
4	8月8日（木）	大学キャンパスツアー The University of Sydney, ICMS	アクティビティ Manly Beach
5	8月9日（金）	9:00-16:00 英語研修、カルチャーワークショップ	Western Sydney University
6	8月10日（土）	9:00-16:00 シドニー市内観光	観光客に英語でインタビュー
7	8月11日（日）	9:00-16:00 タロンガ動物園観光	観光客に英語でインタビュー
8	8月12日（月）	9:00-16:00 課題研究 英語発表	Western Sydney University
9	8月13日（火）	プレゼンテーション発表・表彰式	ショッピング・20:35 シドニー空港出発
10	8月14日（水）	05:25 羽田空港到着	解散



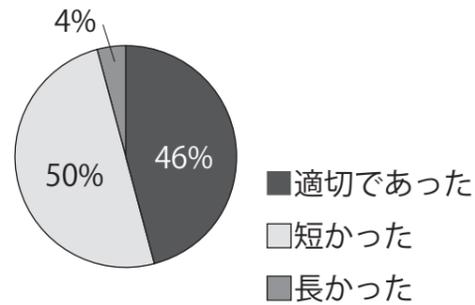
#### 4. 成果と課題

##### (1) 事後アンケート結果

① 今回の語学研修は、有意義な研修であったか。



② 8/5-14 という期間は適切だったか。



③ この研修中に学んだこと、感じたことを書いてください。

・英語の話す力、聞く力だけでなくコミュニケーション能力も向上したと思った。オーストラリアの文化や人々についてインターネットではわからないことも知ることができた。
・いつもと違う環境で辛いと思うときもあったけれど、友達と助けあえたのでとても楽しかった。オーストラリアに行くことで世界が広がった気がした。
・オーストラリアに行って自分の英語力不足をととても感じたのでこれからも英語を頑張っていきたい。
・食べ物や物価の違い、考え方の違いがわかってよかった。また、ショッピングモールのお店が5時までにはほとんど閉まってしまうのが驚きだった。
・日本とは違う国で過ごすことで、文化の違いなどを楽しめた。また、英語に対して少し身近になったと感じた。しかし、10日間だと自分で感じるほど英語を学べなかったと思った。

##### (2) 今後の課題

現地の人々と交流し、多様な価値観に触れたことで世界観が広がったというコメントが多く見られた。また、大学寮で友人と協力して料理や洗濯に取り組む経験が協調性を育み、将来のビジョンを明確にした生徒もいた。一方、語学力向上には研修期間の短さや日本語を使う機会の多さが課題であり、今後の研修改善が必要だと考える。



## カナダ・バンクーバー語学研修

教諭 井上 博人 (外国語科)

期 間：2024年8月7日(水)～8月19日(月)

場 所：カナダ・バンクーバー CICCC (Cornerstone International Community College of Canada)

参 加 者：生徒13名(高校1年生4名、2年生4名、3年生5名)、引率教員1名

### 1. 目的

- ① 英語4技能の向上
  - ・幅広いテーマに関して一定時間の会話ができる。
  - ・現地の人と会話する中で、誤った表現などに気づき、改善を試みることができる。
  - ・現地の人に対して、自分から積極的に声をかけて話すことができる。
- ② 課題探究
  - ・事前に準備していた内容を元に、現地での新たな課題などを見出すことができる。
  - ・自分で探究した内容について、相手に伝わるプレゼンテーションができる。
- ③ 異文化理解
  - ・ポジティブ・ネガティブの両面から、異文化との共存のあり方を模索することができる。

### 2. 内容

#### (1) 事前指導

実施日	時間	内容
7月6日(土)	11:00～12:30	最終説明会(オンライン)
7月18日(木)	13:05～13:25	事前ミーティング(自己紹介、電子渡航認証登録の確認など)

#### (2) 日程

	月日	スケジュール	宿泊
1	8月7日(水)	21:55 羽田空港出発(全日空NH116便) 14:50 バンクーバー空港到着、オリエンテーション ホスト宅へ移動	ホームステイ
2	8月8日(木)	<午前>英語4技能レッスン <午後>ダウンタウンツアー	
3	8月9日(金)	<午前>英語4技能レッスン <午後>グランビルアイランド散策	
4	8月10日(土)	<午前>英語4技能レッスン <午後>プレゼンテーション、日本へのポストカード作成	
5	8月11日(日)	ホストファミリーと過ごす	
6	8月12日(月)	<午前>英語4技能レッスン <午後>国際交流イベント①(各国留学生)	
7	8月13日(火)	<午前>英語4技能レッスン <午後>サイエンスワールド訪問	
8	8月14日(水)	<午前>英語4技能レッスン <午後>メトロタウンショッピング	
9	8月15日(木)	<午前>英語4技能レッスン <午後>リンキャンオンハイキング	
10	8月16日(金)	<午前>英語4技能レッスン <午後>国際交流イベント② ノースバンクーバー散策	
11	8月17日(土)	<午前>英語4技能レッスン <午後>修了式、自由行動	
12	8月18日(日)	13:45 バンクーバー空港着、15:30 バンクーバー空港出発(全日空NH117便)	機内
13	8月19日(月)	19:55 羽田空港到着・解散	

(3) 事前課題 レポート提出(テーマは「バンクーバー」、A4用紙1枚、Googleドキュメントで作成)

### 3. 成果と課題

#### (1) 成果

ルーブリックによる外国語運用能力 自己評価 (回答数12)			評価別割合		評価平均値	
項目	レベル	評価基準	事前	事後	事前	事後
内容分量	4 十分	幅広いテーマに関して一定時間の会話ができる。	8.3%	8.3%	2.8	3.25 (+0.45)
	3 概ね十分	相手の質問に答えるなど、身近な話題については一定時間の会話ができる。	33.3%	58.3%		
	2 やや不十分	挨拶など型にはまった内容であれば、数回程度の会話をやり取りすることができる。	58.3%	33.3%		
	1 不十分	何を話してよいか分らず、会話にならない。	0.0%	0.0%		
語彙文法	4 十分	現地の人と会話する中で、誤った表現などに気づき、改善を試みることができる。	8.3%	25%	2.25	3.00 (+0.75)
	3 概ね十分	文法の誤りなどは気にせず、単語の連続ではなく、文で気持ちを表現することができる。	8.3%	50%		
	2 やや不十分	単語をつなげて意思を伝えることができるが、文法の誤りを気にして文では表現できない。	83.3%	25%		
	1 不十分	単語レベルでの会話ができない。	0.0%	0.0%		
積極性	4 十分	現地の人に対して、自分から積極的に声をかけて話すことができる。	8.3%	16.7%	2.75	3.80 (+1.05)
	3 概ね十分	スタッフや先生、パディーなど特定の現地の人に対しては、自分から声をかけることができる。	58.3%	83.3%		
	2 やや不十分	話しかけられれば会話をする気になる。	33.3%	0.0%		
	1 不十分	現地の人と会話する気が全くない。	0.0%	0.0%		

#### ルーブリックによる異文化対応力 自己評価 (回答数9)

外国人の食事・トイレなどの住環境・衣服・生活習慣・芸能・言葉・宗教などへの対応力)			評価別割合		評価平均値	
項目	レベル	評価基準	事前	事後	事前	事後
異文化理解	4 十分	ポジティブ・ネガティブの両面から、異文化を理解し共存のあり方を模索することができる。	41.7%	91.7%	3.41	3.90 (+0.49)
	3 概ね十分	異文化のポジティブな側面(プラス面・良いところ)に注目することができる。	58.3%	8.3%		
	2 やや不十分	自国の文化と比較して、ネガティブな側面(マイナス面)に着目して、異文化を捉える。	0.0%	0.0%		
	1 不十分	異文化に対して興味が持てない。	0.0%	0.0%		

#### 【今回の研修に参加して良かったと思う点】参加生徒12名の意見・感想

・先生やスタッフさんが丁寧にエスコートしてくれたおかげで楽しく過ごせた。 / ・英語に多く触れられて、凄くいい刺激になった。 / ・自分の将来が幅広く考えられるようになった。 / ・他国の文化や価値観について理解が深まった。 / ・自立できた気がする。 / ・海外の友達ができ。 / ・毎日帰り際に歩きながら自分で英語の文章を考えた。 / ・今の自分の英語の能力を知ることができた。 / ・学年の壁を超えて全員と仲良くなった。 / ・英語で英語を学ぶことができたから、表現の仕方の違いを学ぶことができた / ・研修に参加して話す怖さがなくなった。

#### 【今回の研修に参加して困った点(改善してほしいと思った点)】参加生徒2名の意見・感想

・ホストファミリーの当たり外れがある。 / ・研修前にもっと一緒に行くこと子達との交流が欲しかった。 / (他の10名は「特になし」と回答)

#### (2) 課題

バンクーバー郊外の家庭に滞在し、電車やバスで語学学校まで通学する体験ができ、授業のプログラムも充実した研修であった。バンクーバーには University of British Columbia (UBC) があるので、UBC や現地高校の訪問や大学生、中高生との交流などのプログラムに入るとさらに良いのではないかと。今後は海外大学を目指す生徒を視野に入れて語学研修プログラムのさらなる改善を試みる必要がある。

## オーストラリア・アデレード語学研修 (高校2年生・グローバルコース)

教諭 徳竹 圭太郎 (地理歴史・公民科)

日時: 2024年11月3日(日) ~ 11月16日(土)

場所: オーストラリア サウスオーストラリア州 アデレード市

参加者: 生徒32名 引率教員2名



### 1. 目的

海外語学研修及びホームステイ体験を通じて、語学力の向上と国際理解を深めることを目標とする。また、異文化主体的に体験すると共に、日本文化を積極的に伝え、現地の人々と文化や価値観の違いを共有し、友好関係を深める。

### 2. 内容

日程	内容
11月3日(日)	16:20 成田空港 第2ターミナル集合 21:05 カンタス航空 (QF080 便) にてメルボルンに出発
11月4日(月)	7:45 メルボルン空港に到着し、入国手続き、国際線ターミナルへ移動 12:30 カンタス航空 (QF683 便) にて、アデレードへ向け出発 13:20 アデレード到着後、専用車にて各ホスト校へ移動 ホストファミリーと対面後、各ホームステイ先へ*
11月5日(火)	<研修校> Plympton International College 15名 Adelaide Botanic High School 17名 ウエルカムセレモニー、英語レッスン、体験授業
11月6日(水)	英語レッスン、体験授業
11月7日(木)	英語レッスン、体験授業
11月8日(金)	英語レッスン、体験授業 (Botanic) 月プレゼンテーション (Plympton)
11月9日(土)	休日 ホストファミリーと過ごす
11月10日(日)	休日 ホストファミリーと過ごす
11月11日(月)	校外研修: クルランド保護公園 (Plympton) / プレゼンテーション (Botanic)
11月12日(火)	英語レッスン、体験授業 (Plympton) / 校外研修: クルランド保護公園 (Botanic)
11月13日(水)	英語レッスン、体験授業
11月14日(木)	英語レッスン、修了式 (修了証授与)、Farewell Party
11月15日(金)	各ホスト校に集合。専用車にて空港へ移動 13:50 カンタス航空 (QF742 便) にてシドニーへ 16:10 シドニー到着、国際線ターミナルへ乗り継ぎ 22:05 カンタス航空 (QF025 便) にて空路、羽田空港へ
11月16日(土)	5:55 羽田空港 第3ターミナル到着、入国手続き後、解散

### 3. 研修を通じて (評価)

各校の文化差などはあったが、多くの生徒は充実した2週間で過ごしていたようであった。グローバルコースであっても英語が苦手な生徒は若干名いるが、ホストファミリーとの対話は積極的に行っていたようで、初日にはスマホの翻訳アプリを使用しながら会話していた生徒も帰国時にはスマホを使わずに何とか意思疎通しようと努力している様子が伺えた。日本にいるとアプリなどを使用して会話が成立してしまうが、現地では会話しようとすると翻訳アプリを使用するのが億劫になるようであった。



今回の海外研修を通じて、生徒たちは単に英語の学習をするだけでなく、異文化に適応し、現地の生活を体験する貴重な機会を得た。初日は緊張していた様子の生徒も多かったが、ホストファミリーとの交流や学校での体験授業を通じて、徐々に自信をつけていく様子が見られた。特に、現地の学生との協働作業や授業内での発表活動を通じて、積極的に英語を使う意識が高まったように思う。

また、ホームステイ先での生活は、生徒たちにとって異文化理解の大きな契機となった。食事や生活習慣の違いに戸惑いながらも、受け入れる姿勢を持ち、少しずつ慣れていった様子が印象的であった。ある生徒は「ホストファミリーが話す英語が最初は早すぎて聞き取れなかったが、何度も話すうちに言葉のリズムに慣れた」と語っていた。加えて、翻訳アプリを使わずに英語で伝えようと努力する生徒が増えたことも、今回の研修の大きな成果である。言葉が通じなくても、ジェスチャーや表情、簡単な単語を駆使しながら意思疎通を図る姿が多く見られた。これは、語学力だけでなく、コミュニケーション能力や主体性の向上にもつながる重要な経験だったと考える。

総じて、生徒たちはこの2週間の研修を通じて、多くの学びを得ることができた。今後は、研修で得た経験を日々の学習や将来の進路選択に活かし、さらに成長していくことを期待したい。

### 4. 課題

昨年度の報告書にもある通り、2週間という期間は短いように感じる。現地での生活に慣れ始め、これからというところで帰国してしまい、最初は学習に対するモチベーションを維持できるが、次第に日本での生活習慣に戻ってしまう様子が伺えた。加えて、他コースとの差別化もできていないため、今後は研修期間を引き伸ばすことができれば、生徒たちのさらなる成長が望めると感じる。



## オーストラリア・アデレード語学研修 (中学校3年生)

教諭 金本 卓樹 (数学科)

期 間：2024年11月3日(日)～11月16日(土)

場 所：オーストラリア サウスオーストラリア州 アデレード市

参 加 者：生徒60名 引率教員3名(張貝、若林、金本)



### 1. 目的

- ①英語学習：英語を用いた日常生活を送ることで、コミュニケーションの道具として英語を学ぶ。
- ②異文化理解・自己理解：外国語での生活を体験することで、異なる立場・異なる価値観の存在を理解するとともに、自国の文化や自己を見つめる機会を持つ。
- ③コミュニケーション：ホームステイを通して、自分の気持ちを伝え他者の気持ち理解する力や社会性を磨く。
- ④自然体験：南半球オーストラリアの自然(気候・植物・動物)を直に体験する。

### 2. 内容

#### (1) 事前学習

- ①グローバル探求科目である「教養」「国際理解」「キャリア」を活用し、各自で課題の発見や事前調査、英語によるプレゼンテーション・スキットの準備などを行った。
- ②中学3年の創造祭では、例年とは異なり、初めて「English Skit」に挑戦した。訪問校での上演を目的に、オリジナルの脚本を作成し、生徒たちが主体となって作品を完成させた。内容は、日本の昔話や観光地の紹介、日本とオーストラリアの比較などであった。また、各生徒は自ら設定したテーマに基づき、オーストラリアについて調べ学習を行い、ポスターを作成して展示した。
- ③旅行者 (ISS) による語学研修説明会を実施した。さらに「ホームステイの心得」について教室にて講義を行った(9月21日)。

#### (2) スケジュール

月日	内容
11月3日(土)	16:40 成田空港第2ターミナル集合、19:20 成田空港発 (QF080 便)
11月4日(日)	07:45 メルボルン空港着、乗り換え、12:25 メルボルン空港発 (QF683 便) 13:20 アデレード到着、各ホスト校へ⇒ホストファミリーと対面後、各ホームステイ先へ
11月5日(月) -14日(木)	各学校での体験授業・校外研修など [宿泊] ホームステイ
11月15日(金)	(午前) Farewell party、14:50 アデレード空港発 (QF742 便) シドニーへ 17:15 シドニー到着 乗り換え 21:30 シドニー空港発 (カンタス航空 QF025 便) 羽田へ
11月16日(土)	05:30 羽田空港到着 解散

#### (3) 事後指導

オーストラリアで感じたことや学習したこと、また自身が事前学習で調べた内容をもとに現地で調査・確認したことなどを書いた報告書をひとりひとり作成。



### 3. 成果と課題

(1) 事後アンケート結果 (一部抜粋)

Q1	アデレード語学研修は有意義な研修であったか?	YES 100%	NO 0%
Q2	語学力は向上したか?	YES 94%	NO 6%
Q3	2週間という期間は適切だったか?	YES 69%	NO 31%
* 「NO」とか答えた人のうち、81%が短かった・19%が長かったという内訳であった。			
Q4	高校で留学してみたいか?	YES 62%	NO 38%
Q5	一番身に付いた英語力は?	Listening 52%	Speaking 46%



これらの結果から、生徒の大半が語学研修に満足し、英語力の向上にもつながったことがわかる。Q3では「適切ではない」と答えた生徒が多いように感じるが、そのうちの81%は研修期間が「短かった」と感じており、もっと多くのことを学びたいという意欲的な意見が目立った。また、今回は初めて「English Skit」に挑戦し、日本の昔話や文化を取り入れたオリジナルストーリーをホストファミリーや現地の生徒に披露した。各学校の先生からの評価も高く、今後もぜひ継続してほしいという声が多かった。

(2) 生徒達の感想

- ・現地の学校で先生の話友達に翻訳して助けたり、授業中に積極的に質問に答えたりすることで、英語を話す機会を増やした。また、パティーと休み時間に自分から話題を出すなど、積極的にコミュニケーションを取ることで、全体的に「話す力」や「発表する力」が向上したと感じた。
- ・積極的にコミュニケーションを取ることの大切さを学んだ。異文化の中では自ら行動し、発話しないとわからないことだらけだった。日本ではあまり積極的に話しかける機会が少なかったが、この研修を通じて「自分から話しかける姿勢」が大事であると実感した。
- ・自分の知っている英語の範囲内でしか話せず、ホストファミリーや現地の先生の話の完全には理解できないこともあった。今後は、より多くの英単語を学び、よりスムーズに会話できるよう努力したいと思った。



### 4. 次年度の課題

#### ① Speaking力の向上

自身の考えや思いを伝えることができない生徒がかなり多かった。全体的にListening力はある聞き取ることができるが、そこからの返答にてこずっていた。英語で話す機会をもっと増やしていくことが必要であると感じた。

#### ② コミュニケーション能力の向上

年々、生徒のコミュニケーション能力や積極性が失われてきていると感じる。日本にいるときでさえ、初対面の人に積極的に話していく機会がないなか、海外で慣れない英語でのコミュニケーションともなると、普段よりも積極性が失われていく。英語力向上を大きな目的にしているのであれば、コミュニケーションをなるべくとるような訓練(高校生との交流など)が何かしら必要であると感じた。

#### ③ 目的意識の徹底

語学研修中の生徒の様子を見てみると、旅行気分の生徒や日本人同士ばかりで会話する生徒、授業になると退屈してしまう生徒など、本来の英語力向上や異文化理解などの目的とかけ離れている行動を取る生徒を見かけることがあった。何のための体験授業なのか、ホームステイなのか、校外研修なのか、事前学習で語学研修の目的を徹底する必要があると感じた。

## フィリピン英語集中研修 (中学校2年生)

教諭 井上 博人 (外国語科)

期 間：2024年11月10日(日)～16日(土)

場 所：フィリピン共和国 パナイ島イロイロ市 MK Education

参加者：生徒60名、引率教員3名(井上、村上、加藤)



### 1. 目的

- ① フィリピンの語学学校にて、5日間の集中研修を受講し、英語コミュニケーション能力の向上を図る。
- ② 研修を通じて友人との親睦を深めると同時に集団行動の大切さを学び、協調性、自主性を養う。
- ③ 現地の教員や中学生と交流し、フィリピン文化を学び、異文化理解能力を育成する。

### 2. 内容

(1) 日程

	月日	時間 / 行程
1	11月10日(日)	7:30 成田空港第2ターミナル集合、9:30 成田空港発フィリピン航空 (PR431 便) 13:55 マニラ空港到着後乗り継ぎ、17:55 フィリピン航空 (PR2145 便) 19:15 イロイロ空港到着、専用車にて MK Education 学生寮へ移動、22:30 消灯
2	11月11日(月)	7:00 朝食、8:00～ スピーキングテスト、9:15～ オリエンテーション 9:40-12:10 マンツーマンレッスン、昼食、13:00-14:35 マンツーマンレッスン / グループレッスン 14:50-17:00 市内ツアー (モロ教会、モロマンション、コンベンションセンター、移動はジブニー) 17:00-18:30 夕食、19:00-21:00 自習、22:00 点呼・消灯
3	11月12日(火)	7:00 朝食、8:00-12:10 マンツーマンレッスン、昼食 13:00-14:35 マンツーマンレッスン / グループレッスン 14:50-17:00 クラブハウスでアクティビティ Group 1: 英語講師とレクリエーション Group 2: プール、バドミントン 17:00-18:30 夕食、19:00-21:00 自習、22:00 点呼・消灯
4	11月13日(水)	7:00 朝食、8:00-12:10 マンツーマンレッスン、昼食 13:00-14:35 マンツーマンレッスン / グループレッスン 14:50-17:00 フィリピン中央大学附属中高生との交流会 (1) インタラクティブフォーラム形式自己紹介 (2) フィリピン中央大学附属生によるフィリピン紹介 (3) 本校生による英語落語 (4) 本校生による日本文化紹介 (5) プレゼント贈呈 写真撮影 17:00-18:30 夕食、19:00-21:00 自習、22:00 点呼・消灯
5	11月14日(木)	7:00 朝食、8:00-12:10 マンツーマンレッスン、昼食 13:00-14:35 マンツーマンレッスン / グループレッスン 14:50-17:00 クラブハウスでアクティビティ Group 1: プール、バドミントン Group 2: 英語講師とレクリエーション 17:00-18:30 夕食、19:00-21:00 自習、22:00 点呼・消灯
6	11月15日(金)	7:00 朝食、8:00-12:10 マンツーマンレッスン、昼食 13:00-14:30 修了式、写真撮影、14:50-18:00 SM モール ショッピング 18:30-19:00 夕食、19:00-21:00 帰国準備、22:00 点呼・消灯
7	11月16日(土)	6:50 朝食、8:00 MK Education 出発、10:15 イロイロ空港発フィリピン航空 (PR2145 便)、14:50 マニラ空港発フィリピン航空 (PR432 便)、20:10 成田空港到着

(2) 英語レッスン

11/11(月)～15(金)の5日間、午前中はマンツーマンレッスンを受講した。1対1であるため、絶えず先生からの指示や説明をしっかりと聞き、返答をしなければならない。英語を使い続けなければならないのは大変な



はずであるが、フィリピンの先生方が優しく各生徒のレベルに合わせて指導して下さったおかげで、生徒は楽しく受講することができた。午後は3～4人のグループレッスンとマンツーマンレッスンを1コマずつ行った。

### (3) フィリピン中央大学附属中高生との交流会

Central Philippine University (CPU) への訪問は、中高一貫コース4期生が中二の時(2019年11月)に訪れて以来、5年ぶりのことである。今回はCPUの生徒たちが司会進行を務め、交流会を進めた。交流会では驚いたり、感心したりすることがいくつもあった。まず、私が5年前にCPUにて行ったインタラクティブフォーラム形式のアクティビティを、今回はCPUの生徒たちが音頭を取って実施してくれた。次にCPU生徒によるフィリピン文化についてのプレゼンが、素晴らしいものであった。プレゼンのところどころで実演が入り、聴衆が理解しやすかった点や、歌や踊りも入り大変盛り上がった。そして、CPUの生徒たちは大変フレンドリーで、交流活動に積極的に参加してくれた。本校生による英語落語や日本文化紹介も興味深く聞いてくれて、たくさんの質問をしてくれた。英語落語についてはもう一回やってほしいというリクエストがある中、名残惜しいといったところでお別れとなった。生徒たちにとって思い出深い日になった。

### (4) 事後指導 フィリピンエッセイ (seitasakuhinn)

Essay about Study in the Philippines

I went to the Philippines to study English from November 10 to 16. First, I was a little nervous, but I really enjoyed it. There are two reasons.

First, the teachers at MK education School were very kind and friendly. One of them is Ms.Mariel. She was good at teaching English, because she taught kindly when I couldn't understand. She knows a lot of Japanese. For example, takoyaki, natto, anime and so on, so I really enjoyed talking with her.

Second, SM mall was a lot of fun. We went there to buy souvenirs. I bought a lot of souvenirs. For example, T-shirts, papaya soap, dried mango, and so on. It was my first time shopping abroad, but I was able to buy it right. I was able to give my parents souvenirs when I got home. It was good shopping.

I really enjoyed lessons and shopping in the Philippines. I had a good experience. I want to go there again.

## 3. 成果と課題

マンツーマンレッスン、グループレッスンをバランスよく受講できた。マンツーマンレッスンでは、絶えず英語を使用しなければならず、Listening と Speaking の力を伸ばすことができたと思われる。夜の自習も各自1部屋割り当てられていて学習に集中できる環境であった。フィリピン中央大学附属の中高生との交流もしっかりとコミュニケーションをとることができた。

課題は研修地が熱帯地域であるため体調管理が難しく調子を崩す生徒がいたことである。MK Education の宿舎も老朽化しているため研修場所を再検討する必要がある。また、成田空港出発時にeTravelの入力ミスがあり、その場で入力し直した生徒が若干名いた。顔写真の自撮りや署名など、保護者が代わりに行うことはできない箇所があるため、今後は旅行代理店担当者や教員と一緒に入力する機会を設けたほうが良い。

## 課題解決型・ハワイ修学旅行(高校2年生・進学コース)

教諭 寺田 千広 (地理歴史・公民科)

期 間: 2024年11月10日(日)～14日(木)

場 所: アメリカ合衆国 ハワイ州・オアフ島

参 加 者: 生徒89名、引率教員6名(学校長、2学年主任、担任3名 副担任1名)

### 1. 目的

- ①『知見の拡充』…もの本質に迫る
- ②『平和学習』…平和の尊さを考える
- ③『グローバル教育』…日本人としてのアイデンティティを見出す
- ④『人とのふれあい』…情操を豊かにする
- ⑤『集団行動の実践』…自ら考えて主体的に行動する



### 2. 内容

#### (1) 事前指導スケジュール

- ・6月14日(金) 探究をテーマとした「修学旅行探究ノート」JTB 第1章 実施
- ・7月12日(金) 2回目 「修学旅行探究ノート」探究2章と3章 実施
- ・夏休み課題:「修学旅行探究ノート」第4章 テーマに沿った「情報を集める」を夏課題
- ・9月13日・14日 創造祭でグループ毎の課題テーマをスライドでスクロール展示

#### (2) 日程

月日	現地時間	スケジュール
11月10日(日)	18:00	(東京)羽田空港第3ターミナル集合、搭乗・出国手続き
	21:00	羽田空港発 ホノルルへ
	9:00	(ホノルル)ダニエル・K・イノウエ国際空港到着・入国手続き
	10:30	ハワイ文化学習「ビショップ博物館」
	12:00	カピオラニ公園/ワイキキ自由散策(昼食)
11月11日(月)	14:30	ロイヤルハワイアンセンター集合の後貸し切りバスで移動
		アラモアナホテル到着 チェックイン
	18:00	夕食(GARDEN LANAI)
	7:00	朝食(GARDEN LANAI)
11月12日(火)	8:30	平和学習 パールハーバー「戦艦ミズーリ」「アリゾナ記念館」
	12:30	ハワイ文化学習と自然体験 クアロア牧場にて
	18:00	アラモアナホテル着 アラモアナショッピングセンターで自由行動(夕食)
	7:30	朝食(GARDEN LANAI)
11月13日(水)	8:30	交流プログラム ハワイ大学生とテーマ班に分かれ探究活動
	13:00	アラモアナホテル到着 自由散策
	16:30	ディナークルーズ ハワイ文化体験と夕食
11月14日(木)	7:00	朝食(GARDEN LANAI)
	11:55	ダニエル・K・イノウエ国際空港発 東京羽田へ
11月14日(木)	15:55	(東京)羽田空港到着、入国手続き ターミナル出口にて解散

### 3. 評価と課題

**疑問・テーマ:**  
**ハワイの自然が**  
 ユニークな理由  
**及びハワイの環境**  
10組1班

**班メンバー** 坂巻すず 山口友暉 入佐美羽  
 貝塚優衣 鐵太彦 成島諒

**仮説**

**ハワイは年間平均気温が高いため、自然がユニークである。**

**理由** ハワイは一年を通して雨が少なく、気温も24～30℃ほどの温暖な気温であるため。

**その他考えられる仮説**

1 空気の綺麗さ	2 降水量	3 火山
特にホノルルは貿易風の影響やガソリン車の減少により全米で3位の空気の綺麗さをもつ。	降水量が年間を通して少ない。乾季と雨季に分かれているが、雨季と比べて降水量が少ない。	火山から出る溶岩や火山灰によって生き延びるのが困難な中で独自の進化して生き延びている植物や動物などがある。

**現地で注目してみたいところ**

<p><b>💡</b>            ハワイでは、プラスチックによる環境汚染を防ぐために、プラスチック製のフォークやナイフ、発泡スチロール製のコーヒーカップやプラスチックの蓋付き容器の使用、提供が禁止されていて、カフェのストローなどは全て紙製になっていたり、ストローを使わなくても良い容器に変えるなどしているところ。</p>	<p><b>🔍</b>            サンゴ礁への有害な成分が含まれた日焼け止めの販売を禁止しているところ。</p>	<p><b>☀️</b>            ハイビスカスは、ハワイで一年中目にすることができる花。赤やオレンジ、黄色、白、ピンクなど沢山の種類があるため注目して見たい。</p>
--	--	--

#### (1) 評価

上のスライドは、ハワイで実施した課題探究の校内発表会で、生徒の評価が一番高かったグループが作成したものである。以下、このグループへの生徒及び教員の評価（一部抜粋）を掲載する。

- <生徒評価>・実際に現地で調べたことが細かく書かれていて新しく知ることが多かった。
- ・ハワイに行く前と後の経過の作業が細かく書いてあってわかりやすかった。
  - ・気候の細かい特徴などから環境への影響や取り組みを考えまとめている、凄くわかりやすい。
- <教員評価>・少ない時間で、事前に良く調べ、現地大学生とコミュニケーションをとりながら調査をし、結論まで導けたことは評価できる。時間を守り、海外で安全に行程を終えた点も高く評価する。

#### (2) 今後の課題

現地調査の時間が限られているため、事前準備（課題・仮説の設定、文献調査）が重要となるが、修学旅行は行き先が選択制でクラス単位の実施ではないため、課題探究グループメンバーが集まる時間を確保するのが難しかった。時間割を工夫して、もう少し準備時間が増やせると、生徒にもっと深い学びを与えられると思う。

## シンガポール研修（高校2年生・中高一貫コース）

教諭 中村 一広（理科）

期 間：2024年12月12日（木）～12月17日（火）  
 場 所：シンガポール大学（宿泊：Hwa Chong Institution Boarding School）  
 参 加 者：生徒67名 引率教員3名

### 1. 目的

5年間の一貫コースの探究学習の総仕上げとしてシンガポール大学の学生との交流ならびにシンガポールの生活や文化等を体感することでグローバル人材としての一層の成長を目指す。

### 2. 内容

〔食事〕朝食：宿泊施設内の食堂、昼食・夕食：行程により宿泊施設内の食堂もしくは外食

日付	時間	内容	宿泊	食事		
				朝	昼	夜
1 12月12日(木)	07:00 10:00 16:40	成田空港 第1ターミナル（南ウイング）集合 飛行機（シンガポール航空637便）にて空路シンガポールへ シンガポールに到着、専用車で学生寮へ移動 チェックイン及び現地生活オリエンテーション	学校寮	-	機内	○
2 12月13日(金)	午前 午後	ゲストスピーカーセッション (NUS Venture Company WaterRoam) 市内観光（歴史・多文化共生社会を学ぶ） Chinatown・Arab Street・Little India ゲストスピーカーセッション (Ocean Network Express Pte. Ltd.)	学校寮	○	○	○
3 12月14日(土)	終日	市内観光（現地学生と一緒に） /牛久生徒と現地大学生のグループで観光スポット巡り テーマに沿って、現地の人にアンケート・インタビュー 市内観光（異文化理解） Marion Park・Gardens by the Bay・Spectra light show	学校寮	○	○	○
4 12月15日(日)	午前 午後 夜	市内観光（歴史認識・平和学習・異文化理解） National Museum・日本人墓地・Former ford factory・ War memorial park シンガポール大学訪問（プレゼンテーション発表・大学生交流） ナイトサファリ	学校寮	○	○	○
5 12月16日(月)	終日 夕刻 20:55 23:55	ユニバーサル スタジオ シンガポール 専用車でシンガポール空港へ移動 チェックイン・出国手続き 飛行機（シンガポール航空638便）にて空路成田へ	機内	○	○	○
6 12月17日(火)	07:30	成田空港 第1ターミナル（南ウイング）到着後、解散	機内	-	-	-

〔事前指導〕第1回説明会 6/22（土）・第2回説明会 11/2（土）、事前アンケート、他に総合的な学習（課題研究）  
 〔事後課題〕「課題研究レポート」の作成、事後アンケート

本校でコロナ禍後に高2一貫コースに在籍する生徒全員を対象として初めて実施する。研修プログラムは以前実施されたものに従い株式会社国際交流センター（ISS）の協力いただき実施する運びになった。参加者は昨年度、アデレード語学研修に参加した経験があり、事前準備は順調に行うことができた。シンガポールでは現地の文化体験、平和教育、シンガポール大学の大学生との交流、グローバル企業の方からの講話などを実施した。

### 3. 評価と課題

設問	選択肢	事前 (n=68)	事後 (n=59)	(事後) - (事前)
1 英語をもっと勉強したいと思う	そう思う	55.9%	59.3%	3.4%
	どちらかといえばそう思う	38.2%	27.1%	-11.1%
	どちらかといえば思わない	4.4%	10.2%	5.8%
	そう思わない	1.5%	3.4%	1.9%
2 英語を話すのが楽しいと思う	そう思う	32.4%	39.0%	6.6%
	どちらかといえばそう思う	51.5%	40.7%	-10.8%
	どちらかといえば思わない	14.7%	16.9%	2.2%
	そう思わない	1.5%	3.4%	1.9%
3 海外に行くのが楽しみである	そう思う	72.1%	57.8%	-14.3%
	どちらかといえばそう思う	25.0%	22.0%	-3.0%
	どちらかといえば思わない	1.5%	6.8%	5.3%
	そう思わない	1.5%	13.6%	12.1%
4 世界のことをもっと知りたいと思う	そう思う	51.5%	54.2%	2.7%
	どちらかといえばそう思う	38.2%	28.8%	-9.4%
	どちらかといえば思わない	5.9%	11.9%	6.0%
	そう思わない	4.4%	5.1%	0.7%
5 さまざまな国の人々と積極的にコミュニケーションを取りたいと思う	そう思う	47.1%	45.8%	-1.3%
	どちらかといえばそう思う	41.2%	35.6%	-5.6%
	どちらかといえば思わない	10.3%	8.5%	-1.8%
	そう思わない	1.5%	10.2%	8.7%
6 将来の夢や目標を見つけたい	そう思う	44.1%	54.2%	10.1%
	どちらかといえばそう思う	44.1%	37.3%	-6.8%
	どちらかといえば思わない	11.8%	0.0%	-11.8%
	そう思わない	0.0%	8.5%	8.5%

#### 〈評価・課題〉

参加生徒の事前事後アンケートの結果を分析する。設問1「英語をもっと勉強したいと思う」は意識の変化が2極化している。これが設問2「英語を話すのが楽しいと思う」、設問4「世界のことをもっと知りたいと思う」においても同様の傾向がみられる。設問3「海外に行くのが楽しみである」は意識が高い生徒が否定的な回答になっていること。これは私自身も感じたプログラムがかなり濃い内容になっていたこと等が考えられる。設問5「さまざまな国の人々と積極的にコミュニケーションを取りたいと思う」、設問6「将来の夢や目標を見つけたい」も設問3と同様の傾向があることからプログラムが生徒たちのイメージと大きく異なっていることが考えられ、肯定的な回答になった生徒もいるので外国語の会話レベルやコロナ禍の影響での体験の差なども要因が想定される。全体の評価としては、海外への意識や外国語に対する意識が低下した生徒が多いといえる。



今後の課題として、本年度のプログラムを一部見直す必要が考えられる。高温多湿の環境での移動や宿舎に20時以降に到着するなどスケジュールにとても厳しい面があり、中2でのフィリピン語学研修を未経験という点から海外研修への対応経験からも印象が悪くなってしまったと言える。その影響から意欲や向上心がアンケート結果に反映されていないと考えられる。その為、研修プログラム以外の生活面にも着目して準備を進めていく必要があると考えられる。

## British Hills 語学研修

教諭 先田 興為智 (外国語科)

期 日：2025年1月5日(日)～1月7日(火)

場 所：福島県 British Hills

参加者：生徒45名(高校1年生19名、高校2年生26名) 引率教員2名

### 1. 目的

グローバル人材育成のため、語学学習及び国際理解を深める場を設定する。日常とは違った環境に身を置き英会話レッスンと異文化体験、合宿生活を行いながら参加生徒の英語を話すことへの抵抗感をなくす。また、英語学習に対する動機を高める。

### 2. 内容

#### 《日程》

Sunday, 5 January	Monday, 6 January	Tuesday, 7 January
	7:30 Buffet Breakfast (refectory)	7:20 Buffet Breakfast (refectory)
9:30 出発 Have Lunch on the way 上河内 SA にて昼食	09.00-10.30 Lesson 2 Travel in the UK Group 1:(Br-Trafalgar) Sean Group 2: (Br-Balacalava) Emma	Check out before 08.50 and store luggage 9.00-10.30 Lesson 6 Introducing Japan Group 1: (Henry II lounge) Graham Group 2: (Newton lounge) Donovan
	11.00-12.30 Lesson 3 Introduction to Discussion Group 1: (Br-Trafalgar) Emma.V Group 2: (Br-Balacalava) Paula	11.30 Leave British Hills by own transport
	14.00 Arrive at British Hills by own transport Store Luggage Check in, Orientation & Guide to Dining	12:50 Buffet Lunch (Refrctory)
After 15.00 -transfer to Rooms-	14.00-15.30 Lesson 4 Cooking Scones Group 1: (Br-Trafalgar) Donovan Group 2: (Br-Balacalava) Brett	
16.00-17.30 Lesson 1 Survival English Group 1: (Br-Balacalava) Paula Group 2: (Br-Trafalgar) Graham	16.00-17.30 Lesson 5 Why Should you study English? Group 1: (Br-Trafalgar) Emma Group 2: (Br-Balacalava) Randy	
Change for Dinner	18:00 Dinner (Dining Hall)	
18:10 Buffet dinner (refectory)		
-Free Time Activities- 【CHALLENGE】① 19.30-19.55 / ② 20.05-20.30 Victoria Alley 8.00-19.00 Gym -22.00 / Pub - 22.00	-Free Time Activities- 【CHALLENGE】① 19.30-19.55 / ② 20.05-20.30 Victoria Alley 8.00-19.00 Gym -22.00 / Pub - 22.00	



### 3. 成果（生徒の振り返り）

#### ① Survival English

チームで協力して教室の壁や廊下に掲示されているヒントをもとにクイズをしたり、チームをシャッフルしてすごろくをしたりした。疑問詞の活用法についての理解が深められ、疑問詞を用いたコミュニケーション活動を行うことができた。

#### ② Travel in the UK

イギリス出身の担当講師によるイギリスの名所や、世界的に有名な食事についてのクイズやゲームを通して、イギリスについての様々な知識を得ることができた。

#### ③ Introduction to Discussion

話し合いをするときに必要なフレーズを学び、実際に様々な場面を想定したディベートを行った。ディベートを通して、英語で自らの意見を的確に述べる方法を実践的に学べた。

#### ④ Cooking scones

スコーンの起源を学んだあと、スコーン作りを体験した。講師の方の英語が大変分かりやすく、身振りや手ぶりを使って実演しながら作り方を教えてくださったので、初めてのスコーン作りであったが、楽しみながらスコーンを作れた。また、他のイギリス伝統料理を学んでみたいと感じた。

#### ⑤ Why should you study English ?

「英語をなぜ勉強するのか」というテーマで自分の意見をまず明確にし、他グループへのインタビューやシチュエーションの異なる意見を考えながら、グループ発表を行った。与えられたテーマに対して自らの意見を英語で適切に表現する力が身に付いた。

#### ⑥ Introducing Japan

日本の文化について英語だけでなく、ジェスチャーを用いながらグループ毎に発表した。この活動では改めて自国の文化について理解を深められただけでなく、英語でより伝わる発表方法を工夫しながら学ぶことができた。

### 4. 課題

普段の本校での40名前後で行う一斉授業とは違い、英語ネイティブ教員による小グループでの英語のアクティブラーニングを集中的に行うことができる3日間であった。また、売店や受付など施設内全ての使用言語が英語なので、あたかもイギリスに語学研修で来ているような環境で過ごすことができていた。本研修に参加した生徒が、その後の本校での学習活動で他の生徒に良い影響を与えることができるような事後指導を今後は模索しながら、『グローバル社会を生き抜く力』を一人でも多く、本校の生徒の中へと育成していきたい。



## 2024年度本校グローバル人材育成事業の成果と課題

主事 石塚 俊文（地理歴史・公民科）

### 1. 学校設定科目「グローバル探究」

表1 2024年度校外発表参加者に占める「グローバル探究」履修者の割合（高校）

校外発表項目	参加生徒延べ人数	うち「グローバル探究」履修者	
		人数	割合
外国語スピーチ	20	20	100.0%
英語ディベート	134	134	100.0%
課題研究	14	11	78.5%
計	168	165	98.2%

表2 トビタテ！留学 JAPAN 派遣留学生採用者に占める「グローバル探究」履修者

年度	本校採用者数	うち「グローバル探究」履修者数
2016-2021	9	7
2023	2	1
2024	2	2
計	13	10

今年度、本校（高校）で英語・中国語・フランス語のスピーチコンテスト、ディベート大会、課題研究の校外発表に参加した生徒数は延べ168名、うち165名が「グローバル探究」履修者（グローバル・特進・中高一貫コース）であった（表1）。また、トビタテ！留学 JAPAN には、2名が採用され、2名とも「グローバル探究」履修者であった（表2）。これらの成果は、「グローバル探究」の授業がプレゼンテーション能力の向上や主体性の育成に一定の効果を示したことを証明した事例であるといえる。

### 2. 海外研修・留学

今年度はハワイ修学旅行（高2進学）が再開され、海外研修はコロナウイルス感染症流行以前の状況に戻った。一方、高2特進コースのオーストラリア研修がホームステイから大学寮滞在に変更されたため、海外でのホームステイ実施者数は大幅に減少、ターム留学についても参加条件の見直しがあり、大きく縮小した。（表3）

表3 海外研修および海外ホームステイ参加者数・留学者数の年度別推移（延べ人数）

項目		2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
海外研修	中学校	127 (72)	111 (52)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	133 (66)	124 (60)
(ホームステイ参加者数)	高校	364 (177)	446 (164)	0 (0)	6 (6)	203 (95)	289 (244)	355 (77)
ターム留学	高校	0	7	0	2	29	13	2
1年留学*	高校	1	3	0	1	2	1	1

\* 1年留学については当該年度に留学を開始した人数

### 3. 訪日団・留学生受け入れ

表4 訪日団・留学生受け入れ人数および本校生によるホームステイ受け入れ人数の年度別推移

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
訪日団・留学生受け入れ人数	111	108	1	0	2	18	85
(うちホームステイ受け入れ人数)	(43)	(79)	(0)	(0)	(0)	(0)	(67)

今年度は5年ぶりに生徒宅でのホームステイ受け入れが復活した。中国、オーストラリア、フィリピンの高校生計67名が本校生62名（うち1名は卒業生）の家庭にホームステイした。（表4）

### 4. 英語検定

次のグラフは、本校高校生の英検2級以上取得率・取得最高級内訳の年度別推移を、学年別に示したものである。取得率は高校2・3年生が昨年並み、高校1年生が昨年よりやや低くなっており、高校全体の取得率は昨年度の36.2%から0.3%減の35.9%となった。コース別にみると進学コース、中高一貫コースについては準2級でとどまっている生徒の割合が高く、多くの生徒が2級取得に至っていない状況が読み取れる。（表5）

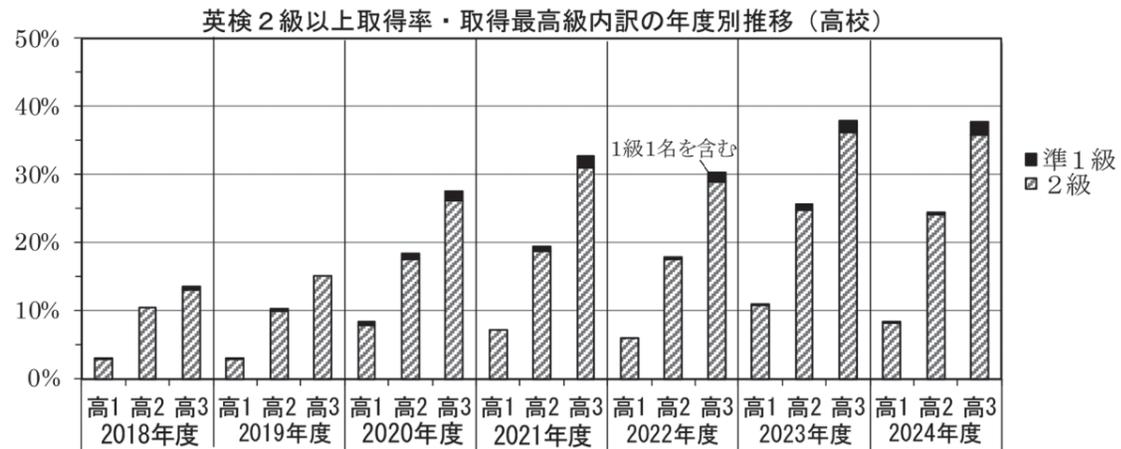


表5 2023年度 学年・コース別英検取得状況 各自の取得最高級(2025年3月14日現在)

学年	コース	在籍数	準2級		2級		準1級		計(準2級以上)	
			人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
中学1年	中高一貫	66	1	1.5%	2	3.0%	0	0.0%	3	4.5%
中学2年	中高一貫	64	5	7.8%	1	1.6%	0	0.0%	6	9.4%
中学3年	中高一貫	66	28	42.4%	2	3.0%	0	0.0%	30	45.5%
高校1年	進学	357	143	40.1%	10	2.8%	0	0.0%	153	42.9%
	グローバル	37	19	51.4%	15	40.5%	0	0.0%	34	91.9%
	特進	113	67	59.3%	12	10.6%	0	0.0%	79	69.9%
	スポーツ	35	3	8.6%	0	0.0%	0	0.0%	3	8.6%
	中高一貫	64	23	35.9%	13	20.3%	1	1.6%	37	57.8%
	計	606	255	42.1%	50	8.3%	1	0.2%	306	50.5%
高校2年	進学	378	143	37.8%	57	15.1%	0	0.0%	200	52.9%
	グローバル	33	5	15.2%	20	60.6%	1	3.0%	26	78.8%
	特進	63	19	30.2%	34	54.0%	0	0.0%	53	84.1%
	スポーツ	37	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	中高一貫	72	24	33.3%	30	41.7%	1	1.4%	55	76.4%
	計	583	191	32.8%	141	24.2%	2	0.3%	334	57.3%
高校3年	進学	401	213	53.1%	110	27.4%	1	0.2%	324	80.8%
	グローバル	35	0	0.0%	30	85.7%	3	8.6%	33	94.3%
	特進	78	5	6.4%	50	64.1%	6	7.7%	61	78.2%
	スポーツ	26	8	30.8%	1	3.8%	0	0.0%	9	34.6%
	中高一貫	40	17	42.5%	17	42.5%	1	2.5%	35	87.5%
	計	580	243	41.9%	208	35.9%	11	1.9%	462	79.7%

## 5 次年度以降の課題

- ①海外研修費用の上昇対策。
- ②1年留学の件数増加。
- ③留学生・訪日団の受け入れプログラム充実。
- ④課題研究郊外発表者の増加。
- ⑤英検2級以上取得者の増加。
- ⑥外国語スピーチコンテスト参加者の増加。
- ⑦英語ディベート指導者の育成。
- ⑧海外大学進学者の増加。

2024  
グローバル人材育成事業  
SGH ネットワーク  
活動報告書

発行

 **東洋大学附属牛久中学校・高等学校**

〒300-1211 茨城県牛久市柏田町 1360-2

TEL.029-872-0350 (代) URL.<https://www.toyo.ac.jp/ushiku/>

---

〈発行者〉金澤利明 〈発行日〉2025年(令和7年)3月31日 〈制作〉(株)図書出版

**東洋大学附属牛久中学校・高等学校**